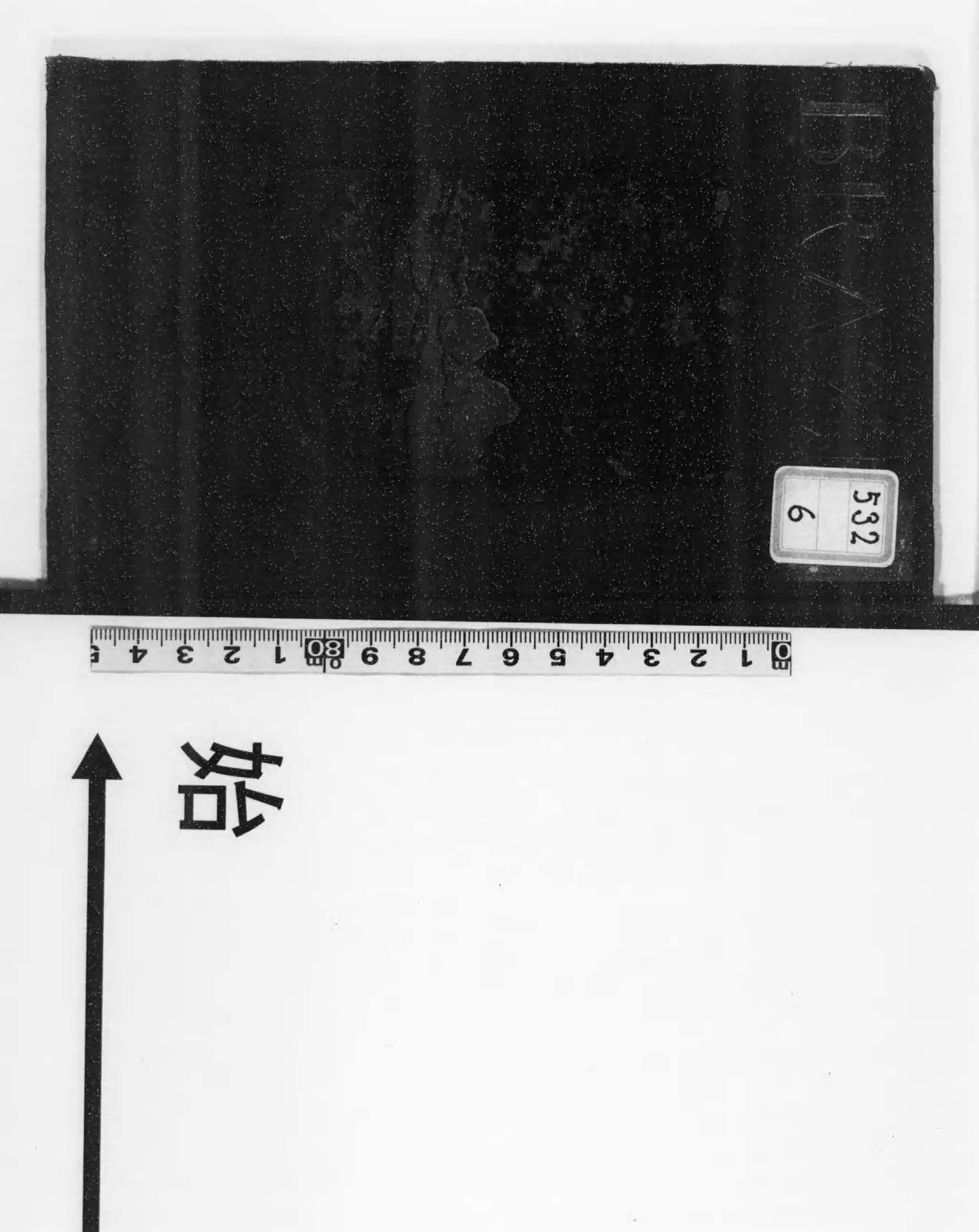
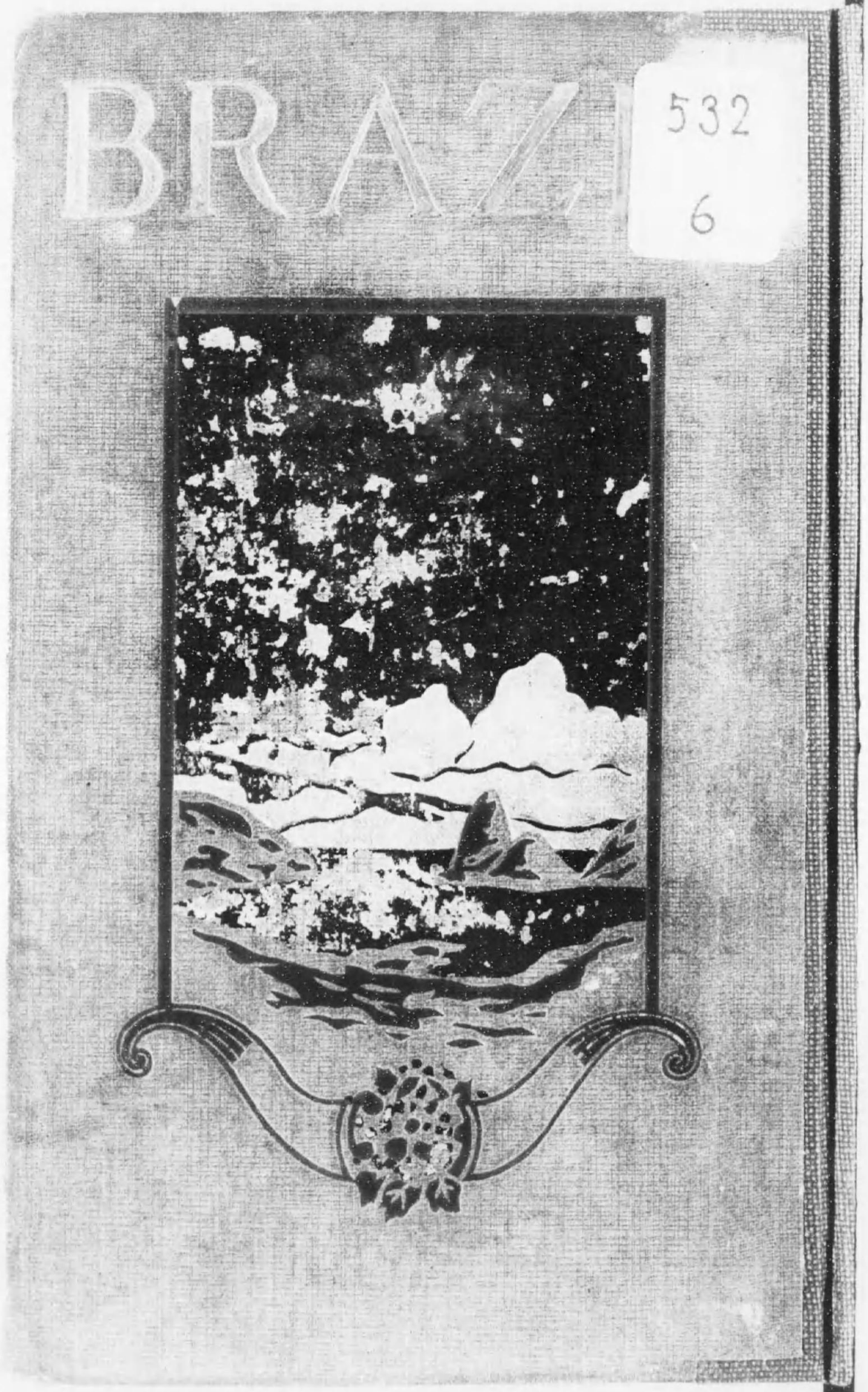

532
6
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5
谷



532
6

トエ<W-87

南米の寶庫

伯剌西爾

竹澤太一著

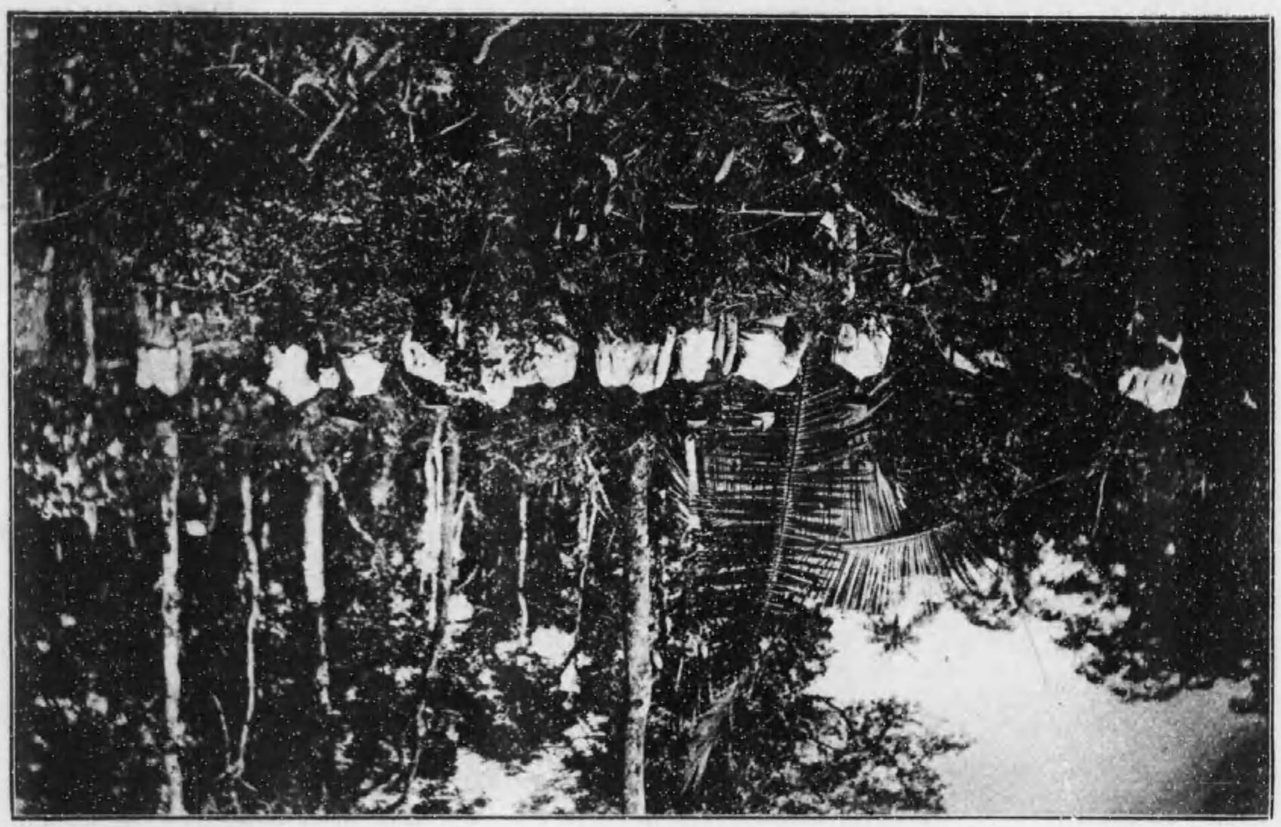
東京 社スムイタ・ンパヤジ 發行

大正
13.9.29
内交

本書を在伯

三萬五千有餘人

の同胞に捧ぐ



ウニヤヤンの耕地造成林と伐木隊

132-6

本書の一部は、大正十二年九月外務省通商局が「伯剌西爾事情」と題し頒布せるものであつて、出版に際し同局は次の如く述べて居る。

「本書は衆議院議員竹澤太一氏か曩に伯剌西爾國を實地視察せる所に基き氏一家の意見を披瀝せられしものにて固より其記述全體が當省の所見と一致したりといふに非らざれども移民問題に關する所論は甚だ有益なる資料と認めたるより特に同氏の承諾を得て茲に印刷に付する事と爲せり。

大正十二年九月　　外務省通商局」

當時余は亦余の緒言に於て、他日機會を得ば余の視察記全部を公表することあるべしと約した。爾來移民問題關係の海

外事情は益々急迫を告げ、北米の門全く鎖されて、獨り南米のみを殘すことゝなり、伯剌西爾移民の聲亦從つて大を加へ來りたるを以て、是當に余の視察記と所見全部を公表するの好機たるべきを信じ、茲に之を出版することゝ爲つた。伯剌西爾を問題とする大方の爲めに多少の資料たるを得ば、洵に余の欣快とする所である。

本書引用の文献並に伯剌西爾國内の實地視察に關しては、本邦駐在官憲同胞の有志者及伯剌西爾官憲等の厚意斡旋に負ふ所少くない。又本書出版に關しては外務省通商局及伯剌西爾關係の諸團體より多大の後援を寄せられて居る。何れも余の感謝措く能はざる所である。

大正十三年八月　　著　者

緒　言

我國に於て南米問題の論議せらるゝこと、決して一朝一夕の謂ひでは無い。而も其實績の見るべきもの多からざるは、抑も何に基因するであらうか。勿論之には種々の原因ありて、一概に之と指摘することは困難であるとするも、余輩の所見を以てすれば、南米事情が能く我國上下に理解せられざるが爲めであると云ふの外はない。殊に余輩の茲に說かんとする伯剌西爾國の如き、豐富なる天然と無限の生產力とを有する廣漠たる沃野に滿ち、一度開發の眼を以て之に臨めば、勞働資本を待つの題目殆んど無數なるに拘はらず、伯國は其領域大なるに比して人口極めて稀薄なり、而して其大部分は暑熱甚だしく、到底文明人の棲むに適せず、本邦よりの移民はやがて棄民に終はるべしといふが如き、二三の漠然たる概念の流行せるに過ぎない。是れ歐米諸國が移民を奬勵すると同時に、或はより以上に資本の投下を先きとし、

種々なる生産的事業に携はりつゝあるに際し、我國は僅かに三萬五千の移殖民を送りたりといふのみにて、何等企業開拓の計畫に出でず、漫然として今日に及べる所以である。

此の如きは日伯間の距離如何にも遠隔にして、隣國支那を談ずるが如くならず、又我邦資本家の投資對象も戰前戰後周圍に忙しくして、遠方未知の地を擇むを便とせざりしに因由するが爲めであらう。けれど今日に在つては情勢必ずしも昔日に同じくは無い。民衆は自家の生活問題より、資本家は其資本の有利なる活用より、國家は國勢の發展より、相率ゐて海外を問題とせざるを得ざる機會に遭遇してゐる。故に伯國を移殖民地として更に一段の奬勵を必要とすること固より言を俟たず、又之と同時に放資國としての調査研究を盛にし、前者と相俟つて無限なる此天惠國の開發に當るべきであらう。

されど先に余輩の言へるが如く、伯國に對する我國民の知識は、啻に移殖民關係に於てのみならず、伯國其物としての知識極めて淺薄である。移民を營利とする者は移民直接の事業を說いて、之を必要とする大なる背景を說くに充分でない。伯國は珈琲を以て主要産物とする。けれど珈琲栽培は伯國農業の全部ではない。世界の勞働を要求する伯國の事業は甚だしく多數であり有望である。此意味に於て伯國の天然を知り人を知るは最も必要の準備であり、更に遡つて其歷史由來を繹ぬるは、全體としての伯國を知るに於て又不可缺の段階であらう。余輩が本書の第一編に於て伯剌西爾及び伯剌西爾人を說けるは、蓋し之が爲に外ならない。

伯國に對する我國從來の移殖民の勸說的記述は余輩の見に從へば、關係當事者としての色彩が餘りに濃厚であつて、第三者として公平なる叙述に忠ならざるの憾みがある。現今の逼迫せる生活が、我國人の多數をして何等かの打開を餘儀なくせしめて居るが、之が爲めの資料としての伯國現狀の敍述には、誇大と誘惑とを避けなくてはならぬ。何となれば只正直なる事實の說明、純眞なる印象の發表が何物に

も勝りて雄辯であるからである。而して其說明發表に何程かの興味を感じ、發憤決意の機緣を得たとするならば、そは事實の有する魅力である。或る同胞殖民の一人が、契約による農業の爲めの渡來を快とせざるも、全體より見る伯國農業の有望無限なるに驚かざるを得ないと云へるが如き、當に此消息を傳へたものであつて、第二編に於ける余輩の移殖民論は、伯國に於ける三萬五千の同胞の現狀と將來とに關し、忠實なる記述を試みたに過ぎない。額に汗するを辭せざる者を待つ伯國の天惠は、遙かに人工の筆舌を超絕して居る。

未曾有の大震災に遭ひ、百億の富を灰燼に歸し、而かも資力を海外に求めて復興の事に專念たる時に際し、余輩の伯國投資を說くを聞かば、人は以て痴人の夢よりも甚だしと爲すであらう。けれど生絲のみを特產品として、大部分の工業原料を海外に仰ぎ、而も生產費の格外に高價なるが爲めに、世界の四隅に市場を狹むる我國の現狀は如何に見るべきであらうか？　殊に勞銀の不廉なるが爲めに、衣食住の必要品すらも輸入品を便とする昨今の狀勢は、抑も何に原因するであらうか？　一國經濟の平衡は出づるを以て能く入るを制するに在りとするならば、震災前に於ける幾億の輸入超過に、至甚の注意を要すべきであると同時に、我生產界の將來に深く思ひを廻らさなくてはなるまい。加ふるに現今に於ける投資傾向は、我生產業に直接ならざる方面に比較的高利を以て需要せらるゝことであつて、外に向ふべき工業品の生產機關は大災の破壞の儘に委せられてある。卽ち資本の活潑なる利用ではなくて安全第一の姑息運動であり、輸出入の均衡に直接の影響を招來し得ないものである。

余輩の玆に說かんとする伯國投資は、平時にありては言ふを俟たず、今日の如き非常時にありても、能く資本活用の新局面を提供するものと言ふことが出來る。卽ち資本其物としては國內投資と比較して、より以上の利潤を擧げ、之に依りて生產せられたる物資は、我國工業の原料として供給すべく、更に同胞移殖民と關係して

は、其永久と確實とを期し得るものである。且つ歐米諸國殊に英國の如き幾十億の戰債を米國に負ひ乍ら、猶伯國投資を念として止まざるが如き、本邦資本家の當に三思すべき所でなくてはならぬ。

最後に余輩の一言を加へんと欲するは、伯國移殖民並に投資に際し、吾人の取るべき態度である。卽ち苟くも之を他國に試むる以上、之に依つて其目的を達すると同時に、又其國土の繁榮隆昌を期することである。通俗にいへば「人も好かれ吾も好かれ」である。人口過剩の故に一人にても半人にても海外に送りたし、又投資せるからは、其國の利不利を思はず根こそぎ掻き集むべし、而して得たる利益はどしどし本國に送金すべし、見込なきに至らば他に轉じ、又は餘財を抱いて鄉里に歸るべし、要するに其間の辛棒なり、生國其儘の言語習慣を維持して、其國人に同化融合せざるも差支なしといふが如きは、餘りに利己一遍の不通論であつて、これ實に從來海外に散ぜる同胞の到る處に難聲を聞き、天涯地角容るゝ處無からんとする情勢を釀せる主因である。洵に痛嘆の極ではあるが、事實は如何ともすることは出來ない。故を以て事業の成功を期する爲にも、比較的日本に好感を有する伯國及伯國人に對しては、之を再びせざるを期し、狹隘なる鄉土心、排他心に囚はるゝ事となく、常に濶達寬容の心を持し、共存共榮彼我其澤惠を享くるの覺悟無くてはならぬ。又此の如きは海外に在住する者の第一の德義であつて、此心を外にしては、決して眞の成功を贏ち得るものではない。

南米の寶庫

伯刺西爾

目次

緒言……一
第一編　伯刺西爾及伯刺西爾人……一
第一章　伯刺西爾の歴史……一
第一　伯刺西爾の發見……一
第二　封建時代……四
第三　帝政時代……一〇
第四　共和政時代……一四
第二章　伯刺西爾の自然……一九

第一　位置及廣袤……一九
第二　地　勢……二〇
第三　氣　候……二三
熱帶　亞熱帶　溫帶
第三章　伯剌西爾の人……三〇
第一　人　種……三〇
第二　近代移殖民による外來要素……三四
第三　人　口……四五
第四章　交通運輸……四八
第一　河海と船舶……四八
第二　道路と鐵道……五三
第五章　伯剌西爾の產業……六三
第一　珈琲業……六三
第二　護謨業……七三
第六章　伯剌西爾の社會……八一
第一　社交の中心……八一
第二　宗教と教育……八五
第三　伯剌西爾婦人と家庭……九二
第四　伯剌西爾の文藝……九七
第五　戶外運動と富籤……一〇三
第七章　伯剌西爾の內政及外交……一一〇
第一　內　政……一一〇
第二　外　交……一一四
第二編　伯剌西爾と同胞移殖民……一一八

第一章　移殖民の本義……一一八
第一　我國人口の增加……一一八
第二　よりよき生活……一二三
第三　環境に對する適應……一二五
第二章　伯刺西爾に於ける同胞移殖民の現況……一二八
第一　同胞移殖民の現在數……一二八
第二　同胞の增加……一三〇
第三　分布狀態……一三一
第四　他國民と伯國移殖……一三三
第五　移殖民と伯國……一三六
第三章　リベロン・プレート地方……一三七
第一　同地方概況……一三七

第二　平均年收支……一三七
第四章　ノル・オエステ地方（西北部）……一四三
第一　新進のウニオンとプロミッソン……一四二
第二　珈琲栽培……一四八
開墾　植付　開花結實　間作
第三　平均年收入……一五一
珈琲園主の收支—就働移民一家の收支—自營開墾者收支
第五章　イグアッペ殖民地……一五七
第一　現在の業績……一五七
第二　地勢と其將來……一六一
第六章　將來の同胞移殖民……一六四
第一　伯刺西爾に於ける人種問題……一六四

第二　無差別待遇と憲法の保障……一六六
第三　其實際如何……一六七
第四　排日運動……一六九
第五　移民の歸化……一七一
第六　二重國籍と兵役……一七四
第七　同胞の修養と敎育……一七七
第八　青年の敎導と配遇問題……一八一
第九　醫師及產婆……一八四
第一〇　倉庫及金融機關……一八七
第一一　知識分子の移入……一九一
第三編　對伯投資……一九五
第一章　國債、州債、市債及社債……一九五

第二章　特許企業……二〇〇
第三章　各種工業……二〇三
第一　伯刺西爾の工業概觀……二〇三
第二　製糖業……二〇八
第三　製紙業……二一三
第四　木材業……二一七
第五　セメント製造業……二二三
第六　鑛產業……二二七
第七　紡織業……二三三
第八　陶磁器業……二三七
第四章　各種農業……二四一
第一　牧畜業……二四一

第二　珈琲並に副產物栽培……二四六
第三　地所賣買並に開墾……二五三
第四　纖維植物の栽培……二五六
第五　果樹野菜の栽培……二六一
第六　倉庫金融業附精撰所……二六四
第七　殖民地經營……二六六
第四編　日伯貿易……二七〇
第一章　伯刺西爾に於ける本邦品の需要……二七〇
第二章　將來の有望輸出品……二七六
第一　生糸撚糸類……二七六
第二　陶磁器……二八一
第三　各種刷子類……二八三

第四　各種釦類……二八五
第五　開乾鱈……二八七
第三章　對伯輸出の增進……二九一
第一　航路補助……二九三
第二　商務員の駐在……二九四
商業會議所　商品陳列所
第三　爲替資本の融通……二九七
第四章　伯刺西爾の特產品と本邦市場……二九九
第一　木材……三〇一
第二　砂糖……三〇二
第三　棉花……三〇三
第四　畜產品……三〇六

第五　水晶其他……三〇八
第五章　伯剌西爾の商習慣……三〇九
第一　南歐風の悠揚……三一〇
第二　多數の仲買人……三一二
第三　むしろ現品取引……三一三
第四　手形割引……三一四
第五　判取制度……三一五
第六　特有の懸引……三一七
第七　馱々兒然たる輸入商……三一八
第八　註文品引取……三二〇
第九　名目のみの輸出入商……三二一
第一〇　爲替相場……三二一
第一一　關　稅……三二三
第一二　親しみ易き伯國商……三二四
結論　根本方針の確立　機會は「今」……三二五

寫眞及地圖

ウニオン耕地處女林と伐木隊……卷頭
サン・パウロ市イピランガの史跡に立つ美術館……一三
リオ・デ・ジヤネーロ市植物園の椰子樹……二〇
ムラトと其家屋……三一
ミナス・ジエラエス州サン・フランシスコの巨流に架る鐵橋……五七
サントス港の珈琲積込み……六四
乾燥中の珈琲の山……七二

目次

ミナス●ジエラエス州ペロ●ホリゾンテ市小學校……九一
リオ●デ●ジヤネーロ市ボタフオーゴ灣……九八
リオ●デ●ジヤネーロ市謝肉祭……一〇八
大阪商船はわい丸乘込の同胞渡伯團……一一九
ウニオン耕地の邦人……一四三
ウニオン耕地四年目珈琲樹……一五〇
ミナス●ジエラエス州モツロ●ベツリヨ金山製煉所全景……一三九
リオ●デ●ジヤネーロ市謝肉祭日本服假裝の一隊……一八〇
大阪商船會社汽船しかご丸……二九二
（以上寫眞の大部分は著者の撮影にかゝる）
伯刺西爾國地圖……卷尾

南米の寶庫

伯刺西爾

第一編　伯刺西爾及伯刺西爾人

第一章　伯刺西爾の歴史

第一　伯刺西爾の發見

伯刺西爾は南米を通じての最大國である。其廣袤は三百三十萬方哩に及び、海岸線は四萬餘哩を數へ、更に世界に比類なき大河江流を有して居る。而かも其内部には人跡未到の廣野と斧鉞未だ入らざるの森林とを有し、只太古其儘の生活を樂しむ印甸人の跳梁に任せて居る。無限の鑛産を徒らに埋伏し、渺茫の沃野は鋤犁を知らずして横はつて居る。

この天惠に對する伯國人の努力は、發見以來決して尠少では無かつた。幾世紀に亘る葡萄牙本國と其子孫たる伯國人との拮据經營は、瘴烟蠻雨の地たりし當時にあつては、尊き犧牲と堅忍との記錄であつた。殊に最近百年間に於ける伯國上下の國土開發に關する熱心と盡力とは、實に世界の驚嘆に値ひすべきであつて、現時の進歩と發達とは悉く之が賜なりと稱すべきであらう。けれど其開發の範圍は漸く海岸一帶に限られ、內地は依然として未發見時代の姿を保ち、伯刺西爾をして今尙大國たるを誇らしめて居る。

伯刺西爾發見の第一は、西班牙人ヴイインセンテ・ピンゾンといふべきである、彼はコロムバスの舊乘組員の一人であつて、アマゾン河口を發見して更に南下しセント・アウガスチン岬に迄及んだと稱せられてあるが、西班牙の朝廷は彼の新發見に對して何等の反顧を與へなかつたのである。

第二の發見は葡萄牙王アヴスの發せる印度派遣の艦隊によつてゞある。司令官カブラルは印度を志し乍ら、偶々バイア州の沿岸に漂着し、始めて土着印甸人に會し葡萄牙王の名に於て其上陸の地を葡領となし、一船を割いて之を故國に報せしめたが、是れ實に西曆紀元一千五百年我明應九年のことである。次で一千五百三年に至る間、第二第三の探險船を伯國の海岸に送つた。けれど或は土人の反抗に逢ひ或は風波に道を失ひ、其志を達するを得なんだ。就中ドウアルテ・コエリヨの率ゐたる探險船の如き、旗艦と他の引率船とは各其方向を異にするに至り、其內二隻のみ今日のバイン州、カラベス港附近に漂着し、比較的好感を表せる土人に交はりて一個の殖民地を創始し、滯留五ケ月の後葡人の一半は本國歸航の途に就いた。此際染料として夙くより歐洲に珍重せらるゝ「ブラジル」樹を携へ歸つたが、伯刺西爾を呼ぶに當時幾多の名稱を用ゐたりしを、後に及びすべて「ブラジル」の名を以てせらるゝに至つたのは茲に源を發するのである。

此後三十年間葡萄牙政府は、伯國の殖民に關し何等積極的手段を取ることなく經

過し來つたのであるが、千五百三十一年に至り、政府はマルチン・アツフオンソ・デ・ソウザに與ふるに、探險船隊と四百名の殖民とを以つてし伯國に向はしめた、而して彼等は先驅者の後を慕うて、又もバイアに上陸した。彼は本國を發するに際し、葡王より沿岸總督に任ぜられ伯國の沿岸に封建制領土の設定を委ねられた。この故に彼は南下してリオ・デ・ジヤネーロ港を訪ひ、又更に下りて今のサン・パウロ州海岸に航し、サントス港に近きサン・ヴインセントを以て自己の所領たるの標識を打ち建つるのであつた。

第二　封建時代

葡萄牙政府が伯國を以て、東方印度と均しく金銀寶石香料等珍貴の產物を供する國土たるに思ひを絕ち、眞に其屬領として永久殖民の謀を立つるに至つたのは、前に記せるが如くソウザ提督の派遣に始まつたのであつて、爾來千八百二十二年の獨立帝國たるに至る三百餘年間、伯國は葡國の殖民地として統治せられたのである。

千五百三十四年葡萄牙王ドン・ジョアン第三世は、殖民奬勵の策を立て、當時知られたる沿岸諸州を分ちて十二個の「カピタニヤ」と爲し、封建制度に倣ひて之を十二人の功臣に頒ち與へた。而して彼等は其領土と共に貨幣鑄造を除くの外、凡て帝王に均しき獨裁權を附與せられ、其所領も永久且つ世襲であつた。けれど彼等の多くは自家の所領に向つて何等誠意ある努力と組織ある施設を加へず、其權勢の地を利用して橫暴驕慢、毫も治績の見るべきものが無かつた。伯國の史家ルイス・デ・クウエーロス氏は「若し是等世襲領土にして尙今日に存在せば、新進のブラジルとして、統一ある國家を見る能はず、却つて幾多の共和國を發見したであらう。然るに幸にも彼等の多數は其所領の維持開發に不成功であつたのみでなく、其二三者に至りては之に着手することすらも敢てしなかつたのである」と言つて居るが、彼等は印甸人を敵とするのみならず、又互に相鬩ぎ、佛蘭西、和蘭等の殖民の侵入に對して、何等の抵抗を爲し得ざる迄に無力であつた。仍て葡萄牙政府は、この內外情勢

に鑑み、殖民地の統轄を謀り、バイアに殖民地政廳を置き、トメー・デ・ソウサを總督に任命したが、こは千五百四十九年のことである。

これより後凡そ一百年間は、總督政治の時代であつた。而して千五百七十八年に至り、葡萄牙の殖民地としての伯國に對し、屢々其沿岸に足跡を印せんと試みたりし英吉利、佛蘭西、和蘭等の諸國民は一齊に起ちて伯國民を敵として戰ふに至つた。これ葡王セバスチアンの戰沒を機とし、西班牙王フイリツプ二世が、葡萄牙本國を自國の領土となせるのみならず、葡萄牙の屬領一切を其所屬と爲せるがためである。けれど伯國人の祖先は能く是等の外寇と戰ひ、北部諸州中特にバイアを以て根據地とせる和蘭殖民地、又ペルナムブコに據りし佛蘭西殖民地等を根柢より擊攘して、彼等をして永く望みを伯國に絶つに至らしめたのである。現今の首府たるリオ・デ・ジヤネーロ市はもと南方に於ける佛國殖民の根據地であつたが、千五百六十七年伯剌西爾を南北の二政府に分ち、封建領土の統治を試みたる際は、北のバイアに對しリオ市は其南方政廳の所在地と定められた。けれど數年ならずして南北を合して一政廳に統轄し、千六百八年又之を南北に分ち、而も又幾何ならずして之を廢したのであるが、千七百五十年ジョン一世の登位と共に伯剌西爾を以て葡國の大守國と爲すに及んで、リオ市を以て其駐在地と定め、第一代の大守としてマスカレニヤス伯爵を迎へた。

此間に於ける葡萄牙の殖民地としての伯剌西爾は、幾多重要なる事件と變遷とを閲したものと言はなくてはならぬ。即ち封建制度の創設、沿岸殖民の開始と同時に南方にありてはジエスイツト教徒の一團が深く內地に侵入し、印甸人の間に信仰と教化とを布き、拔く可からざる勢力を張るに至つた。然るに金と、金剛石との發見を第一の目的とする所謂バンデイランテ又少しく後れてはバウリスタの探險隊は、到る處に是等印甸人の集合を脅し、迫害虐殺到らざる所なき有樣であつた。從つてジエスイツトとの利害衝突は又免る可からざる所であり、加ふるに葡國政府はジエ

スイットの愁訴に對しては常に耳を傾くるが故に、益々バンデイランテの憤りを激し、血を以つて相見えることは決して少しとせないのであつた。然るに此内憂に對し更に外患たりしは、彼の和蘭及佛蘭西人の沿岸襲擊であるが、當時の伯國人は能く之に對抗し、以つて今日の基礎を築くに至つたのである。又之と共に伯國の開發に重要なる新要素の加はるに至つたのは、對岸の亞弗利加黑人の輸入であつて、これ先きに言へる鑛產地たるミナス・ジエラエス、ゴヤス、マツト・グロッソ等の諸州を目がけて、探險隊の驀進し、却つて從來の耕地に勞働不足を見るに至つた結果である。

千七百五十年葡萄王ジョン五世歿し、ジョーゼ一世位を繼ぐに至つた。而してジョーゼ王が、國政の全部を擧げて其信任せるポムバル侯等に委任せることは、葡萄牙國の對伯政策に一段の進境を劃せるものと見るべきであらう。卽ち彼は稀に見る聰明と洞察とを以て伯國に對し先づ殖民地内の紛爭を鎭定せんが爲めにジエスイットを抑へ、伯國より移入する煙草、砂糖等に對し、其課稅を減じ、獨立を宣せる北部諸州と通商の道を開き、米及び棉花の栽培を奬勵し、從來英國人の手によりて行はれたる商業の大部分を葡國人の勢力に歸せしめたのである。のみならず更に進んでは伯刺西爾の主要港に獨立の造船所を創設せしめ、尙封建私有の殖民地として殘れるものをば悉く葡萄牙王直接の統治に歸せしめ、又對外的には周圍の隣國と相議して伯刺西爾の國境を確定するに至つた。而してジエスイット敎派に對する壓迫は實に峻烈を極め、彼等を伯國より追放するに滿足せず、更に該敎會の廢止を斷行した。けれど千七百七十七年ジョーゼ一世王の死と共に彼も亦勢力を失ひ、其政治的抱負を伸ぶるに由なくして終るに至つたが、彼が試みたる產業の奬勵と、中央集權による純伯刺西爾精神の涵養と、リオ市を以て大守駐劄の地となせるとは、何れも來る可き大變革の前提と稱すべきであらう。

此時に當り北米合衆國の獨立と、佛蘭西革命の成就とは深く南米人の心を動かし

共和獨立の叫び澎湃として西班牙亞米利加と葡萄牙亞米利加とに漲るに至つた。伯刺西爾にありてはミナス州の一揆として現はれ、其首領と稱せらるゝチラデンテスを極刑に處し、彼の名を不朽たらしむに至つた。

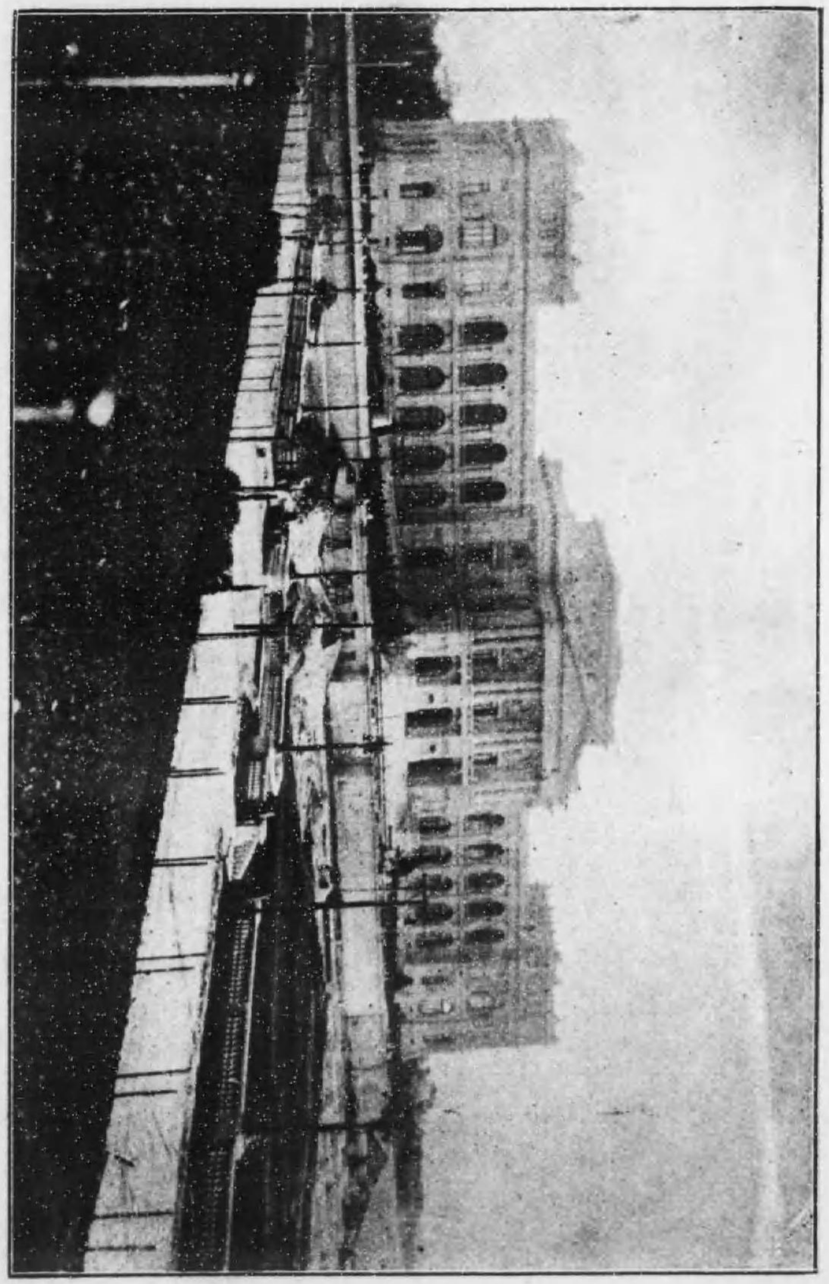
第三　帝政時代

千八百七年、佛蘭西王ナポレオンの大兵葡萄牙に臨むや、當時の女王ドナ・マリア一世の攝政たりしドン・ジョアンは到底其侵略に抗すべからざるを知り、王族と近臣とを擧げて難を伯刺西爾に避くることゝなつた。而して千八百八年三月七日リオ・デ・ジャネーロ市に到着し、之を以て葡萄牙王國の首都と定め、更に千八百十五年十二月に至りドン・ジョアンは葡萄牙、伯刺西爾及アルガルヴエス聯合王國の攝政なりと布告し、伯刺西爾を以て王國なりと宣言するに至つた。翌年三月二十四日女王の崩御あるや、彼はドン・ジョアン第六世として葡萄牙の王位に昇り、盛大なる卽位式を新世界たる南米の一角に擧げたのは、千八百十八年二月五日である。

この帝都移動の結果として、殖民地たりし伯刺西爾の蒙りし變化は、蓋し推想の外と稱すべきであらう。從來母國とのみ通商を營み他の諸外國に對する貿易を禁せられし南北沿岸の商港は、悉く開放せられて自由港となつた。國產の奬勵、印刷所の設置、兵器廠の創設、續いては國立圖書館の建設、稅關組織の開設等何れも皆今日の伯刺西爾を哺育するの前驅であつた。されど其殖民地と目したりし伯刺西爾の發展は、母國たる葡萄牙の喜ぶ所とならず、ナポレオン大帝の失脚はまた漸く歐洲を舊態に復せしめた爲めに、葡萄牙人はドン・ジョアン王の歸國を促して止まなかつた。之に對し、伯國民は王の葡萄牙行は必ずや殖民地の不安不利を招來するものなりとして讓らず、兩者互に相爭うたのであるが、王は遂に其子ドン・ペドロを留めて攝政の位に卽かしめ、之に伯刺西爾統治の任を託し、千八百二十一年四月二十一日再びリオ・デ・ジャネーロ港を後にして故國葡萄牙に向つた。

ドン・ペドロ親王は時に年齡漸く二十三の青年であり殖民地統御の難局は彼の重

き負擔であつた。而して葡國派と稱すべき保守黨は年少の攝政を扼して其驥足を伸ばさしめず、伯刺西爾の繁榮たるべき自由施設は悉く之を阻止し、偏に葡萄牙政府の意を迎へ、葡萄牙政府も亦幾多の小策を弄して伯刺西爾の財政難を拯はんともせず、遂に彼の有名なる二布告を發布するに至つた。即ち其一は伯刺西爾に假政府を設けて既往の殖民制度を復舊すること、其二はドン・ペドロ親王の召還である。此に於て爾來葡國政府の措置に慷焉たりし伯國民は、大に處決する所あらんとし、攝政王も亦人民の輿望を察し千八百二十二年一月九日「余は伯國に留まるべし」と宣言するに至つた。今日「余は留る」の日として國民に紀念せらるゝは此日である。而して同年九月七日、今のサン・パウロ市外イピランガ丘を過ぎるや、王は葡萄牙宮庭の來書に接し、其言辭の甚だ非禮なるを憤り、「獨立か否からざれば死あるのみ」と叫んで其獨立を誓ひ、伯刺西爾帝國の建設を宣言し、十二月一日戴冠式を擧行しドン・ペドロ第一世の稱號を以て帝位に即き、南北米を通じ唯一と稱せらるゝ、伯



サン、パウロ市イピランガの史跡に立つ美術館

刺西爾帝國を出現せしめたのである。

斯くて溢るばかりの希望を以てせるドン・ペドロ第一世の治世は、當初にありては國人崇敬の中心であつたが、保守的施設と、頻繁なる內閣更迭とは、次第に民意を失ひ、統治甚だ困難に陷り、遂に讓位の餘儀なきに至つた。而して千八百三十一年其子ドン・ペドロ第二世を帝位に上らしめ、己れはドン・ジョアン王の後を慕うて葡萄牙に赴くのであつた。

ドン・ペドロ第二世は齡僅かに五歲にして帝位に卽き、千八百三十一年より同四十年に至るまで攝政を置き以て國政に當らしめた。けれど此幼帝の卽位と同時に國內漸く政黨の簇生を見、內治益々困難叛徒諸方に起り、鎭定せざること十年に及んだ。千八百六十五年より七十年に至るパラグワイ戰爭には、皇帝自ら聯合軍を統督し海陸の轉戰に於て大に伯刺西爾の國威を發揮する所があり、其治世を通じて能く國民愛慕の中心となつた。然るに晩年漸く政治に倦み、皇嗣マリア親王を攝政とし、や

がて皇位を之に讓らんとしたが、國民は之を喜ばず帝政に對する反感慊惡愈々加はり物情騷然たるに至つた。此時に當り共和黨は機到れりとなし、海陸軍人と相携へて革命の烽火を擧げ、千八百八十九年十一月十五日、及に衂らずして其目的を達し皇帝及皇族に國外退去を迫つた。當時皇帝はペトロポリスの離宮にあり、閣臣の報によつて急遽リオ市の帝宮に歸り、悉く革命黨の求むる所を聞き、些の不滿を表はすことなく、其翌日一族を率ゐて英國汽船アラゴア號に搭じ、遂に葡萄牙に向つてグアナバラ灣を見捨てたのである。卽ち南北米の新世界が、殆んど共和制たるの間にあつて、暫く帝國の存在を見たのであるが、此に至つて全く滅亡し、佛國の自由思想に憧憬措く能はざりし少壯政治家の希望を實現し、「秩序と進步」とを標語として一大共和國を建設するに至つたのである。

第四　共和政時代

共和假政府は千八百八十九年十一月十五日以來、陸軍大將フヲンセカを以て其首長と爲し來つたが、北米合衆國に範を取りて制定せる聯邦憲法の成るに及んで、其條章の定むる所に從ひ、フヲンセカ將軍を第一期（千八百九十一年——千八百九十四年）大統領に選擧することゝなつた。

將軍の大統領就任は、バラグワイ戰爭に於ける殊勳者としての國民的崇敬による所多かつたのであるが、就任後にありては武斷專制の擧多く、憲法の規定を蹂躙し或は議會を解散し、或は戒嚴令を布き甚だしく民意に背いた。之が爲めに終に海軍軍人の暴動を招き、其職を副大統領に讓るに至つた。けれど新任のペイーショート將軍も亦陸軍出身にして、其施す所前者に異ならず、更に大規模なる海軍々人の反抗を見るに至り、辛うじて之を鎭定せるものゝ、リオ・グランデ・ド・スル州に起れる內亂は遂に平定に至らずして其任期を終つた。

第二期（千八百九十四年——千八百九十八年）大統領プルデンテ・モラエスは、前大統領の殘せる內亂平定に成功し、秩序の回復と產業の發達に鋭意し、國際問題の

解決に當りては、伯國の爲めに克く樽俎折衝の誠を盡した。バイア州暴徒の勃發に際しては數回に亘りて一萬三千餘の大兵を送りて之が鎮定を計つた。國命を更めて未だ幾何ならず、國内の物情尚騒然たる間に立ちて、能く國家の安寧福祉を念とせるの心事に至りては、何人も之を認むることを惜まなかつた。

第三期(千八百九十八年——千九百二年)大統領カンポス・サレスは前任者と等しく、バウリスタの根據たるサン・パウロ州の出身であり、引續く内亂と財政窮乏に基せる幾多難局を按排するに勉めた。而して財政の整理により海外に於ける伯刺西爾の信用を恢復せんとせるは、彼の最も苦心焦慮せる所であつた。又伯國新民法の編纂に着手せる如き其の功績の一として稱せられて居る。

第四期(千九百二年——千九百六年)大統領ロドリーゲス・アルヴエスはまた等しく財政の整理と產業の發達とに全力を注ぎ、リオ・デ・ジヤネーロ市の衛生工事を起して之を健康地に改め、港灣の改築、市街の整理等の土木工事を起して、首府としての美觀を加へた。又隣接諸國との境界を平和的に解決したが、ボリヴイヤ國との交渉によつてアクレ直轄州を得、秘露國との條約にはアマゾナスの大地域を得、伯刺西爾の版圖を大ならしめると共に、其國威を保持するに勉めた。

第五期(千九百六年——千九百十年)大統領アツフォンソ・ペンナは貨幣制度改革を以て就任第一の事業とし兌換局を創設した。又移殖民の誘入により產業の發達を期し、且交通運輸の便を開きて海外貿易を勸め、千九百八年にはリオ市に内國博覽會を開催して國產の奬勵を計つた。内治外交共に爲政家としての技倆を發揮せるものといふべきである。

第六期(千九百十年——千九百十四年)大統領エルメス・ダ・フォンセカ將軍の就任は再び軍人出身の大統領を見ることゝなつたのであるが、其施政は前數者の武斷的なるに似ず諸般の國政に當りて治績頗る見るべきものがあつた。殆んど各期の行事たるが如き海陸軍々人の一揆暴動は又彼れの任期中に出現したが、悉く之を鎮定し

てよく國内の秩序を維持した。

第七期(千九百十四年——千九百十八年)大統領ウエンセスラウ・ブラースは國費の膨脹と經濟的恐慌の爲めに攪亂された財界の整理に當り政費節減を斷行した。而して其在任中に勃發せる歐洲大戰に際しては、能く國論を率ゐて聯合國に加擔し、獨逸と國交を絶ち、其豊富なる物資を聯合國に供給した。之が爲めに國際間に於ける伯國の地位を進むること殊に著しきものがあつた。

第八期(千九百十八年——千九百二十二年)大統領ロドリーグス・アルヴエスは、第四期大統領として治績見るべきものがあつたが、再び選ばれて伯國の國政を擔ふことゝなつた。けれど病の爲め就任を見ずして沒し副大統領デルフイン・モレイラ代りて大統領の職に就いたが又其任期を全うせずして病沒するに至つた。

此に於て前期の殘餘期に對し大統領選擧を行ふことゝなり、エピタシオ・ペッソアの之に當選した。これ彼が講和會議に際し伯刺西爾代表の委員長として巴里滯在中のことであつて、其歸途北米合衆國を訪問し、米伯間の親交を厚うせりと傳へられて居る。任期中白耳義國元首及皇后の來伯を見、又獨立百年紀念萬國博覽會を開催せるは、彼の任期中に於ける重要なる出來事と稱すべきである。

第九期(千九百二十二年)大統領アルツール・ベルナルデスはミナス・ジエラエス州大統領として其財政的手腕を發揮し、現期大統領としての就任も亦この期待に基くものとせられて居る。經費節減を以て第一の政綱となし、積年の餘弊未だ全く芟除し盡されざる財政に向つて、改革斷行を聲明して居る。

第二章　伯刺西爾の自然

第一　位置及廣袤

上來屢々其大國たるを說いた伯刺西爾國の地理的位置如何と見るに、縱は北緯五度九分四十秒より、南緯三十二度四十五分に及び、横は西經三十四度四十七分より

同七十四度五分三十二秒に至つて居る。其面積約三百三十萬方哩と稱せられ、地球上陸地總面積の凡そ十五分の一に當り、南米全大陸の約二分の一を占める。之を我國と比較すれば、日本帝國全領土の十三倍半を超え、之より屬領地を除けば約二十二倍餘に相當する。

第二　地　勢

伯剌西爾の地勢は、之を高原地方及平原地方の二に大別すべく、更に後者はアマゾンの平野及ラプラタ河系方面の平野に區分される。

大西洋沿岸には北より南に走る一帶の連山があり、之を總稱して海岸山脈と呼んで居る。多くは海岸に向つて聳立し、內部方面に向つては緩傾斜を以て廣漠たる高原を形成する。而して此高原は最高の部分に於て海拔五千尺、最低に於て二千尺を示し伯國全面積の半を占めて居る。

而して此海岸山脈と海岸との中間に位する所謂海岸の平低地は、北部にありては

樹珈琲目年四地耕ンオニソ

幅稍々廣く、ボルボレマ平原の如き卽ち其一例であるが、中部南部に下るに及んでは漸次狹隘となり、首府リオ●デ●ジャネーロ市及びサン●パウロ州サントス港附近の如きは、正に此狹隘地帶に屬するものである。又サン●パロウ州以南にありては此山脈を横斷する河流一もあることなく、海岸に直流するか、或は連山の內方に發源して高原地帶を緩流し、ラプラタの巨流に注ぎ、ウルグワイを經て遂に亞爾然丁共和國に赴くかである。

アマゾン平野は、アマゾン大河の本、支流のみならず、トカンチンス河の流域をも併せたる、所謂アマゾン河系に屬する流域たる、廣大なる一帶の平低地を指すのであつて、アマゾナス州の全部及びパラー州、マラニョン州の大部分に亘り、其面積八十萬方哩、卽ち伯國全面積の四分の一に相當する。

之に對しラプラタ河系方面の平野、卽ち高原地方の南方傾斜及び、南部に於ける海岸山脈の內側より發する河流は、合してパラグワイ、パラナー、ウルグワイの三

大河となり、ラプラタ河に注いで居る。而して此等の三大河の流域たる平野は、又ラプラタ河系平野と稱せられて居る。

第三　氣　候

熱帶—亞熱帶—溫帶

伯剌西爾の氣候は一概に炎熱燒くが如き熱帶なりとして傳へられ、文明人の到底棲むに堪へざる所なりとせられ、我國に在りてもこの謬想に捉へらるゝ者決して少しとしない。玆に伯國の氣候を說かんとするは、單に自然現象として之を述ぶるのみでなく、出來得る限り正しき事實を傳へんとするに外ならない。而して其國土北半球に起るも、大部分は南半球に位するが故に、北半球に位する我國とは四季の變化悉く正反對であつて、吾等の嚴冬は彼等の酷暑であり煦々たる陽春は、金風颯々である。

熱帶　普通には南緯二十三度半の回歸線以北を以て熱帶圈と稱せられて居るが、玆にはアマゾナス、バラー、マラニョン、ピヤウイー、セアラー、リオ・グランデ・ド・ノルテ、ペルナムブコの七州と、ゴヤース州の北部及びマット・グロッソ州の一部を合せ、赤道附近の地帶といふ意味に於て熱帶と總稱するのである。此地帶の平均溫度は華氏七十七度——八十度六であるが、其位置の海岸地方たると、又內地方たると、降雨量の配分によつて自ら差異を生するが、今便宜上之を三地方に區分して說明を加へる。

其第一はアマゾン平原一帶の地域であつて、氣候炎熱、濕氣亦多い。而して「フリアージェン」と稱する時期の外は、大體に於て急激なる變化なく、年中を通じて八十度內外の氣溫を示して居る。「フリアージェン」は炎暑無風の天候長く繼續し、寒暖計の昇騰と同時に晴雨計亦若干降下し、大氣の急速に稀薄となれる結果、アンデス山の冷風吹き來り、數時間にして氣溫降下涼氣滿溢、時としては寒冷を覺えしむる現象を指すのである。曾てアマゾン地方を旅行せるウォーレス敎授は、其著述中

に同地方の氣候を以て、「世界何れの部分に在りても、天然と氣候とが、勞作者にとりて斯くばかり良好なるはなし」と激賞して居るが、偶々以て世界一般の謬想を破るに足るものと爲すべきであらう。

○本地帶の中心地たるマナオスに於ける平均溫度は、華氏七十九度七五であり、最高溫度華氏九十九度五〇、最低溫度華氏六十五度八四を示して居る。五月より七月に至る間西南の冷風强く、「フリアージェン」亦起り、雨量多からざるも驟雨性である。一、二月は乾燥期であるが、三月より六月迄は、大雨多く河水氾濫し、七月より十月迄と十二月とは少雨期の季節である。

第二はバラー、マラニョン、ピヤウィー三州の內地及びマット・グロッソ州の北部であつて、氣候前地方に類似して居るが、其變化は遙に多い。平均溫度華氏八十九度七、最高溫度百五度八最低溫度三十九度二の記錄を示して居る。けれど實際に在つては、斯くの如き極度の昇降は極めて稀有のことに屬する。

第三のバラー州よりペルナムブコ、及びアラゴアス二州に至る海岸地帶は年中を通じて殆んど同一氣候と稱すべく、只風向と降雨とによつて季節の變化を知るのみである。氣溫は平均溫度華氏七十八度八、最高溫度九十九度一四、最低溫度六十一度三四を示し、溫度はこの地帶中最濕潤なるべレーンに於て、平均百分の八十八を指し、漸次減少してジョアゼイロに至れば百分の五十四となつて居る。又ナタール、バライー・バ、フォルタレザ等は雨量少く、セアラー州の內部は殊に雨少く、一年を雨期と乾燥期とに分ち得られる。而して其乾燥期中、地方によりては三、四ケ月に亘り一滴の降雨すら見ざること決して珍しくなく、セアラー、リオ・グランデ・ド・ノルテ及バライーバ三州の一部は殊に旱魃を以て知られ、之が爲めに聯邦政府は近年銳意防旱治水の工事に盡力して居る。

亞熱帶　氣候溫暖なる此地帶は、セルヂペ、ゴヤース、エスピリト・サント、リオ・デ・ジャネーロ、ミナス・ジェラスの六州とマット・グロッソ州の殆んど全部と及

サン・パウロ州の一部を包含し、海岸及内地の平低地に於て、平均溫度華氏七十三度八、中位の標高地に於て六十四度七八を示して居る。

セルヂペ全州及バイア州北部の海岸地方は、氣候溫和にして變化少く、平均溫度華氏七十三度四乃至七十八度八を上下して居る。而して溫度高きは夏季の十二月一月、二月等であつて、涼しきは冬季の六、七、八の三ヶ月である。清涼季には概して雨量多く、又夏季にあつては、驟雨を見ること決して少くない。極暑の日と雖も所謂濕暑の暑さではなく、朝夕は他の同緯度の地に比し遙かに快適である。

バイア州南部の海岸地、エスピリト・サント及びリオ・デ・ジャネーロの二州並にミナス・ジエラエス州の東北部は濕氣は前地方と大差ないが、遙かに爽快なる氣候と稱せられて居る。平均溫度は華氏七十三度八三を示し、リオ市に在つては最高溫度華氏百二度二、最低溫度五十度三六、平均溫度七十三度七八である。余輩の一年間滯留の經驗によれば、我國の如く四季の區別固より分明ではないか、夏冬は明かに看取することが出來、只春秋を分ち難しとするのみである。夏季酷暑の候にありても我國の如く濕氣を含む蒸し暑さではなく、溫度の高きに拘はらず決して凌ぎ難しとせず、他の三季に至りては溫暖快適眞に世界の樂園と稱すべきである。

內方低地は、中央高原以奥のマット・グロッソ州大部分を成して居る。此地方は大陸の中心に位するに拘はらず、其氣候は附近の第二地帶に酷似し、溫度、濕度、風向及氣溫の高下著大なること、殆んど前者と差別がない。クヤバ市に於ける平均溫度は華氏七十七度九、最高溫度百五度八、最低溫度三十九度二である。西北の風は溫暖にして濕氣を帶び、東南の風は寒冷にして乾燥して居る。夏季に於ける「バンペイロ」風は豪雨を齎して氣溫を急下せしめる。

ゴヤース、ミナス・ジエラエス及サン・パウロ三州の內奥の高地は、緯度及海拔標高の關係上、氣候最も溫良、中には恰も南歐の氣候に似たりと稱せられる丶地方も少くない。サン・パウロ州リベイロン・プレート市にては、平均溫度華氏七十度五二、

カムピーナス市にては、同しく華氏六十七度六四、ミナス・ジエラエス州デイヤマンテイナ市にては華氏六十五度二三である。

溫帶　溫帶地方はサン・パウロ州の南部及バラナー、サンタ・カタリナ、リオ・グランデ・ド・スルの三州を包含し、氣候中和を得て平均溫度華氏六十一度一四を示して居る。冬季六月より八月に至る三ヶ月は寒風稍々强く、歐洲人の健康に適するのみならず、世界の所有る農作物の栽培に適するが故に、各國よりの移住者は好んで是等諸州に來集する。而してバラナー及サンタ・カタリナ二州並にリオ・グランデ・ド・スルの南部地方には時としては降雪を見ることがある。

狹少なる海岸地の大部分と、內奧に尙つて時に起伏する緩傾斜たる廣大なる高原一帶の氣候は、ミナス・ジエラエス州の高燥地と酷似して居るが、此地方にあつては四季の變化を明かに見ることが出來る。海岸地は季節の差異微弱であつて、亞熱帶の海岸に比較し得べく、平均溫度華氏六十八度に達して居る、山地卽ち海岸山脈附近の平均溫度は更に降下を見るが、海洋の影響を直接に蒙ることは海岸地と差別は無い。而して此第三地帶中最も廣大である內奧の平原地は、所により標高の差はあるが、氣候は伯剌西爾中にて最も良好にして、全國の平均溫度よりは遙かに低く、濕度も亦一般に全國平均のものより低い。リオ・グランデ・ド・スル州は伯國諸州中最南部に位し、氣候歐洲の西部に近似し、四季の差別明瞭であり、冬季に在りては氣溫氷點に降下することまた珍しとしない。

之を要するる此溫帶地に在つては、降雨は四季を通じて頻繁であり、風は「ミヌアノ」と呼ぶ濕氣を帶びたる東南風多く、又「バムペイロ」の寒く且つ强い風の襲ふこと屢々である。伯國中の最健康地と呼ばるゝサン・パウロ市にては、平均溫度華氏六十四度七六を示し、バラナー州首府クリチーバ市にては華氏六十一度五二、リオ・グランデ・ド・スル州ペロタ市にては華氏六十四度四に過ぎない。何れも世界の最も溫和なる地方の都市氣候と比較し得べきである。

以上に見るが如く、伯刺西爾は旱魃の憂ひある一小地帶を除くの外、他の大地域内何れの部分に至りても、人類の快適なる生活を營み得べき氣候風土を有し、世界の有らゆる方面より移住し來る者の爲に、發展昌榮の一大樂園たるを察知し得べきである。殊に邦人の移殖地として無上の好適地たること、今更絮說する迄もない。

第三章　伯刺西爾の人

第一　人種

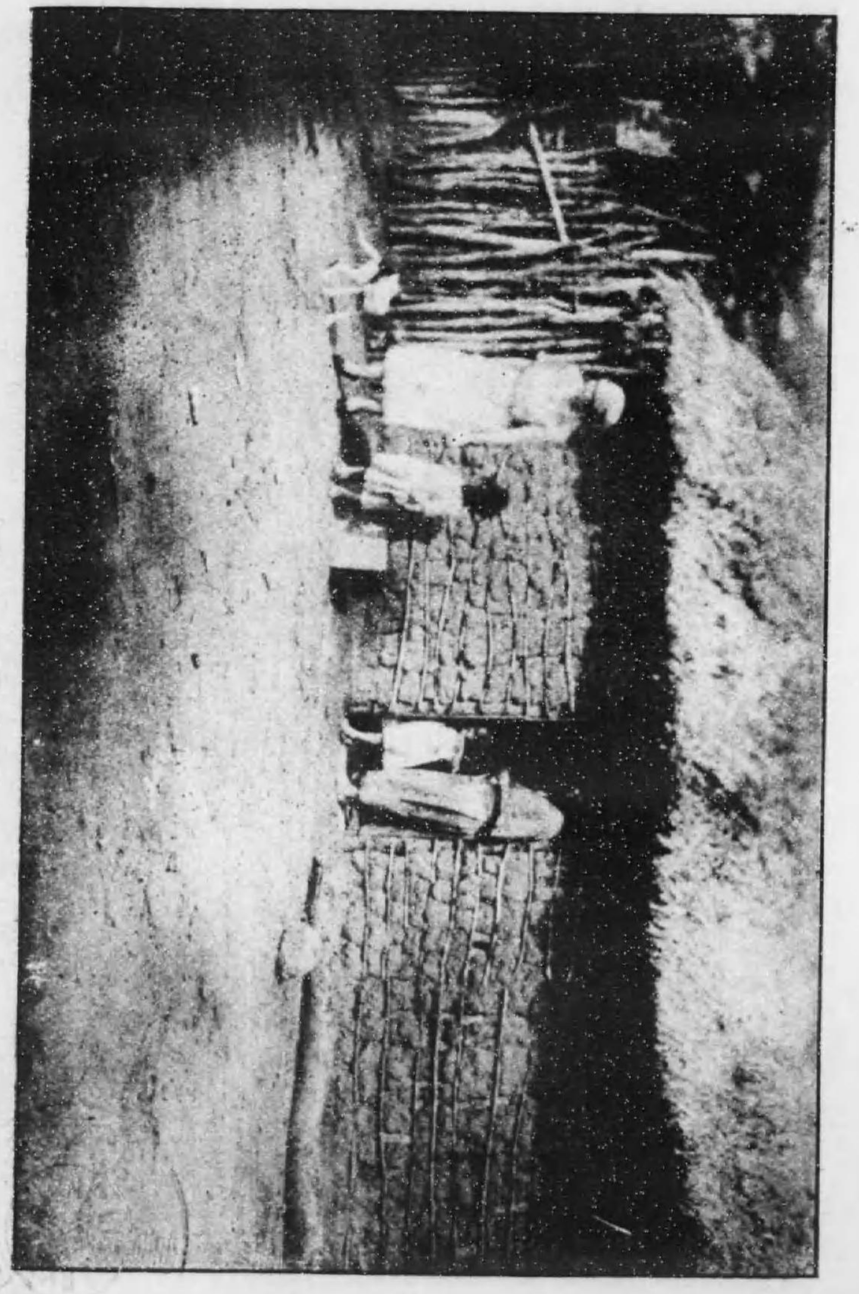
伯刺西爾本來の居住民の印甸人たる事は、既に發見史に於て說いた所である。葡萄牙人の渡來の當時に在つては、到る處に此二人種の爭鬪を見たのであるが、印甸人中に在りては其性必ずしも獰猛ならざる所謂熟蕃は、よく白人を迎へて抵抗せず、獨身者たる葡萄牙人の爲めに其婦女を勸めて、「カボクロ」人の發生を見るに至つた。後に到り對岸の亞弗利加より黑人の輸入せらるゝに及びては、白人との間に混血を生じ、先きの「カボクロ」人に對して「ムラト」人を生ずることゝなつた。故に伯刺西爾政府が十九世紀の初期に於て、諸國の移民招致を以て國土開發の大本となし、積極的に歐洲移民を迎ふ迄は、伯國の人種は大體に於て、一、印甸人、二、白人種＝葡萄牙人、三、黑人種、四、雜人種より成つたものといふことが出來る。

印甸人の起源に關しては、未だ定說として信憑すべきものなく、蒙古人種と祖先を同うし、亞細亞大陸より移動し來れるものなりと云ふも、畢竟一個の推測に過ぎない。多くは裸體又は半裸體にして、皮膚は鳶色又は赤銅色と稱すべく、家屋と稱するものも極めて原始的のものにて、依然たる太古野蠻の生活を營むこと、他の未開人と共通である。何れも外來人種の壓迫を受け、海岸より次第に內地に向ひ、而かも年々に其數を減じ行くものとせられて居る。而して印甸人中慓悍獰猛なるは之を生蕃と呼び、多少外來人の文化に浴せるを熟蕃と稱せられる。彼のジエスイツイ派が敎育を傳へ、農業を敎ふる傍ら、當時葡萄牙國渡來の殖民者及其の子孫と相對

抗するの便に供したのは卽ちこの熟蕃である。而して現今に在りては、北部諸州及內奧諸州の森林地帶に多く棲息し、ゴヤス、マット・グロッソ、マラニヨン、バラー。アマゾナスの諸州及びアクレ直轄州の如きは、比較的多數居住の地方といはれて居る。

白人種＝葡萄牙人は最も古く移殖し來れる外來人であつて、今日の伯剌西爾人を爲せる骨髓である。卽ち封建時代より、帝政時代、並に共和政時代を通じて常に伯國民の中堅を爲せるものはこの葡萄牙人及其子孫であつた。加之殖民時代の葡國人は單身渡來せるもの多く、土人との雜婚を壓はず、其言語、傳統、文化を子孫に傳へて今日に及んだのである。

黑人種は千五百八十三年頃より千八百六十年までの間に輸入されたものである。言ふまでも無く勞働の爲めに奴隸として賣買せられたことは、北米其他と撰むところが無い。けれど黑人種を奴隸として物件視し之が賣買を行ふは、當時の思想界を



ムラトを基礎とする

風靡せる個人の自由主義に反するものなりとし、米國は殊に之が廢止に關し南北戰爭を惹起したのであるが、伯國にありても奴隷廢止の論漸く熾となり、千八百五十年其輸入を嚴禁し、千八百八十八年に至り遂に奴隷廢止を斷行するに至つた。今日伯國内に居住する黑人種は約二百五十萬と稱せられ、バイヤ、ペルナムブコ、リオ・デ・ジャネーロ諸州及ミナス・ジェラエス州等は伯國諸州中最も黑人種の多數なるを以て知られて居る。

雜人種の内白人種殊に葡萄牙人と印甸人との混血は、先さにいへる如く、「カボクロ」又は「マメルコ」と稱し、殖民時代の特產物であつて、サン・パウロ州内地よりミナス・ジェラエス方面に或は集團或は部隊を編成して、縱横に活動せるバンディランテは、卽ちこの混血人種の一派であり、又今日政治的、社會的に伯國の重要なる地位を占むるパウリスタ系の祖先である。されば今日州政府又は聯邦政府の大官中に、容貌體格等に於て祖先を偲ばしむる者決して少しとしない。日本人の如き之を伯國

人の眼よりせば　亦此部類に酷似するものとなし、日伯間には人種的關係ありとさへ論ずるものもある。

雜人種の第二は白人種との間に生じた混血種卽ち「ムラト」である。而して伯國に遊ぶものにして、印甸人を見るは今日にあつては頗る困難であるが、前記諸州にあつては黑人及此混血「ムラト」を見ること非常に多く、伯國は白人の國にあらずして「ムラト」と黑人との國なるやを思はしめる觀がある。從て伯國民が有色人種に對する寬容の態度はこの人種的交互に起源するものと見ることが出來る。

されど以上に揭げたる諸人種以外、今日の伯國民を形成する諸要素を知らんが爲めには、勢ひ伯國が移殖民誘致の策を取りし以來の經過に待たなくてはならぬ。卽ち玆に伯國の殖民史を繙き、其外來要素を繹ぬる所以である。

第二　近代移民による外來要素

伯剌西爾の海岸に、世界各國殊に歐洲諸國民の到着するのは、其等移殖民の發意によると云ふよりは、寧ろ帝政時代の帝王、聯邦政府並に各州政府等の方針によつたものであることは、旣に屢々說いた所である。中にあつて在來の伯國民乃至葡萄牙系に全然異つた人種の、移殖民としての來航は、千八百十七年ドン・ジョン王が瑞西人を招致せるを以て嚆矢とする。こは言ふまでもなく、當時の伯國政府の派遣員によつて募集せられ、瑞西の首府ベルンに於て、初め五千人の應募者を見た。けれど種々の故障により、アムステルダム及ロッテルダムより出帆せるは內二千人に過ぎず、航海の途中に於て又數百を失ひ、移民船の伯國海岸到着の際は、千七百人に減じたと註せられて居る。今のリオ・デ・ジャネーロ州フリボルグ市は、正に彼等の殖民地であつて、レオポルディナ鐵道の要路に當り、山間の一小都市乍ら、花卉穀類、果實等の產地として知られて居る。けれど彼等の多くは他に離散し、當時の子孫と稱すべきは極めて少く、只新フリボルグの名に在りし昔を偲ぶのみである。

第二の移民團と稱すべきは獨逸人三百四十二人より成る一隊である。其出發より到

着まで百八十日を費せりといふに於て、如何に大洋航海の困難なりしか推想に餘りありと云ふべきである。當時獨逸の國狀、未だ工業の發達を見ず、經濟狀態は殊に勞働者に苛酷であり、一般社會も亦行詰れる事情の下にあつた爲めに、有爲の士は皆海外の發展を思ふのであつた。故に爾後二十五年間は伯國にとつては獨逸は最好の移民募集地であつた。

第二の政府募集移民は千八百二十五年、リオ・グランデ・ド・スルに到着せるものである。全部獨逸人であつて、サン・レオポルドの殖民地と名づけられたが、今日に在つては人口四萬を有する同州有數の都市となつて居る。次いで千八百二十六年には同州のトレス・フォルキリヤス及サン・ベドロ・デ・アルカンタラの二殖民地の新設を見た、何れも獨逸人である。又同年サンタ・カタリナ州前者の一と同名のサン・ペドロ・デ・アルカンタラに均しく獨逸人の殖民地を見、千八百二十八年には獨逸除隊兵の一團による殖民地が、パラナ州のリオ・ネグロに設けられた。而してリオ・グランデ・ド・スル州に於ける內亂は、南方に向ふ移民の渡來を妨げたが、平定と同時に又獨逸人の南下を見、千八百四十五年サンタ・カタリナ州にサンタ・イサベル殖民地、千八百四十九年及五十年にリオ・グランデ州に五個の新殖民地を建設するに至つた。斯くの如く獨逸人の伯國南方移殖は頗る頻繁なる內にあつて、千八百五十年ブルメナウ博士自ら引率し來れる同胞を、ブルメナウの地に殖民せしめたるは、獨逸の伯國殖民史中最も特筆さるべきものゝ一つである。同博士は之が爲めに私財十二萬弗を費し、同地殖民事業の發達を計つたのであるが、千八百六十四年には二千五百人の住民を數へ、今日にあつては人口六萬餘、鐵道の要地に當り、商業又活潑創立者ブルメナウ博士の好紀念都市と迄發達して居る。

千八百五十一年には彼の有名なるジョインヴィル殖民地がサンタ・カタリナ州に創設せられた。ジョインヴィル公爵の名を移したものであるが、サンタ・カタリナ州に於ける所有地の一部を、ハムブルグ殖民同盟會に讓渡し、同地より移殖民を誘

致したのである。今日に在つては約三萬を數ふる好個の一都會を形くつて居る。千八百五十二年に至りミナス・ジエラエス州に又獨逸殖民地を見たのであるが、獨逸の募集移民は之を以て最後となすに至つた。こは南米北米に向ふ獨逸移民の數漸次に加はり、却つて其の國力を減殺するの結果を生じたるが故である。從つてドン・ペドロ王は他に募集地を發見すの餘儀なきに至つた。

吾人は次の移殖民を說くに先ち、何故に獨逸殖民が斯く成功を收めたるかを知らなくてはならぬ。由來伯國の南方諸州は獨逸國民の南下以前には、殆んど閑却されたる荒野であつて、只砂糖及煙草の栽培盛んなる北方諸州のみ、葡萄牙人及其子孫の注意を惹ひたのである、又バンデイランテの一隊が能く南方に濶步せるも、そは西班牙人との爭ひの結果であつて、伯國人自身としては概ね之を顧ることなきを常として居つた。然るに獨逸移民の一度此地方に來るや、他諸州の殖民地が多く不成功に終つたに拘らず、獨り其發達繁榮を見るに至つたのは、同地方の氣候が北方チユートン系の獨逸民に適當せると、殖民地點の賢明なる選擇とに依るといふべきである。千八百二十年より千九百二十二年に至る百年間に於る、獨逸人入國の數字は十二萬三千餘と註せらるゝに拘らず、伯國に於ける獨逸系は二十五萬餘にも上るべく、何れも祖國の國語を用ひ、敎養を繼ぎ、其二三市の如きは、宛然彼等の故國にあるを思はしむる迄獨逸式色彩を保つて居る。又彼等の居住する處、都會と村落とを問はず、清潔を保ち秩序を維持し、外來移民中に在つて嶄然頭角を現はして居る。されど餘りに獨逸風保存の結果、歐洲大戰に當りて聯合軍側に與みせる伯國政府の召集を肯せざるのみならず、伯國語を解する壯丁極めて少なかりしとの奇談も傳へられて居る。伯國政府が十歲迄の小學兒童に他國語の敎授を禁じたるが如き、又茲に顧るが爲めであらう。

却說前にいへるが如く、獨逸移民の募集不可能を見るに至つた時の伯國政府は、之を母國に求むることを企て、北方の諸州に幾多の葡萄牙人殖民地を創むるに至つ

た。彼千八百五十三年に於けるマラニョン州サンタ●イサベル殖民地の如き、又千八百五十五年バラ州及バイア州に於ける數個の葡萄牙殖民地の如き、何れも此計畫に成つたものであるが、獨り葡萄牙人のみの殖民地は遂に好結果を見るに至らず、住民は都會の他を望んで次第に移り行き、遂に其形骸のみを止むるに至るのが普通である。是れ葡國民の特性の一として農民として朧畝に親まんよりは、寧ろ工人として手職に衣食するを快とするが故である。

此時に當りて伯國の一大產業たる珈琲栽培業は、漸く擡頭し來つた。而かも之に必要なる勞働供給者としては最早黑人奴隷に望むべからず、珈琲園主は勢ひ之を外來の移民に待つことゝなつた。而して此移民誘致は、先づ個々の農園主によつて試みられたが、當時アントワープに事務所を設け、專ら募集の事に當つたリオ國際移民協會の如き其有力なるものゝ一つである。耕地に送られたる殖民は當時收穫步合法によつて就働したが、後に至りては此方法自然に廢せられ單に被傭者としてのみ就働するもの次第に多きを加へた。之と同時に歐洲諸國民の渡來するもの亦漸次增加し來つた。中に在りて千八百五十年バラナ州イバイー河兩岸に佛蘭西殖民を見たのは、千八百六十八年より九年にかけて、アルヂエリヤ佛蘭西人の同州クリチバ附近に殖民地を設けたのと合せ、該民族の伯剌西爾殖民を試みたる最も重要なる企圖と稱すべきである。又リオ●グランデ州新ペトロポリスに於けるアルサス人の殖民地エスピリト●サント州ジョインビル、リオ●ノボ、ペトロポリス、レオポルディナ等に於ける和蘭人の數家族等、亦此時代の外來要素であるが、千八百五十六年、五百六十六人の蒙古人が契約移民として渡伯したのは亞細亞移民の起源である。少數のアイスランド人がジョインビルに來つたのも略々前者と時を同じうしてゐる。而して茲に吾人の興味ありと爲すは、北米に於ける南北戰爭後、南方の棉花耕主等が戰後の餘殃を南米に償はんとして、千八百六十六年二百人の米國人が最初の移民としてサン●パウロ州に渡つたことである。續いて數隊の北米人が同州各所に殖民地を建

設せるも、今日に在つては特に米國殖民地と稱すべきもの殘存せず、伯國の殖民史に其名を止むるのみであつて、アングロ・サクソンの南方殖民の必ずしも成功を齎らさざるべきを物語つて居る。

此間に於て伯國移民の最高潮と稱すべく、又外來要素中の最大多數を爲せるものは、千八百六十年以後に起りたる伊太利移民其物である。而して伊太利移民の招致は、もとサン・パウロ州珈琲園主の勸說であつたが、千八百八十九年共和政に入るや、各州政府の事業として之に當ることゝなつた。伊太利移民殊に北方の伊國人はよく勤儉を以て知られ、多くは家族を携へ來り、農園就働者の地位に甘んじ、而も他に有利の事あれば好んで轉々するのを辭せないのを、一般の特質として居る。伯國渡航者の數は千八百二十二年より千九百二十二年に至る一世紀間に、百三十七萬八千餘人に上り、今日に在りては其子孫を合せ約二百五十萬と稱せられて居る、殊にサン・パウロ州にあつては彼等の活動最も目覺しく、州の人口約四百八十萬の內伊太利系に屬するもの一百五十餘萬人、サン・パウロ市人口三十七萬の內其二十五萬人は又伊太利系であつて、アヴエニタ・パウリスタ（パウリスタ大通）に宏壯の邸宅を構ふるもの、多くは其成功者なりといふに徵し、如何に彼等の發展の顯著なるかを察すべきである。勿論此異常なる成功に對しては、州政府の周到なる保護と援助とが與つて力ありといふべく、其渡伯を勸誘する爲めには船賃を負擔し、收容所に自由宿泊所を與へ、學校を設け、療養所を置くが如き、外來者の爲めに其出來得る限りを盡したのである。故に伊太利移民の渡伯の最も盛んなりし千八百九十一年に在つては伯國に到着せる各國移民數二十六萬六千の內、十六萬は伊太利國民であると註せられてゐる。而して我國に比較し、本國との距離近く、來往常に自由なるも其一因であるが、現今に在つては、伊太利移民乃至伊太利系の利害は、相分ち難き迄に伯國の利害と一致し、牢固たる基礎を置くに至つたことは、漸く出發點たるに過ぎざる我國移殖民にとりて當に餘師ありと云ふべきである。

伊太利移民の斯く伯國に侵入しつゝありし間に、千八百七十年より千八百八十年に亘り、約二千餘の露西亞獨逸人のパラナ州クリチバ方面に移り來れるは、又特筆すべき一現象である。彼等は獨逸人以上に祖國の習慣と風俗とを尊重し、農作の方法に至るまで凡て露國式を墨守したが、決して成功せる移民團ではなく、後には伯國政府に本國送還を迫るに至つた。今日パラナ州の高原地方に殘る露西亞人及波蘭人は、主として農業を營み、傍らマテ茶の製造に從事し、其數も亦決して多くはない。

以上に於て伯國の國土開發を目的とする外來要素に關しては、略々其大系を盡したのであるが、敢て農園に就働するに非ずして、而も彼等同胞の繁殖を見るは、土耳古＝亞剌比亞系の東洋人である。彼等はよく都會の地に衣食を發見する、或部分の商業に至りては殆んど彼等の獨占たるが如き傾きがある。而して東洋風の素質を有する葡萄牙人乃至其子孫たる伯國人間に、歐洲系と異りたる東洋分子の、凋落はおろか寧ろ他に劣らず增加し行くは、單に移殖民としての問題ではなく、人種の移動と交雜とより見て又興味ある題目たるを失はない。

第三　人口

伯國の人種は、印甸人、葡萄牙人、黑人及印葡、葡黑の二混血を基調とし、之に殖民時代に入りての外來要素を加へ、頗る複雜なる血液の混合を以て今日の現狀となすのである。卽ち人種上よりは印甸種、白哲種、蒙古種、黑人種となすべきも、其系統よりせばチュートン系、拉典系、スラヴ系、亞剌比亞系、猶太系等に屬するものと爲すべきである。而して是等夫々の雜婚の容易に行はるゝ間に在つて、白人と黑人との混血は、決して衰へたりと爲すべきではなく、寧ろ黑人の女性は白人乃至同色の男性を選むが故に、進化か退化か未だ俄かに斷じ難しとするも、伯國の現在は世界各國の人種の熔爐なりと稱せらるゝ實狀にある。これやがて北米人の同胞移殖民に對し、人種的差別を叫んで止まざるに反し、伯剌西爾人は何等之を問題と

爲さざる所以であり、又之と同時に、北米の人は一千萬の黑人を迫害窘窮して之を賊滅せしめんとするに對し、伯國人は自由に之を開放して、反つて色彩の差別を薄からしめんとする所以である。

而して千九百二十年の調査によれば、伯國の州別人口は凡そ次の數字により示すことが出來る。

州名	面積	人口	一方哩平均
アラゴアハ	二二、五七七方哩	九九〇、二七八	四三・八
アマゾナス	七三一、三六三	四九九、四四八	〇・六
ベイヤ	一、六四、六〇一	三、三七二、九〇一	二〇・四
セアラー	四〇、二四一	一、四三六、三〇九	三五・六
エスピリト・サント	一七、三〇八	四七九、一八八	二一・九
ゴヤース	二八八、四六二	五二八、八七九	一・八
マラニヨン	一七七、五一五	八五三、〇五〇	四・〇
マツト・グロッソ	五三二、二一〇	二七四、一三八	〇・五
ミナス・ジエラエス	二二一、八九四	五、七八八、八三七	二六・五
パラー	四四三、七八九	九九二、二九〇	二・二
パライーバ	二八、八四六	七八五、三四四	二七・二
パヨナト	九三、二六九	六七四、一一三	七・二
ペルナムブコ	四九、五六〇	一、九七五、四四一	三九・八
ピヤウエー	一一六、四九四	五四八、二五〇	四・七
リオ・デ・ジヤネ・ロ	二六・六二七	一、五〇一、九六九	五六・四
リオ・グランデ・ド・ノルテ	二二、一八九	五五二、〇七一	二五・三
リオ・グランデ・ド・スル	九一、三一〇	二、一三八、八三一	二三・四
サンタ・カタリナ	二〇、七八五	六三三、四六二	三〇・四
サン・パウロ	一一二、二七八	四、八二三、一〇〇	四二・〇
聯邦州	四三一	一、一五七、八七三	二、六八六・五
アクレ直轄地	五八、六七二	一〇四、四三〇	一・七
總計	三、二七五、五一〇	三〇、六四五、二九六	九・三

第四章　交通運輸

第一　河海と船舶

當時世界の商船國を以て誇つた葡萄牙國民の子孫である伯國民は、依然として海の子である。中央及南部伯國には鐵道網の擴張、相當の哩數を見るに至つた今日にあつても、尙隣接諸州との交通は河海共に大小の船舶を以つて之に充てゝ居る。それ故サン・パウロ州に於ける初代の殖民は、獨木舟によつてティエテ河を下つた。ティエテ河は海岸山脈に其源を發し、內方西北に流るゝこと四百哩にしてパラナ河に合し、終にラプラタ巨流に合するものである。而してアンデス連峰東側の諸大河は水量豐富にして、且つ巨河細流よく連絡あるが故に、亞爾然丁ベエノス・アイレス市より約四千哩の河流を遡つて、北部伯國のパラ州に達すること必ずしも不可能でない。

次にティエテ河がパウリスタの祖先が縱橫に活躍を試みたる時代の大道たると均しく、バイアの初代殖民の通路たりしものは、ミナス・ジエラエス州に發源して北に流れ、又東して海に注ぐサン・フランシスコの大河である。ミナス州に於ける金鑛及寶石の發見熾んなるに當つては、常時の勇敢なる殖民の唯一の交通路であつた。けれど其本支流を合せて約四萬哩の長さに對し、近代の最も進步せる大船巨舶を自由に上下せしめ、小蒸汽船短艇等をして遙かの上流に遡航せしめ、獨木舟の如きに至つては晝尙暗き森林の小川に分け入らしめ、時に或は急湍を起し飛瀑を爲す河の王アマゾンに至つては、單に伯國に於けるのみならず世界河流の宗主と仰がねばならぬ。

アマゾン汽船會社はこの巨流を航域として設立せられたものであるが、主としてパラ市とマナオス市間の往復に當つて居る。此他、英國汽船會社ブース社船及ロイド・ブラジル會社汽船等も亦此二市間を航行し、小型汽船を以つてタバジョ及トカンチン迄の航行をも營んで居る。

先きにいへるサン●フランシスコの巨流には、バイア汽船會社の汽船其交通運送に當り、バウル●アツフオンソ瀑布迄を航域とし、ミナス州ビラボラ市とバイア州ジヨアゼーロ市とに於て鐵道線に連絡する。又バラナ河にはサン●バウロ汽船會社の汽船、イタブラよりチビリサ迄を上下して居る。而して南方リオ●グランデ●ド●スル州パトス湖附近は、船舶交通の最も盛んなる地方であるが、こは湖に臨める各都市の連絡に當るが故である。

伯剌西爾と他諸外國との交通は、ロイド●ブラジル汽船會社が、紐育航路を有するの外多くは外國汽船に依るものと言ふべきである。中にあつて英國汽船會社ロイヤル●メール會社、ラムボルト●ホルト會社、ブース汽船會社、獨逸ハムブルグ●アメリカン汽船會社、佛蘭西大西洋汽船會社、伊太利南大西洋汽船會社の如き、何れも新裝の巨船をリオ港、サントス港に横たへ、伯國の人と物との海外運搬に當つて居る。其他和蘭船、諾威船、白耳義船、殊に最近に至りては米國汽船の活動漸く著しく其間の競爭又激甚となり來つて居る。而して我大阪商船會社及び日本郵船會社が、僅かに五六千噸級の汽船を寄港せしめつゝあるは、以上の歐洲汽船に比し餘りに甚だしき懸隔と言はねばならぬ。

次に千九百二十一年に於けるリオ●デ●ジヤネーロ港並にサントス港出入船舶數及噸數を掲げ、伯國海運の大勢を示すことゝする。

入港	リオ港 隻數	リオ港 噸數	サントス港 隻數	サントス港 噸數
伯國船	一、二二八	一、〇五二、〇〇六	八二九	七五六、六六五
外國船	一、四六五	五、六七一、八八五	九二八	三、五九八、〇一六
合計	二、六九三	六、七二三、八九一	一、七五七	四、三五四、六八一

出港	リオ港 隻數	リオ港 噸數	サントス港 隻數	サントス港 噸數
伯國船	一、三〇二	一、〇四一、八一七	八二六	七四八、三七三

外國船	一、四七五	五、七〇二、〇四八	九四二	三、六三一、四七〇
合計	二、七七七	六、七四三、八六五	一、七六八	四、三七九、八四三

更に一千九百二十一年に於ける伯國出入船舶數の國籍別を示せば大要次の如くである。

國籍	入港	出港
伯國	一八、二八六	一八、〇八九
英國	一、五四一	一、五五八
米國	五一一	五二七
亞爾然丁	五〇七	五〇五
佛國	三六八	三六八
伊國	二八七	二八六
和蘭	二四〇	二四〇
諾威	二三三	二三五
獨國	一三八	一四〇
西班牙	一〇四	一二〇
日本	七〇	七二

第二　道路と鐵道

伯刺西爾に於ける道路の見るべきは、探金熱の旺盛なりし時代に設けられたるものに二つの道路がある。一はリオ・デ・ジヤネーロ市とミナス・ジエラエス州當時の首府オーロ・プレート間、他はサン・パウロ州サン・パウロ市と產金地の鑛山市間とである、前者は當時の殷賑な趣きを失つたものゝ、尙且形體を存じ、後者はパウリスタ人が其探金熱の冷却と共に農園に親んで以來、殆んど閑却さるゝに至つた。之と同時に海岸地方より內部に通ずる道路の一として、殖民史上重要なる地位を占むるはジエスイツト派によりてサン・ヴイセントを起點として其殖民地に通ぜられたものである。海岸の低地より峻岨の山道を攀ぢ、やがて高原に達するものであつて當時に於ける困難殆んど想像の外にある。

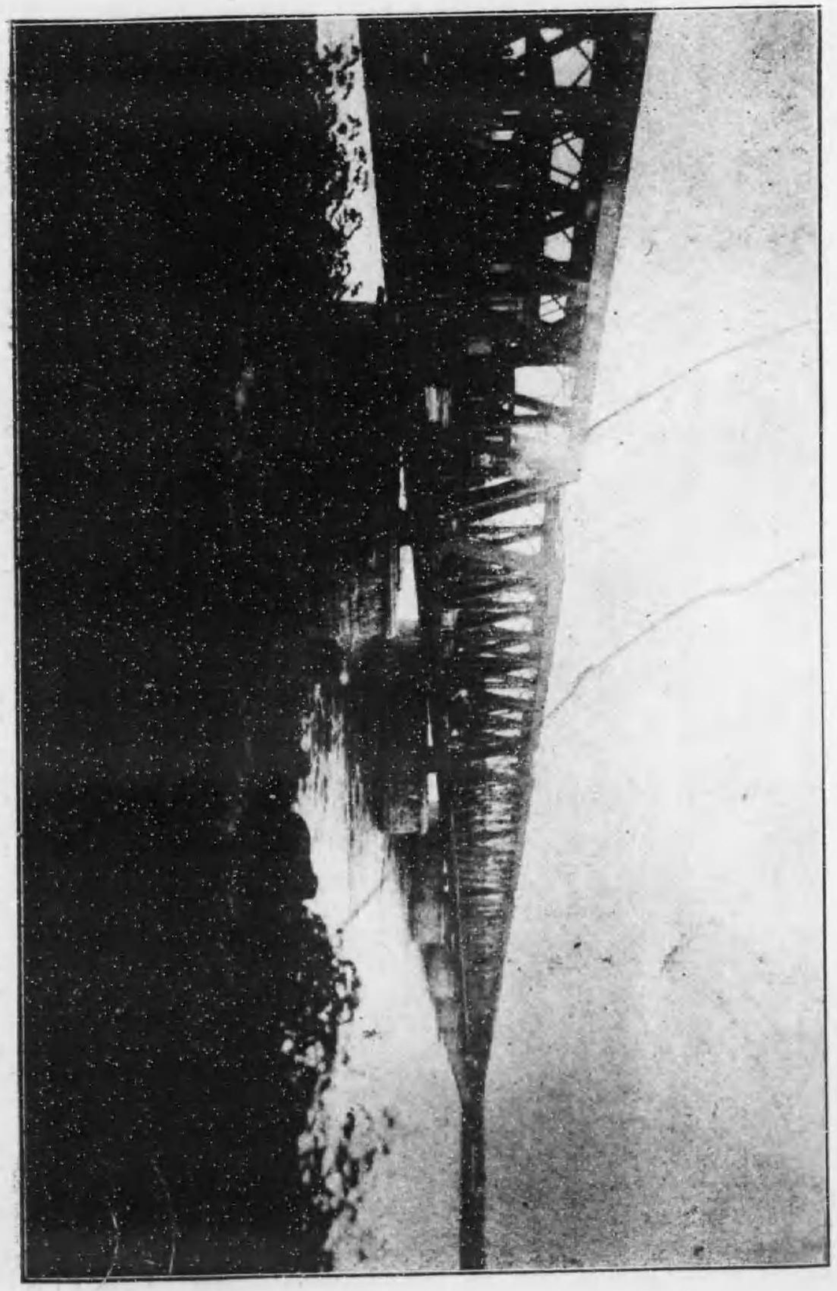
リオ市よりペトロポリス市に達する道路は、ドン・ペドロ第二世によつて建設せられた。而して王の離宮所在地としてのペトロポリスは、五百米突の標高にある一小都會であるが、今はアプト式鐵道により、又は往昔の勞苦を餘所に自働車を以て自由に往復することが出來る。

伯剌西爾に於る鐵道の第一は、千八百五十四年英國資本によるレオポルディナ鐵道會社が、リオ市より海岸山脈の麓に敷設せるものである。爾來伯國開發の重要なる素因となり、今日に在りては會社所屬鐵道線路一千八百五十哩に達し、リオ・デ・ジャネーロ、ミナス・ジエラエス、エスピリト・サントの三州に跨つて居る。線路の主なるものは、ヴイクトリア港より、砂糖產地たるカムポスを經てリオ市に達するもの、及びニテロイ市よりフリボルゴを經て海岸を走るもの、並にペトロポリス線、テレゾポリス線等である。本鐵道會社は創立以來幾多の消長を經來つたが、今日にあつては最も有利なる投資と認められて居る。殊に他の鐵道會社と均しく、軌道の敷設と同時に、周圍沿線の產業發達を計畫の一とし、且つ特許權獲得の一條件と爲すが故に、會社はフリボルゴ及びベムフイカに農園を設けて、曾て珈琲園たりしものの放棄せられたるに灌漑を施し以て豐饒なる土地と化し、或はカムポス市停車場附近に農園を創めて、不毛の地を化して棉花地となし、專ら沿線の開發に勉めて居る。

千八百五十八年には、リオ市よりケーマドスに至る約四十哩の線路が、ドン・ペドロ王によつて開通せられた。今日聯邦政府によつて經營せらるゝ幾多內地貫通鐵道の一部を爲すものである。次いで砂糖、珈琲、綿花、煙草、コーヒー等の農產物に富む海岸地帶の鐵道漸次敷設せらるゝに至つたが、北方バイア方面は其工事比較的容易なるも、南方サン・パウロ方面にあつては、其の必要の大なるに拘はらず、敷設工事は地勢上難事と目せられた。現今鐵道工事の驚異とせらるサン・パウロ＝サントス線は、英國會社によつて起工せられ、千八百六十七年、幾多の失敗と犧牲との後に開通せられたものである。卽ち世界第一の美しき線路として世に知らるゝ

ものであつて、急坂の部分は鐵索によつて列車を上下し、千九百一年前の舊軌道は主として貨物の運搬に充てられて居る。而してサン・バウロ市を中心に四方に走出する內地鐵道が、珈琲を始めとして棉花、冷肉等の輸出品を滿載し來り、一齊に其出口を求むるに當り、此線路は實に之が唯一の運輸機關たるが故に、南方ブラジルに於ける本線路の位置は極めて重大なるものと稱せられ、千九百十五年度にありては珈琲のみにて一千七百萬俵の輸送を試みて居る。而して此線路は先きのペトロポリス線及バラナ州バラナグア＝クリチバ線と共に、南方伯剌西爾に於ける三個の登攀線と稱せられて居る。而してバラナグア＝クリチバ線の敷設工事は、サン・バウロ＝サントス線に讓らざる難工事であつて、又其使命とする處も前者と略々同樣である。卽ちクリチバ地方に於ける內地產物殊にマテ茶の輸送に當つて居る。

ブラジル中央鐵道は、聯邦政府直轄の線路であり、リオ市を出發點として內方の高地に進入する。リオ市とサン・バウロ市との連絡は又此中央線の一部であり、ミ



ミナスゾエラエス州サンタ、フランシスコの巨流に架る鐵橋

ナスに入つては同州の首府ベロ・ホリゾンテを廣軌の終點として、更に狹軌を以てピラポラに達し、やがてゴヤース州聯邦首府豫定地を志して居る。途中クラリニョ驛より分岐する一線は、金剛石の產出を以て有名なるディアマンテナ驛に達し、何れも廣漠たる原野を縱橫し、同州產業の發達に伴ひ、物資の輸送機關として最も將來ある線路の一たるべきは決して想像に難くない。只其燃料として石炭を用ひ、且其大部分を海外に待つが爲めに、經營費は常に收益を超過し、中央鐵道は依然として收支相償はざるものゝ代表と言はれて居る。

サン・パウロ市を出發點とせる鐵道網は、サントス線の完成と共に直ちに着手せられ、或は州自身之が建設經營に當り、又私設會社の特許事業として之に當らしめて居る。千九百十六年時の州大統領は其敎書に於て州鐵道の概要を擧げ、總延長六千二百七十九キロメーターに達し、內四千三百五十五キロメーターは私設會社、千五百六十九キロメーターは州有、殘り三百五十五キロメーターは聯邦有たるを說いた。

而して州有鐵道中最も重要なるはソロカバナ線であつて、マット・グロッソ州境に迫つて居る。私設線にして伯國の資本により伯國人の經營たるバウリスタ線は、カムピナスを中心として北方バレトスに達し、珈琲產地の中央を通し同じく伯國私立會社線たるモヂヤナ線と共に、サン・パウロ州運輸交通の脊髓をなして居る。邦人殖民地たるリベロン・プレートは後者の要路に當り、ウニオン耕地、プロミッン耕地の如きは、バウリスタ線イチラピナ驛より分岐し、帝國領事館所在地たるバウルー驛を通過する西北線に沿ふものである。

斯くの如くサン・パウロ市は州内は勿論、隣接の諸州と相連絡し、更にブラジル鐵道會社の線路によりてパラナ、サンタ・カタリナ、リオ・グランデ・ド・スル諸州を過ぎりて、ウルグワイ共和國に入り、其首府モンテヴイデオに達するの便あるは、同市をして四通八達の要樞に位するものたらしめ、將來の發展眞に刮目に價するものと稱せられる。而して伯剌西爾鐵道會社の南方伯國に於ける經營諸線は、前記サン・パウロ州有ソロカバナ線、サン・パウロ＝リオ・グランデ線、パラナ線、リオ・グランデ・ド・スル州輕便線及サンタ・カタリナ州テレザ・クリスチナ線等である。

抑もブラジル鐵道會社は千九百六年バーシヴアル・ファルクワールの主唱により、南方伯國鐵道線を目的として設立せられ、沿線に於ける港灣の經營並に大規模の工業的開發を眼目とせるものであつて、亞爾然丁、パラグワイ、ウルグワイ、チリー等の諸國に得たる利權をも加へ、一個尨大なる企業が計畫されたのである。會社資本金十五億法の内、九億法を巴里に於て、他はブラッセル及倫敦の資本家により應募せられて居る。現在にありては三十八の姉妹會社を有し、鐵道線の外、リオ港に於ける冷藏庫、牧畜會社、殖民會社、木材會社、アマゾン河汽船會社等其主なるものであり、土地會社の所有地はマット・グロッソ、サン・パウロ、パラナ、リオ・グランデ・ド・スル諸州に於て八百餘萬エーカーに上つて居る。伯國投資團中一會社の經營として最も遠大なる規模と稱すべきも、その幾分は豫期の成績を收め難く、事業

全般としては萎靡不振と目せられて居る。

翻つて北方伯國の鐵道如何と見るに、伯國開發の動脈たる鐵道はエスピリト・サント州ヴイクトリアを終點として、暫く其伸張を止めたるかの感がある。卽ちブラジル・グレート・ウエスターン鐵道會社線路が、伯國東北部に走るのみであつて、バイア港との間に未完成の大虧隙を存し、コ、アの產地として知られたる內部地方には、たゞカラヴエリヨ港よりテオフキロ及オットの二市に達するものと、イレオスポよりコンキスタ市を覗く二線に過ぎない。而してバイア市を中心とする線路は、ナザレ及サン・フエリスより發するものあれども、深く內地に入らず、たゞサン・フランシスコ河沿岸のジョアゼーロ市に達する線路を以て最も重要なるものとする。

ブラジル・グレート・ウエスターン鐵道會社は千八百七十二年倫敦に設立せられ、レシフエ港よりチムバウバ市に至る百八十キロメートルの線路敷設を第一の事業とする。千九百一年バライバ州に延長線を設け、同年更に數線路の特許を得、今日にあつては、アラゴアス、ペルナムブロ、バライバ、リオ・グランデ・ド・ノルテの四州に亘りて線路延長一千一百哩を有し、マセーオ、レシフエ、バライバ、カベイロ、ナタール等の沿岸諸港を志す、砂糖、煙草、棉花等の產地たる地方開發に與つて力ありといふべきであるが、近年に至りては農產物の減收により業績不振を免れない狀態にある。

ナタール港よりセアラ州沿岸を縫ひ、フオルトレザ港に達する中間には、未だ鐵道線路の敷設を見ない。又フオルトレザ港よりイグアツに至る線路と雖も、僅に四百二十三キロメーターに過ぎず、又カモシムよりクラテウスに至る一線は三百三十五キロメーターを越えず、內地農產物の運輸は主として、大小船舶の司るところである。

アマゾナス州アマゾン河の流域に入りては、たゞ汽船及帆船、端艇の跋扈に委するのみにて、護謨を初め重要なる主產物の集散は鐵道によらずして、水路を走る運送船に待つを現狀とする。

伯國鐵道の概況は、以上に於て略々盡きたりと爲すべきであるが、今之を其面積三百三十萬方哩なるに比して總延長僅かに二萬一千哩なるを見ば、伯國鐵道網の完成は遙かに前途遼遠なりと爲さゞるを得ない。殊に殆ど同樣の面積を有する北米合衆國の二十五萬四千哩なるに比すれば、更に此感を深ふするであらう。何となれば伯國の資源開發はたゞ鐵道の敷設に待つべきであつて、此を外にしては到底其目的を達し難いからである。而して現在の鐵道會社はサン・パウロ州の例に見るが如く大部分外國の資本に賴り敷設特許と同時に、恰も北米大陸橫斷の諸鐵道會社が沿線の發達を其目的と爲せると均しく、開通後の土地開發を事業の一部と爲せるは皆揆を一にする所である。否此の如くしてのみ鐵道其物の成績を併せ擧げ得るのであつて人口稀薄なる內地に向つて、如何ばかり軌道を延長するも、之を利用する人なくしては、何等の實効を見るべきでない。故に本邦移殖民にして、投資編に說くが如く個々家族の移殖に非ずして、相當地積に一定の計畫を以て之を試みんとするにあらば鐵道敷設によつて交通を安全にし、更に其輸送によつて生產物の市場搬出を容易と爲すこと、其第一の條件であらねばならぬ。之と同時に中央及南方伯刺西爾に鐵道線の發達著しくして、北方に甚だ遲緩なるは、氣候、風土と人と資本との關係を說明するものと言はなくてはならぬ。

第五章　伯刺西爾の產業

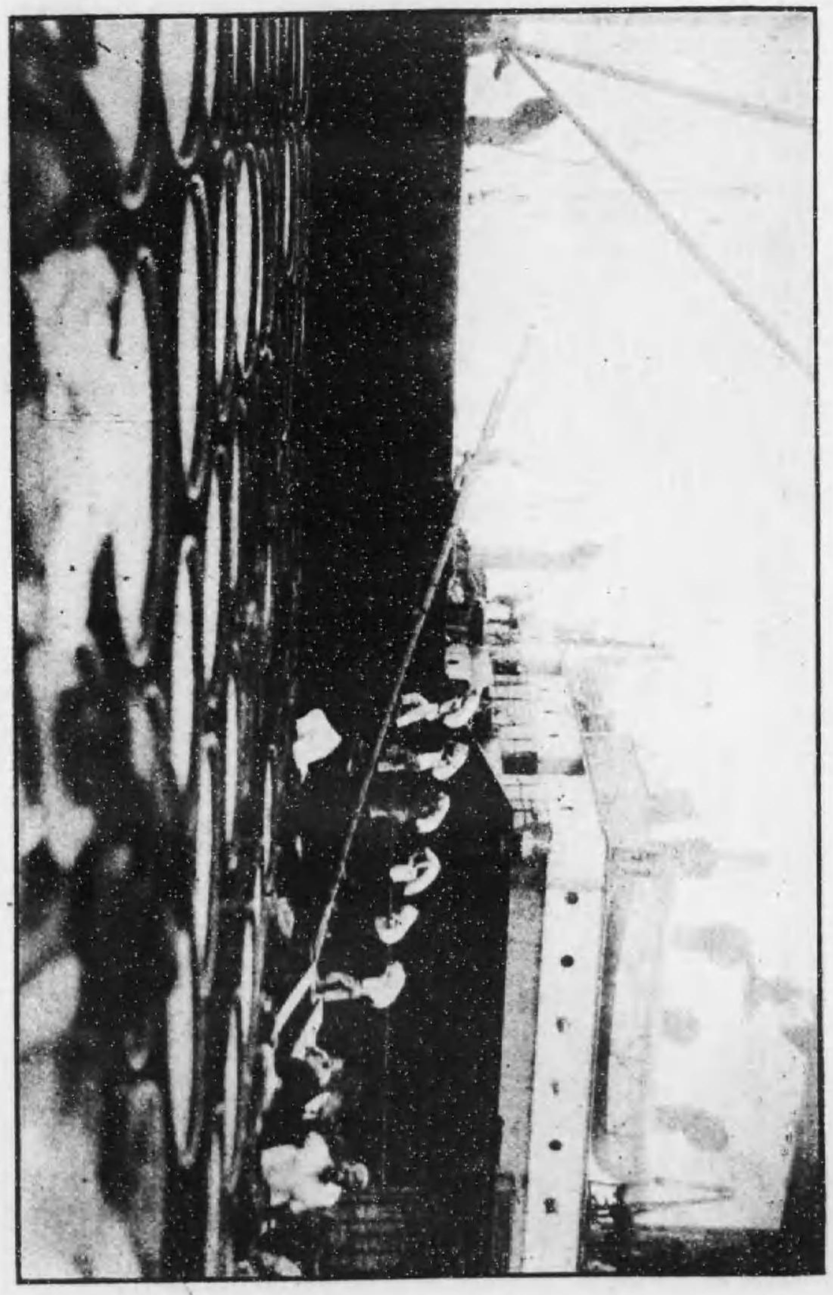
第一　珈琲業

伯刺西爾に於ける產業の大體は、我國との關係に於て投資篇に之を說き、又珈琲栽培業としては、同胞移殖民編に於て特に本邦移殖民との關係に於て、詳細に亘つて記述を試みて居る。けれど他の關係に於てせず、伯刺西爾自身の產業として何物が其主要の地位を占め、如何なる規模に於て經營せられ、又如何なる將來を有するかを見るは、單に移殖民と投資關係に於てのみ伯刺西爾を見ずして、對世界の關係

に於て之を觀察する所以であり、伯國を說くに際しては吾人の當に取るべき正當の順序でなくてはならぬ。

伯國現在の狀況を以てしては、伯國主產業は何を措いても珈琲栽培業である。其栽培地積に於て、其產額に於て、又其內外供給組織に於て啻に產出諸州の事業たるのみならず、伯國聯邦の事業であり、國を擧げて其豐凶と好不況とに關心するは、我國に於ける米作以上と稱すべきである。

抑も珈琲樹の伯刺西爾に移殖せられたるは、西曆千七百二十七年であつて、リベリカ種の幼樹をパラ州の平地に植ゑたるを以て濫觴とする。爾來漸次南方諸州に傳播し、サン・パウロ州の高原に所謂赤土栽培地を發見するに及んで、一躍南米に於ける大產業たるを見るに至つた。而して十九世紀の初頭に於て、南方伯國より數袋の海外輸出を傳へられて居るが、眞に其發達を促すに至つたのは、ドン・ジョン王が伯國の海外貿易禁止令を撤廢せる後といふべきである。斯くて千八百三十五年頃



サントス港の珈琲積込み

より海外輸出を開始し、千八百四十年には其額百三十八萬三千袋に達し、千八百七十年に至りては、年々三百萬袋の珈琲を海外に供給するの盛況を示すに至つた。其一袋は六十キロ入であつて凡そ我十六貫匁に相當する。

されど斯くの如く其產額の增加を見るに至れるも、一面に於て勞働不足の困難漸く加はり、千八百八十八年奴隷開放の實施せらるゝや、益々其急を告げ、南方諸州は之が爲めに少なからず困難を感ずるのであつた。海外移民の誘致は、正に此不足を補はんが爲めに企てられたのであつて、北方伊太利の農民は群を爲して南下し來り、殊にサン・パウロ州に入りては、珈琲園就働者として、又やがて獨立農として異常なる好成績を擧げ、益々珈琲業の發達を成すに至つた。卽ち市價の如きも時としては驚く可き額に達し、一袋百三十五法(五拾四圓)に販賣せられ、生產費平均五十法を控除し、六十乃至七十法の純益を見ること決して珍しくはなかつた。之が爲めに其栽培地積益々擴大し、產額亦從つて激增し、終に千九百六年——七年の有名

なる收穫年度を見るに至つたのである。

此年サン・パウロ州にあつては一千五百三十九萬二千袋、リオ・デ・ジャネーロ州は四百二十四萬五千袋、エスピリト・サント及びバイア二州を合せて、五百萬袋を產し伯國の全產額約二千萬袋の巨額に上つた。然るに當時世界の全消費高は約一千七百萬袋であつて、啻に伯國の產額を消化し得ないのみでなく、墨西哥及中央亞米利加諸國の一百五十萬袋、コロムビヤ共和國の一百萬袋、東西印度諸島の四十萬袋更にモカの本場珈琲十一萬五千袋の產額あるを忘れてはならない。且つ之に加ふるに世界各市場の倉庫に在庫品總額一千一百萬袋を有し、而かも珈琲の市價は曾ての黃金時代を一場の夢として、下落に下落を重ね、此豐作と此貯藏に面して一袋當り四十法乃至五十法に過ぎないのである。故に强ひて歐米の市場に之が投賣りを試みんか、伯國の主要產業たる珈琲業の破滅は元より當然の歸結である。

珈琲調節案は此難局を善處せんが爲めに生れたものである。恰も我國に於て試みられたる、米價調節、生絲調節と同巧異曲と稱すべきである。卽ちサン・パウロ州自ら主腦者の地位に立ち、聯邦政府の援助、產珈琲諸州の同盟により成立し、加盟諸州は一定の價格以下にて輸出珈琲を賣却せざること、輸出珈琲には一袋三法の出港稅を課する事、珈琲樹の植付を制限する事、海外珈琲飲用の宣傳を爲す事等其主なる綱領であつた。けれど之が實行に當り種々の支障起り、終にはサン・パウロ州獨り此難局に向ふことゝなつたが、珈琲の市價は益々漸落するのみであつて一袋約三十法の安價を呼ぶに至つた。玆に於て州政府は、千九百六年八月以降、獨、英、米の諸銀行より四百萬磅を借入れ、敢然として其州產珈琲の買入及貯藏に當つた。

斯くて千九百七年七月に至りサン・パウロ州政府は、其買付を停止したが、買入額は此時既に八百萬袋の大量に上り、前の資金に加ふるに、州政府の得たる外債二百萬磅及州有鐵道ソロカバナ線の擔保借入等によつて其調達を計つたものである。而して其大部分を世界の大市場に送り、徐ろに好機の到來を待つのであつた。然る

に大豐作の年に次ぐに大凶作の年を以つてし、其翌年に至りては僅かに五百萬袋を産するに過ぎず、一袋三十法以下を稱せられた市價を六十法にまで引戻し、期待せる有利の賣却を爲すを得、茲に初めて調節の好果を收むることが出來た。爾來年に豐凶あり、市價に高下あるも、調節は依然として聯邦政府の政策として繼續せられ栽培者の保護に當る傍ら、海外市場の有利なる處分を苦慮して居る。次に最近五年間の産額輸出額及價格、並に世界産額との對照を示し、珈琲業の伯剌西爾産業中に於ける實勢力を示すことゝする。

年次	産額	輸出額	價格
一九一七年	一五、八三六、〇〇〇袋	一〇、六〇六、〇一四袋	二三、〇五四、二七九磅
一九一八年	九、七一二、〇〇〇	七、四三三、〇四八	一九、〇四〇、七六四
一九一九年	七、五〇〇、〇〇〇	一二、九六三、二五〇	七二、六〇七、二〇八
一九二〇年	一四、四九六、〇〇〇	一一、五二四、七八〇	五二、八二一、八五二
一九二一年	一一、四八〇、〇〇〇	一二、三六八、六一二	三四、六九三、八二一

最近五年間に於る伯國産珈琲と世界産額

年次	伯國産	諸外國産	世界總産額	世界消費量
一九一七年	一五、八三六、〇〇八袋	三、〇一一、〇〇〇袋	一八、八四七、〇〇〇袋	一四、八三三、〇〇〇袋
一九一八年	九、七一二、〇〇〇	四、五〇〇、〇〇〇	一四、二一二、〇〇〇	一五、九六八、〇〇〇
一九一九年	七、五〇〇、〇〇〇	七、六八一、〇〇〇	一五、一八一、〇〇〇	一八、四九九、〇〇〇
一九二〇年	一四、四九六、〇〇〇	五、七八七、〇〇〇	二〇、二八三、〇〇〇	一八、四六二、〇〇〇
一九二一年	一一、四八〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	一六、四八〇、〇〇〇	一八、五〇〇、〇〇〇

更に千九百十九年より千九百二十年に至る三箇年間の主なる輸出先と數量とを示せば大凡そ次の如くである。

	一九一九年	一九二〇年	一九二一年
仕向國			
米國	六、二一四、八二九袋	六、二四八、〇一八袋	六、一三六、八〇八袋
佛國	三、三七〇、八二四	一、五三九、九八八	一、五五五、九四五
和蘭	二五二、六〇七	三七六、二〇六	一、一四五、三一五
獨國	八、九二二	五四五、八三〇	九二二、五二〇

伊太利	二〇一、四二一	一、〇〇二、〇七〇	七五四、三七六	
白耳義	五二三、六六五	三一九、八七二	二八二、一五七	
亞爾然丁	一九九、八三八	二八五、二九九	二九六、三八三	
瑞典	五一七、二〇五	三八五、七七六	三二三、四五〇	
日本	二、五〇三	二、六〇三	二、六〇六	

而して千九百十九年より千九百二十二年に至る四年間の、輸出平均價格は大要次の如くである。

一袋當り	一九一九年 八四ミルレース	一九二〇年 八八ミルレース	一九二一年 五九ミルレース	一九二二年 一〇五ミルレース

三ミルレースを以て邦貨一圓とせば最後の百〇五ミルレースは邦貨の三十五圓に相當する。

以上により伯剌西爾の珈琲業を要約せば大凡そ次の如く述べることが出來る。即ち伯剌西爾全國を擧げて珈琲栽培地は二百餘萬ヘクタレース（約二百萬町餘）に亘り、之に珈琲樹約七億二千二百萬本（株）を植付け平均年產額一千二百萬袋を收穫し二千五百萬磅を平均年收入となし、之が爲めに投入せる資本は少くとも一億磅（十億圓）に達するものと見るべきである。

却說珈琲園卽ちファゼンダにも、珈琲園主所謂ファゼンデイーロにも、幾多大小の階級あることは固より言ふを俟たない。例へばシュミット大佐の如く、一珈琲園主にして年々一萬二千噸內外を產出するもあり、又五アルケールの珈琲園を大事と賴む獨立農もある。而して通常ファゼンダと稱せらるゝ程度の農園に在つては、農園の稍々小高き場所に園主の住宅が構へられ、幾百萬本の珈琲樹が綠の波を漂はせて、雲際に連るを瞰下する。附近には就働者の住宅が幾十百となく立並び恰も封建時代の王侯に家子郎黨の隸屬するが如き觀がある。倉庫、脫殼機、乾燥場、洗滌池又悉く備はり、最も後れ勝ちなる農業が新發明の機械によつて組織的に經營せられるのが普通である。

珈琲園の開花時は世にも美しき眺めである。亞熱帶の高原に、一時に降雪を見る

が如く、或は傾斜し或は隆起し蜿蜒として遙かに連るところ、恰も白雲の靉靆たるが如しともいへよう。花落ちて實を結び、やがて赤く色付く頃は、收穫時の初めである。細き枝を傷けまじと、巧に小さき實をこき取る老幼男女の群はいふまでもなく、全農園を擧つて遑しさを極める。摘取られた實は用水堀を紅の水と化して流れる。機械室に運轉も騷がしい。脫殼の後に所謂双子の豆が離れ離れとなつて精選されゝば、直ちに六十キロの袋に盛られ、日となく夜となく、之を滿載した荷車や貨車が、サン・パウロ乃至サントスの輸出港目懸けて送り出される。そして幾千百噸の珈琲は、年中の勤勞に對する好報酬として、幾百コントス（一コントは一千ミルレース）に變つて農園に歸つて來る、斯くてファゼンデイーロもコロノー（就働者）も共に喜びを分つ、伯國の農園生活は、世に興味深きものゝ一つである。

珈琲の輸出港はサントスを以て第一とする。之に次ぐはリオ・デ・ジヤネーロである。伯國輸出高の四割餘を占むる珈琲輸出は、主としてサントス港を經由するので

の珈琲の中燥乾

あつて、同港輸出額の六割五分を占め、其積込は機械力と人力とを併用し、大船巨舶常に輻輳して居る。從つて之を以て主業とする輸出店、銀行、回漕業者周圍に夥しくサントスは眞に珈琲の港と稱すべきである。

伯國の珈琲飲用宣傳は、又極めて組織的に且つ有効に行はれて居る。歐米の大都市に其本據を置くは言ふまでもなく、遠く我日本にまで及んで居る。現在の狀勢よりすれば、酒精飲料の制限が其一因であるとしても、珈琲飲用者が漸次增加しつゝあるは、爭ふ可からざる事實であつて、我國の如き國有の飲料あるに拘らず、需要は又年々の增加を示して居る。

第二　護謨業

伯剌西爾の產業中にあつて、護謨業と珈琲業ほど著しき對照をなすものはない。珈琲業にあつては、產額に於て既に大差ありといふものゝ、栽培、採集、精選、凡て科學的組織的に營まるゝに反し、護謨業にあつては、護謨樹の自然發育に任せ、

其採集の方法も依然たる舊慣法により、製法にも別段の改良なく、今も昔も市場に送られて居る。夫れにも拘はらず、伯剌西爾は、東方馬來方面の栽培護謨年額一萬五千噸に對し、三萬七千餘噸の所謂天然護謨の「バラ上物」を年產額として、世界に於ける有力なる供給者たる位置を保持して居る。而して世界に產する幾多種類の護謨中にあつて、獨り伯剌西爾產護謨の名を爲さしむるものは彼の巨川アマゾンの谿谷深く分け入つた、森林地帶に、人力によらざる野生護謨樹より採集するヘヴイア種に外ならない。

抑も彈力性、反撥性を備へ、且つ防水性を有する護謨の、印甸人によつて發見されたことは、數世紀の昔であるが、如何に之を利用すべきかは暫く歐洲人の理解にも上らなかつた。十八世紀の半ばより漸次之が新用途を發見する至り、或はケシゴムとして、或は防水用として使用せられ、更に十九世紀に入つては、北米合衆國に於ける新實驗卽ち護謨に硫黃を混ずれば、能く極寒極熱に堪ふべしとの試驗の結果ゴム工業の異常なる發達を來すに至り、近代工業に不可缺の必要品となり來つたのである。之に對しアマゾン地方は千八百四十年に於て、僅かに三百八十八噸を輸出するに過ぎにかつたが、次第に其數量を增加し、千八百八十年には千六百八十噸、更に十年後の千八百九十年には一萬九千噸の巨額に達した。斯くして千九百六年に至りては、其產額實に三萬八千噸に上り、從來に見ざる新紀錄を留めた。

價格の如きも、世界需要の增加と共に騰貴し、當初一封度米貨五、六十仙なりしもの、千九百五——六年には一封度一弗二十二仙を呼び、千九百十年に入つては、未曾有のゴム相場として、一封度一弗五十仙より三弗の騰貴を見るに至つた。從つて其集散地たるマナオス、パラの兩港は、所謂黃金時代を現出し、當時五萬の人口を有せるマオナス市の如き、ありとあらゆる奢侈驕慢の都と化し、アマゾン河邊に小巴里を出現するの慨があつた。千九百年に於けるアマゾナス州の公納金中、輸出ゴムより得たるもの實に百五十二萬磅印ち米貨八百萬弗を算せりといふに至つては、人

は唯ゴムを以て念とし、歐米より流れ入る黄金を以て身裝にも、住宅にも、道路にも、建築物にも、ある限りの贅澤を施したものである。けれど千九百十年以降、東方錫蘭島の一角に芽ぐみ出でた栽培ゴムが、世界市場の供給物たるを見るに至つては、先きの榮華も槿花一朝の夢と過ぎて、赫灼の日光に照されつゝ、アマゾンの河岸に立つ未竣工の建物、住むに人なき巨屋に、在りし昔の豪奢を物語るのみとなつた。而して千八百七十七年ウイックマンと稱する一英人が、アマゾン上流に入り、七萬粒のヘヴイア種ゴムの種子を携へ歸り、之を倫敦市外のキユー植物園に播種し次で幼樹を携へて錫蘭島に渡り、此地に移植せるが今日に於ける栽培ゴムの濫觴であつて、遂にジャヴア、ビルマ、新嘉坡等の廣大なるゴム耕地を爲すに至り、世界ゴム産業の發達史上紀念すべき好箇の物語りをなしたのである。

アマゾンに於ける天然ゴムの採集は、其乾燥期に始まる。北部諸州殊にセアラ州は採集就働者の供給地であつて、巨河を遡る汽船は、之等の勞働者、及び其家族を滿載して、マナオス市に到着する。而して採集者は此地に元締（アヴイアドール）を訪ねて、受汁壺、大鉈、小斧、バケツ、烟出し、食料品、衣服等の必要品を準備しアマゾンの上流に特有なるガイオラス船に身を託して、就働地と定められた採集區に志すのである。通常一採集區は五十のエストラダより成り。二エストラダを以つて一人の採集者の受持とし、一エストラダには平均七十本乃至百二十本のゴム樹がある。而して此採集區にゴム樹を發見し道路を作り、採集に便ならしめるものは、土地所有者の爲めに就働するマッテイーロの役目であつて、採集者は其道路の一隅に、假りの宿りたる小屋と、窯とを築くのである。

採集者の森林生活は可成に遑しい。朝は日の出前に受汁のコップや鉈やの七つ道具に武裝し、提灯を携へてほの暗い杜に分け入つて行く。而して斧を以て樹幹を剝いでは、迸る汁を金屬のコップに受ける。終日の採集を終りて假小屋に歸れば、熱帶の日も最う終りに近い。多くは單身者の就働である彼等は、夜の炊事も手づから

整へ、萬一に備へる用意の獵銃を傍らにして眠に就くのである。翌朝はコップの汁をバケツに明け、椰子の實を焚いて造つた火に之をかけて徐ろに煮詰めることをする、斯くして適當の大いさのゴム塊をなすに至るまで之を續けるのである。バラ、マナオス等の輸出港に見る黑色のゴムの大塊は卽ちこれであつて、受負區域內の採集終れば、採集者は之を携へて又川を下り、元締を訪ねて總勘定をする。

東方に於ける栽培ゴムの發達に驚いた伯國政府は、ゴム樹種子の輸出を嚴禁した。けれど時既に遲く、栽培ゴムは天然ゴムの脅威として市場に現はれて來る。其原料ゴムとして伯國產のものが夥しき雜物を混ずるに比べては遙かに優良である。夫故伯國の識者は栽培と同時に採集の改良を說いて止まない。けれどアマゾンの地方は之に耳を傾けず、大自然が幾百萬のゴム樹の無料供給をなすに、何を苦んで栽培を試むべきやと嘯いて居る。且つ其反撥性に於ても栽培ゴムの及び難き特質を具ふるものとして、依然として市場の寵兒たるを妨げないと說く者がある。けれど世界需要の增加に從ひ、之に伴ふ何等の施設なくして、果して從來の地位を維持し得るか否かは、考慮せらるべき問題であらう。

次に最近五年間に於ける輸出量を擧げて、世界に於ける伯國ゴムの供給量を見ることゝする。

年次	數量	價格
一九一七年	三一、五八九、五一八キロ	七、一四五、七六八磅
一九一八年	三二、二一〇、九一六	三、九三二、五六七
一九一九年	三二、二一三、三一一	六、一〇一、七九一
一九二〇年	二二、八七六、三二三	三、六三六、五三二
一九二一年	一七、〇七〇、八六九	一、一九五、四四六

因に世界に於ける護謨の最大消費國は、北米合衆國である。卽ち其六割乃至七割を消費し、其大半は自働車工業の需要である。之に次ぐは英吉利である、我日本の如きは近年漸く消費量の增加を見たが、千九百二十一年には二萬一千噸と稱せられ

て居る。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

此他煙草栽培及びコ、ア栽培の如き、又伯刺西爾農業中にあつて、少なからざる産額を擧げ、內外の供給に當つて居る。卽ち前のゴム業と合せ、伯國北部諸州の重要産業と稱すべきである、卽ち煙草は千九百二十一年に於て輸出額三萬二千百六十噸價格五萬二千九百二十五コントス(百八十五萬八千餘磅)に上り、コ、アは同じく千九百二十一年に於て輸出量四萬二千八百八十三噸、價格四萬七千五百四十九コントス(百六十八萬二千磅)に達して居る。殊にコ、アの如き、世界の消費年々に加はり、其産額の多きを憂へざる有樣である。故に栽培法に改良を加へて其産額の增加を計らば、伯國の主要産物として更に重要視せらるゝに至ること、決して疑を容れない。而して他の主要産業たる棉花業、砂糖業に關しては、本邦との關係に於て投資篇に之を說くが故に、こゝには之を省略することゝする。

第六章　伯刺西爾の社會

第一　社交の中心

旅行者に映つる伯刺西爾人についての最初の印象は、禮儀に篤い、丁重なる應接振りといふことであつて、汽車、電車、又往來にあつて、よくこれを實見することが出來る。碎けていへば人をそらさぬ愛嬌であつて、流石に拉典系の國民、南方葡萄牙人の血を承けた國民、つひ三十四五年前迄は、南米唯一の帝國を持つた國民といふことが深く印象されて、唯地理上に於てのみ南北兩米であつても、人に在つては全然趣きを異にする其對照振りが鮮明過ぎる程に鮮明である。

而して此禮節を重んずる國民の風尙は、將來如何に變化し行くかは別として、悉く佛蘭西を中心とし、文學藝術、科學凡て佛蘭西を大宗と仰ぎ、其源泉たる巴里は彼等に取つては、メッカであり、ジエルサレムである。卽ち第二の國語として佛蘭

西語が殆んど自由に使用され、男女の服裝より裝身具の微細なる點に至るまで、巴里直傳を誇つて得々たるものがある。加之、殖民時代の昔に於て、印甸人及亞弗利加黑人との雜交があり、近く歐洲諸國よりの移民招致時代に入つては、更に幾多の異つた血液を伯國人と爲すに至つた爲めに、現在の伯國人は、之れを生粹の葡萄牙人と比較するならば、遙かに世界的であつて、能く東西の人を容れ、有色無色の區別に嚴格でない。夫故南方諸州に於ける伊太利人、獨逸人、露西亞人等の移民に對しては、只彼等の好む生活に任せて、其國語も其習慣も舶來の儘とし、敢て伯刺西爾式を强要せず、自家の傳統を保つ伯國中心階級と併立せしめる餘裕を所持して居る。而して此無干涉に就ては彼等は次の如く言つて居る。卽ち伯國は人を容るゝ餘地あるに苦しんで居る、他國人の來つて之を耕し、伯國の爲めに有用の勤勞を盡すは彼等の多とする所である。之に對し伯國は唯外來者の感情と傳說とを尊敬し、何等の壓迫を加ふる事をしないのである。

此無干涉、放任の寬容主義を取る伯國の中心社會は、他の一面に於ては保守的であり、貴族的であり、容易に外來要素の侵入を許すことをしない。政治の中心地たる聯邦首府リオ・デ・ジャネーロ市、又はサン・パウロ州首府サン・パウロ市等に在つては、英米の社交要素と相交涉する機會は決して少しとしない。けれど一時的に多少の影響を受くることはあつても、佛蘭西を中心とする拉典味の風尙には何等の動搖なく、截然たる一區劃を爲すものと見られる。而して此敎養ある伯國の有閑階級は、又同時に伯國政治の中心であつて、幾多の政治上の黨、閥は玆に其源を發する。勿論時には例外があり、埒外より入つて政治上重要の地位に就くこと皆無ではないが、實權は常に上流の社會、葡萄牙系の子孫乃至卓絕せる知識階級の掌中に握られて居る。第四期大統領ロドリゲス・アルヴェス、第五期大統領アッフォンソ・ペンナ、上院議員ルイ・バルボザの如きは、共和政時代に入つての最も卓越せる政治家として、伯刺西爾人の誇りであるが、何れも此階級の產物である。

斯く政治の背景を爲す伯國の有閑階級は、又同時に有產階級であり、有產階級の大部分は必然に大地主の階級である。彼等の多くは政治を以て職業とする。地方と中央とを問はず、政權は常に是等の階級を往來し、政體は民主共和政であつても、情實因緣と北米の所謂スポイル・システム（利權は勝利者の所得）とは上下を通じて流行し、容易に他に移ることを快しとしない、サン・パウロ州に於ける伊太利人の發展は實に驚くべきものがある。其數と其實力とを以つてするならば、州政治の左右は必ずしも不可能ではあるまい。けれど伊太利の成功者は如何ばかりアヴェニダ・パウリスタに巨屋を構へようとも、政治の中心は嚴として伯國系の閥族與黨に存し安りに他の闖入を許さない。最近產業の異常なる發達に伴ひ、實業家たり商賣人たる必要と機會はあつても、暫く之を他に委任し、歩み馴れたる道路を以つて安全なりとするのが普通である。

併し乍ら此實業家乃至商賣人の擡頭、白人、黑人、又は混血種より成る大多數の勞働階級の覺醒は、上流の社會をして永く其獨尊を擅にせしめるであらうか？　問題は一に懸つて伯刺西爾の敎育如何に在りと稱すべきではあるまいか？

第二　宗敎と敎育

伯刺西爾の宗敎は初代ジエスイツト派を除くの外、敢て國內紛爭の種とは成らなかつた。殖民時代に於けるジエスイツトとバアンデランテとの爭は既に述べた如くであるが、それを外にして加特力敎のフランシスカン、ベネディクチン、ドミニカン並に其他の諸派が陸續として新世界に渡來し、僧侶、殖民、官憲間によく調和を保ち、一部政治にも關與し、母國と伯刺西爾との間に介在して、一個有力なる地位を保持するのであつた。千八百八十九年共和制確立以來は、政敎分離を斷行し、從來非難の的であつた幾多の慣習を改革し、寧ろ本來の面目に復歸した爲めに、加特力敎の聲望を重からしむること決して少くはなかつた。

伯國人が人種的差別に寛容であり、幾百萬の黑人を同胞として、敢て北米の如き

醜き爭鬪を見ないのは、加特力教の感化によるものと、一部批評家の唱ふる如く、少くとも伯國に於ける加特力教其物は確かに寛容の美德を備ふるものと言ふべきである。之を例せば、南方には獨逸殖民にルーテル派があり、露西亞殖民地には希臘舊教があり、英米人の在留地には又夫々の新教地帶がある。されど加特力教は之に對し何等の壓迫を加へざるのみならず、伯剌西爾の男子は、教會の事を婦女子の事とする一種無關心の態度を以て之に接し、異れる信仰の隣家にあるを毫も煩ひとしない。けれど押しなべていふならば、老若男女悉く加特力教の信心者であつて、何事を措いても教會第一の例證は、數多い聖徒日に官署銀行等がよく休業すると云ふよりも、教會の門前を過ぎる電車に、脫帽敬禮する幾多の信徒を見るといふことであらう。

加特力教徒は、之を伯國の南方諸州に見るよりは、北方諸州の方遙かに多數とする。又教會の如きもバイア、ペルナムブコ二州の如き、其州の人口に比較して格別に多數である。こは黑人及雜混種の此地方に多數居住するが爲であつて、彼等は何れの宗教にまれ、其崇敬禮拜に一種の素朴純眞を示すのが普通である。夫れ故「教會の市」と稱せらるるバイア市に在つては、東町西街教會を見ざることなく、朝夕の鐘聲に招かるゝ黑白の信徒の集散は、旅人の目を驚かすものゝ一つと稱せられて居る。

加特力教の他の社會的貢獻は、尼僧の教育事業に携はることである。市街地の女子の殆んど總ては、殊に上流の家庭の女子は、例外なく尼僧の經營する學校に養はるゝものといふことが出來よう。其教授方法の如き、研究と實驗とを基礎とする、獨逸又は米國の如く、進步的と稱し難きこと勿論であるが、而かも次代伯國婦人の教育に對し、拔く可からざる勢力を有することは事實である。

又中央の都會地を離れたる地方遠隔の地、殊に殖民によつて拓け行く新開地に在つては、教會の牧師は冠婚葬祭一切の中心人物であつて、村治町政亦此人に賴るを

常とする現狀である。政教分離は中央の都會の事とせられ、僻轍の地は依然として殖民時代の舊制を便とするかの觀がある。

伯剌西爾の教育を說くに當つて、若しクレマンソーの言つた如く、「學校は社會組織の最も正確なる驗溫器である」ならば、其學校によつて代表せるゝ、伯剌西爾の社會組織は、他の方面に幾多無限の强みを存するに拘はらず、獨り教育に於ては缺陷に滿ち、萎靡不振なりと稱すべく、殊に普通教育に於て然りと斷せざるを得ないであらう。

伯剌西爾の普通教育に於ける問題の焦點は、黑人、印甸人並に其混血兒を如何にすべきかにある、而して是等の要素を多數とする伯國の勞働階級は、奴隷制度は疾くに廢止せられ、大小教育の制度また公布せられたるに拘はらず、此等階級に對する教育如何が、奈邊まで伯國爲政家、有識者の考慮となつたかは頗る疑問であつて、大多數の態度は放任、不干涉の夫れと見える。從つて伯國人口の三割が被教育者であつて、七割は無教育であると云ふを耳にしても、東西の先進國がこの驚くべき數字に戰慄すると同樣の驚愕を感ぜず、男女を問はず下層勞働階級に文字を授くるは無益に彼等を目覺めしめるものであつて、彼等の滿足を脅し、心の平和を破壞するものと見做して居る。

伯國の教育が今日の如き程度たるを餘儀なくせらるゝには、又歷史上の原因をも數ふべきである。葡萄牙より渡來せる殖民は、新たに發見せられたる國土人口を開發教導するに足る、何等特殊の教養を有したるものと稱し難いのみでなく、帝政時代に至る數世紀間、本國葡萄牙は、伯國を以て只天與の金と寶石とを採集するの地となし、母國を除きたる他の外國との交通を禁じ、輿衆を愚にするを以て安全なる對伯策となし來つたのである。ドン・ジョン王が千八百八年伯國に難を避けて以來リオ市に小學校及中學校を設立し、千八百二十一年には、國費を割きて小學校の經營に當て幾多の專門學校の設立を見たものゝ、千八百二十二年の獨立時代には、伯

國の教育組織は猶混沌たる狀態たるを免れなかつたのである。

共和政の確立と共に伯國教育は稍々面目を一新するに至り、教育制度の改革を行ひ師範學校及專門學校を創設し、國費を割いて其完成を期するに至つた。けれども强迫教育の制度未だ布かれず、村落に於ける通學距離甚だ大にして兒童の出席容易ならず、又地方州政府は其權力を利用して、教員の任免宜しきを得ない等の諸原因の爲めに、豫期の効果を擧ぐることは頗る困難であつた。のみならず資產あるもの乃至初等教育を受けたる青年は、多くは法律、文學等に赴くを常として、專門の職業教育に就くことを屑しとしない。殊に法律修業は青年の殆んど全部の志望と稱すべく、之れによつて政治界、操觚界に入るの準備を爲し、又社交界に入るの通券を作つたのである。伯國に於けるドットトールの稱號は、現今にあつては頗る安價に呼び交はされて居るが、法律、醫學、工學等の專門學校得業生に與ふる稱號である。

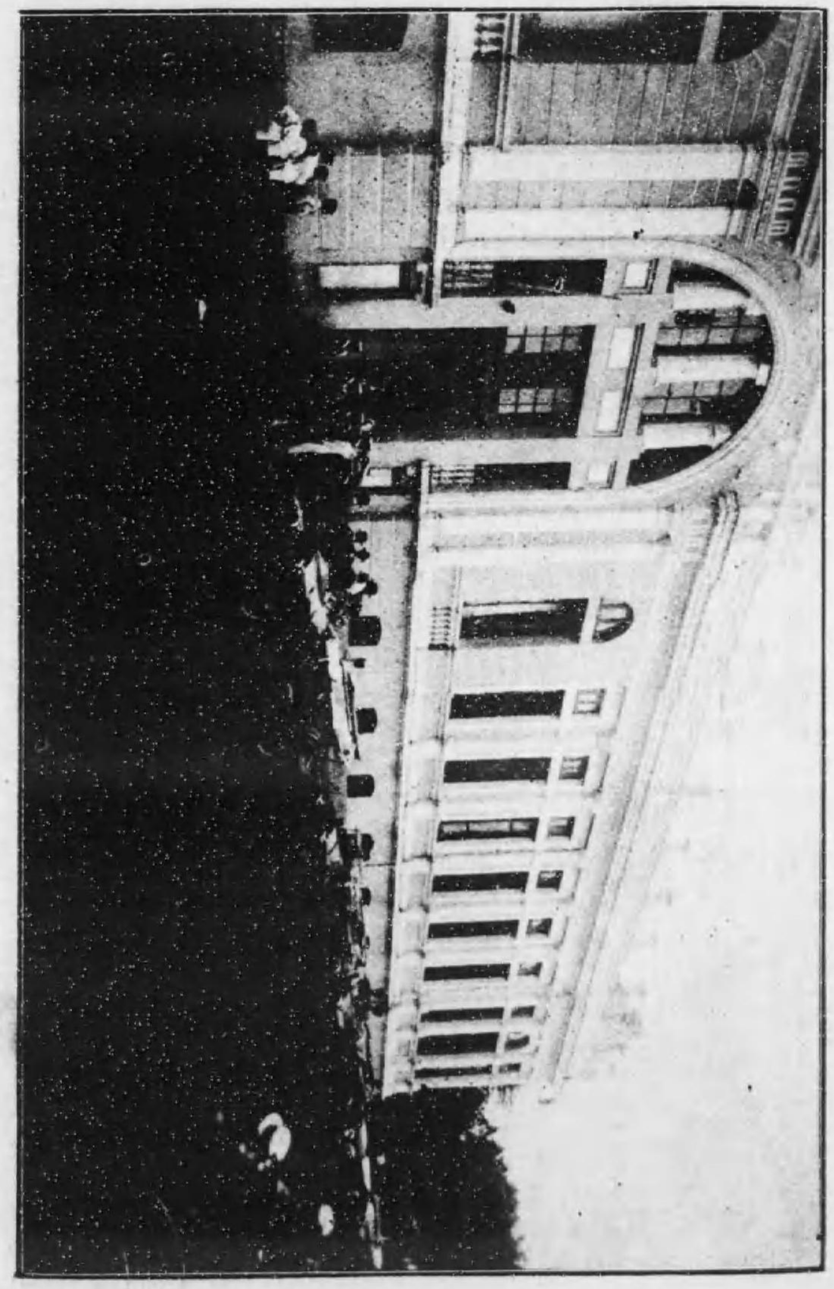
伯國教育行政の管掌は、言ふまでもなく、聯邦政府の文部當局にある、そして今日に在つては初等教育は言ふも更なり、中等、專門、高等の教育何れも歐米の先進に隨つて種々の施設を試みて居る。從つて首府リオ・デ・ジャネーロ市は伯國文化の淵叢と稱せらるべきである。而して聯邦諸州中の首位を占むるサン・パウロ州は、又教育制度に於ても第一等の組織と施設と經費とを有し、最も模範的と稱せられて居る。ミナス・ジェラエス州の如き、又最近に於て特殊の進步を爲し、州政府の設立に係る小學校の如きは、伯國中最も完備せるものとの評がある。又其起源と歷史とに於て、各州各市夫々の誇りたるべき專門學校を有し、互に相角逐して居る。例へばペルナムブコの法律學校、バイアの醫學校、リオ市の工業學校、サン・パウロ市の法律學校等卽ちこれであつて、是等の得業生は各其專門に於て、伯國社會の中堅をなすものである。

外國人の設立に係る諸學校にして、伯國教育の爲めに、特筆すべき貢獻を爲すもの又決して少くない、彼のリオ市に於ける佛蘭西學校の如き、サン・パウロ市マッケ

ンジー・カレッヂの如き、何れも私設學校の餘々たるものである。殊に後者は幼稚園、初等科、高等科、並に技藝科を設け最もよく知られたるものゝ一つである。伊太利移民の伊太利學校及南方リオ・グランデ・ド・スル市に於ける獨逸移民の獨逸學校等は其自國語を以て一切の教授に當るを特色とするものであるが、殊に後者は徹頭徹尾獨逸式教育を施すに於て、是非の議論を捲き起した事は、伯國人の記憶に新なる所である。

第三　伯剌西爾婦人と家庭

聯邦首府のリオ・デ・ジャネーロ市及サン・パウロ市の中央衢に、綾羅を纏ふ婦人の群れを眺めたならば、歐米の大都市と何等異るところ無く、頗丈な主婦といふよりは、華奢な都會仕込みの婦人の多きに一驚を喫するであらう。けれど眞の伯國婦人は、リオ市のアヴェニダ乃至オウビドールの小賣店區に發見せらるゝのではなく、寧ろ家庭に引籠る深窓の婦人とも云ふべき點に於て、より多く其本領を窺ふこ



ミナスヽジエラエス州ベロヽホリゾンテ市小學校

とが出來る。

伯國婦人の敎育は其少女時代に在つては、多くは加特力敎僧院乃至公立學校に於てするものゝ、大體は保守的のものであつて、婦人の學校敎育が直ちに御轉婆を連想せしめる程のものではない。勿論中には巴里其他の大都市に學び、數ヶ國の國語を自由に繰り、乘馬にも戸外遊戯にも男子に劣らず活潑なる妙齡婦人を見ないではないが、夫等は上流の階級に屬せるものであつて、中流家庭の少くして、伯國の社會は上流と下流とより成るものと思はるゝ現在に於ては、所謂新しき婦人の出現は今日の伯國の問題ではないのである。從つて歐洲の婦人が自家の地位に覺醒して、母と祖母との、甘んじて受け容れた運命を齒痒しとなし、やがて職業婦人の一團を造り、あらゆる方面に男子の領域に迫るが如きは、一般の伯國婦人にとつては、餘りに甚だしき飛躍である、寧ろ祖母の歩みし道を母に案内されつゝ、己れも亦辿り行くに何の不思議も無いとするのが其大體であらう。

伯國婦人は一般には早熟であるとせられて居る、これ多くは南方の風土氣候乃至人種上の系脈の然らしむる所であり、之と同時に應接振りの典雅と、愛嬌たつぷりの言動とが、この感を與ふること尠くない。而して歐洲諸國を始めとして、年々に入り來る獨身移殖民の爲めに、男子の數が常に女子の數を超過し、且つ北米婦人の如く、結婚生活の回避を試みない彼等は、其婚約、結婚に至るまでの經過は、決して自由放任ではなく、恰も我國の如く父母長上の嚴重なる監督の下に行はれる。而して遲速は暫く措き又必ず其處に到達するものとして、單に在來の伯國人とのみならず、何國の若者とも偕老同穴の契を結ぶことを異としない、是れ卽ち我國同胞の數者に、伯國婦人との結婚者を見る所以であつて、北米の數州が、白色婦人と有色男子との結婚を禁じたる周圍とは、全然異つた天地に育つものといはなくてはならぬ。

又伯刺西爾婦人の眞價は、主婦たり母たるに存するものといふべく、彼等の結婚生活に世帶の苦を味はうこと、又は多數――然り眞に多數である――の子女の母となることに、二なき興味を有するかに見える。斯の如きは拉典系の人種は、之をチユートン系乃至アングロ・サクソン系に比して、家庭を重しとするの念薄しとせらるゝ一般の信念に矛盾するものであるが、こは伯國人の祖先たる渡來葡萄牙人が、イベリア半島に其勢力を張りしムーア人より得たる東洋の家族觀を傳へたものであつて、家長崇拜、家族中心の傳統習慣は、之を語る最も顯著なる例證である。

伯國の家庭には父母の權威がよく尊敬せられ、子女は其兩親に對して敬虔の態度を持して居る。父の室に這入る男の子は、必ず父の手に接吻する。恰も其父が祖父母に爲すが如くであり、又之に依つて家長尊敬の重んずべきを彼等の子女に傳へる。而して此等の傳統を中世紀其儘の樣式に示すものは、南方諸州に於ける大地主、卽ちファゼンデイーロの家庭に如くものは無い。彼等は富に於て地方の有力者であるのみならず、廣大の農園を有する地主である。數十の小作人と、數百千の牛馬とを有

し、何人にも依賴することなき自由獨立、而も人に接して歡待殘す所なき生活を營むものであつて、地方はいふに及ばず中央の政治も亦彼等の左右する所であり、伯國社會の核心を爲すものである。

家庭に於ける伯國婦人は、衣食の雜事を厭はず、多數子女の敎育に沒頭し、幾日戸外に遊ばざるも敢て訴ふることなく、凡てを家庭の幸福と安泰とに捧げて毫も悔ゆる所がない。若し良妻賢母主義を以て婦人敎育の標的とするならば、伯國婦人の多數は敢て世の唱へざるに先だつて、自ら之に赴いたものと見ることが出來よう。

又伯國の家庭は殆んど例外なく黑人の男女を家婢家僕とする。而して彼等に對する態度は、屢々北米に見る技巧の親切ではなくて、我と彼とを區別せざるものゝ寬容であり溫情である。故に黑人婢僕もよく主人夫婦に仕へ、其子女に對しては、親切にして表裏なき伴侶たり媒姆たるものである。

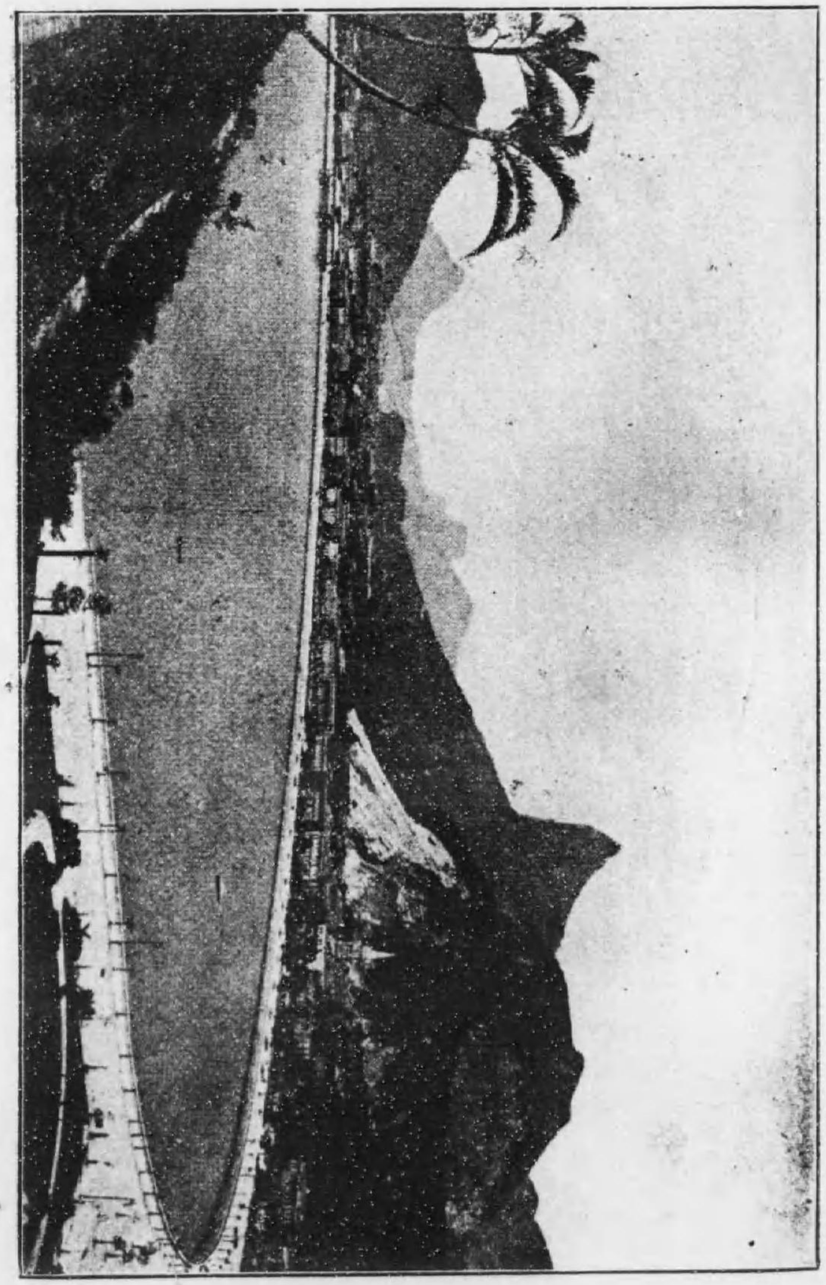
又この家庭本位、家族中心の風は、伯國人の親戚關係を、外來人の想像以上に重大視する習慣を築き上げて居る。卽ち兄弟又は叔姪關係にある者の、偶々悲境に陷るあれば彼等は其全家族を客として優遇し、徐ろに機會の到來を待たしめ、之に對し特に厄介物視することなく、又寄寓者にありてもやがて報償の期あるべしとして、其歡待に浴することを常とする。之と同時にこの姻戚關係を社會公私の事に及ぼし政府の要職を技倆を先きとせずして、この關係を辿る情實貧緣に決することあるは屢々耳にする所である。

第四　伯剌西爾の文藝

新世界の北米にその文藝を許すものは、南米の伯國に又其文藝を許さなくてはならぬ。而して北米の文藝が多々英吉利文學の移植であると爲すものは、伯國文藝を以て又葡萄牙文學の移植と爲すであらう。けれど伯國今日の文藝を爲す要素は、單に葡萄牙の文學藝術の移植敎養ではなくて、佛蘭西に於ける自由思想勃興以來の新思想を取り入れた、伯國獨自の文藝の萠牙しつゝあるの事實を看取しない譯には行か

ぬ。而して其文藝が未だ世界的ならずといふことに於て、伯國文藝の存在を疑ふならば、我國の文藝と雖も亦世界的ならずとの批評を否むことは出來ない。

拉典系の血を承けた伯國人は、美に於て敏感である。殊に世界三大美港の最と稱せらるゝリオ・デ・ジャネーロを首府として、此處に伯國文藝の中心を置く彼等は、其比類なき天然と共に稀なる環境に置かれてある。語學の才を又南方民族の特色とする彼等は、佛蘭西語を第二の國語として、佛國の文物に親炙する以外、西班牙、伊太利の類系語は言ふに及ばず、英獨の如きチュートン語にも及んで居る。而して儀容に於て典雅を爲し、文字に於て措辭優麗をなし、殊に會語の故に會話を樂しむの風ある彼等は、雄辯を以て一種の特技となし、眩しき迄の身振手眞似を加へて聽衆の前に立つを辭しない。詩は又彼等の好むものゝ一つである。文字を有する者の青年期は華想の詩化、殊に卽興詩に重きを置き、家庭又は交友の會合、婚姻、誕生日、祝賀等の宴席には、相競うて其技を戰はすものとせられて居る。けれど此等の素人(アマチューア)



リオ・デ・ジャネーロ市オペラ劇場

詩人を別として、眞に伯國の詩人として國人の推稱措かざるは、オラヴオ・ビラクである、其詩集ヴイア・ラクテアは佳作の一と稱せられ、文才を認められたる結果伯國學士會員の一に列せられて居る。其他アルベルト・デ・オリヴエーラの如き、又印甸人の生活を題材とせるゴンサルヴエス・デイアスの如き何れも伯國が生める一代の詩人である。

物語及小説に至つては、舊世界に見るを得ざる幾多の題材を借りて、彼等獨自の領域を開拓して居る。卽ちヴイスコンデ・タウネーの著たる「インノーセンシア」は伯國內地に於ける農園生活を描いた者であつて、さらでだに興味を唆るフアゼンダの生活に纖細傷情の發表を與へたものである。其他コエリヨ・ネットトの「オ・セルトン」は內地の素朴なる生活を最も鮮明に描き、ジョーゼ・アレンカールの「ゴウチヨ」は伯國牧童の生活を主題とせるものである。而してアマゾンの護謨林を叙せるものにはロドルフホ・セオフイロの「オ・バロアラ」があり、バイア內地の金剛石探求を題目

とせるものには、リンドルフオ●ロシヤの「マリア●ドウサ」がある。

リオ市に遊んだものは、アヴエニダの盡くる頃に小公園を前にした四層樓の大廈を見るであらう、是卽ち伯國の誇りである國立圖書館であつて、文藝上の機關と設備の必ずしも豐富でない伯國に在つては、文藝上の唯一の寶庫と稱せらるゝこと强ち誣言ではあるまい。千八百八年葡萄牙王の攝政ドン●ジョンの創立に係り、リスボンより遷都の際王立圖書館の書籍六萬部を携へ來れるをこゝに納めたのである。現今に於ては、三十六萬餘部の印刷本、五十六萬九千の寫字本、六千八百七十六の地圖、十二萬三千餘點の圖畫、二萬八千七百餘點の貨幣及び紀念牌を所藏し、千九百十年以來輿衆の觀覽に開放せられてある。此他ドン●ペドロ一世王の古文書及武器、アザリン●バイブル、及カモエンの「ルヂアタス」第一版を加へて眞に文藝上の博物館たるの觀がある。之と相隣りして國立音樂學校、國立繪畫院及美術院がある。何れも國立博物館と同一の組織の下に置かれてあつて、伯國の文學美術の爲めの研究所、奬勵所たるの役目に當つて居る。

伯國新聞紙は何を措いても、ジョルナール●ド●コムメルシオを第一とすべきであらう。リオ市に其發行所を置き、其の勢力と、其半官報たると及資力に富めるとに於て、遙に他の同業輩を拔き、南米に於ける最も有力なる新聞紙の一とせられて居る。其他同市に於ける新聞紙はオ●バイズ、オ●イムバルシアル、オ●コレーヨ●ダ●マニアンがある、何れも朝刊新聞であつて、最後のコレーヨ●ダ●マニアン紙は、他の新聞紙に比して、必ずしも我國人に同情を有するものでないとせられ、時として同胞の大擧移民を北米電報として揭げ、反日本約記事の散見するも此新聞である。アノイテは夕刊新聞中の尤も勢力あるもの、其發行紙數朝刊新聞の二三を遙かに凌駕するものと言はれる。

ア●カレタ、フオン●フオンは週刊雜誌の尤なるものであつて、其諷刺畫には時に辛辣骨に徹するものがあるが、其寫眞畫報と共に社交界には廣く愛讀されて居る。

サン、●バウロ市には、創立以來六十年を數ふるコレヨ●バウリスタノがある。けれど其發行數に於てはエスタド●デ●サン●バウロを首位とすべきであらう。而して伊太利系市民多數を占むる此市には、從つて伊太利語を以つてする新聞紙を有し朝刊にファンフリア、夕刊にヂョルナーレ●デリ●イタリアニがあり、週間にイタリアノがある。又獨逸民の爲めには、デイアリオ●アレモンがあり、其他佛蘭西、西班牙、土耳古、日本及露西亞人の爲めに皆夫々の新聞紙を有する點に於て、サン●バウロ市は聯邦首府たるリオ市にも優りて遙かに世界的である。此他諸種の出版物を加へてサン●バウロ市は約八十種の定期刊行物を有し、同州どしては二百種餘の日刊、週刊の刊行物を數ふるといふに於て、伯國語以外の國語を以つてする出版物の多數なること、到底他州の比ではない。

伯國文藝の中心であるリオ市及サン●バウロ市を離れては、レシフェ市のデイアリオ●デ●ベルナムブコを第一とすべく、バイアにはデイアリオ●デ●バイアがある。バラ及びマラニョン州同じく其州の新聞紙を有するも、遙かに地方的であること言ふ迄もない。

外國の出版物にして、其國人以外多數伯國人に愛讀せらるゝは佛蘭西語の出版物である。單行本に於ても週刊、月刊の定期刊行物に於ても、書店の書架は大部分佛蘭西書を以て埋められ、如何に佛蘭西文化の影響の甚大なるかを思はしめる。文學物にあつては西班牙、葡萄牙の刊行物亦決して少くない、が此等の領域以外、科學上の書籍、卽ち醫學、理化學、建築學等に至つては、最近英米の書多少紹介されて居るものゝ、佛蘭西物の勢力は依然として伯國人の間に深く廣く行き亘つて居る。

第五　戸外運動と富籤

千九百二十三年夏二月、伯國獨立百年祭記念萬國博覽會佛蘭西館に於て、館前に建立せる銅像の除幕式が、佛、伯官憲を初め朝野の名士を集めたる內に擧行せられた。而して伯國人が此除幕式に非常なる興味と矜恃とを感じたのは、この銅像こそ

は巴里市の名物たるエッフエル塔を、世界最初の飛行機を以て巡れる伯國人サントス●デユモンのであつて、彼の飛行界に於ける其功業を記念するが爲めであつたからである。又伯國人の飛行機及飛行家に對する興味と尊敬とは、北方人士の想像以上に出て殆んど熱狂的と稱すべきである。彼の葡萄牙の飛行家の大西洋横斷、又は北米合衆國飛行家の縱斷飛行等に於て、其リオ市到着に際しては、全市擧つて歡迎に勤め、幾萬の群集着陸地に蝟集し、其勇士の一瞥を得又は一指にても之れに觸れんとするが如き、正しく偶像に對する態度であつて、常にガアナバラ灣上を翱翔する陸上飛行機又は水上飛行機に對しては、彼等は豐かなる想像と憧憬とを以てし、眞にサントス●デユモンの同胞たるを示すのである。

されど地上の遊戯運動として、伯國の青年を熱狂せしむるは、英國人の傳へた蹴球であらう。リオ市、サン●バウロ市の如き都會地にあつては、完備せるグラウンドを有し、其競技に幾千の觀客を集めるのみでなく、かゝる都會地の空地は、殆んど其練習競技に使用せられて居るといふも過言ではない。而も其流行の甚だしき殖民家族の數十を集めたる村落には、必ず青、少年の蹴球團を見、あり餘る空地に鞠を飛ばして居る。曾てリオ市の一新聞紙が最も人氣ある戸外運動は何ぞやと讀者に尋ねたる際、第一蹴球、第二に競馬、第三に競漕、第四にローン●テニスを擧げたのを見ても其一般を知る事が出來る。

第二の競馬は、拉典亞米利加系の最も好む處であつて、南米の大都市にして競馬場の設備なきもの無しといふ現狀である。リオ市にはジョッケー●クラブ及ダービー●クラブの二團體があり、何れもアヴエニダに宏壯なる倶樂部を所有して居る。極暑の候を除いたる外、各日曜交代に其所屬競馬場を公衆の觀覽に開放する。屋外の一娯樂たるのみでなく、馬券による射倖心と、社交界の紳士淑女の交遊機關たるとに於て、滿都の人士は吸はるゝが如く之に集まるを常とする。此他サン●バウロ市バラナ及リオ●グランデ●ド●スル州に於ける競馬倶樂部の如き、興行としてリオ市

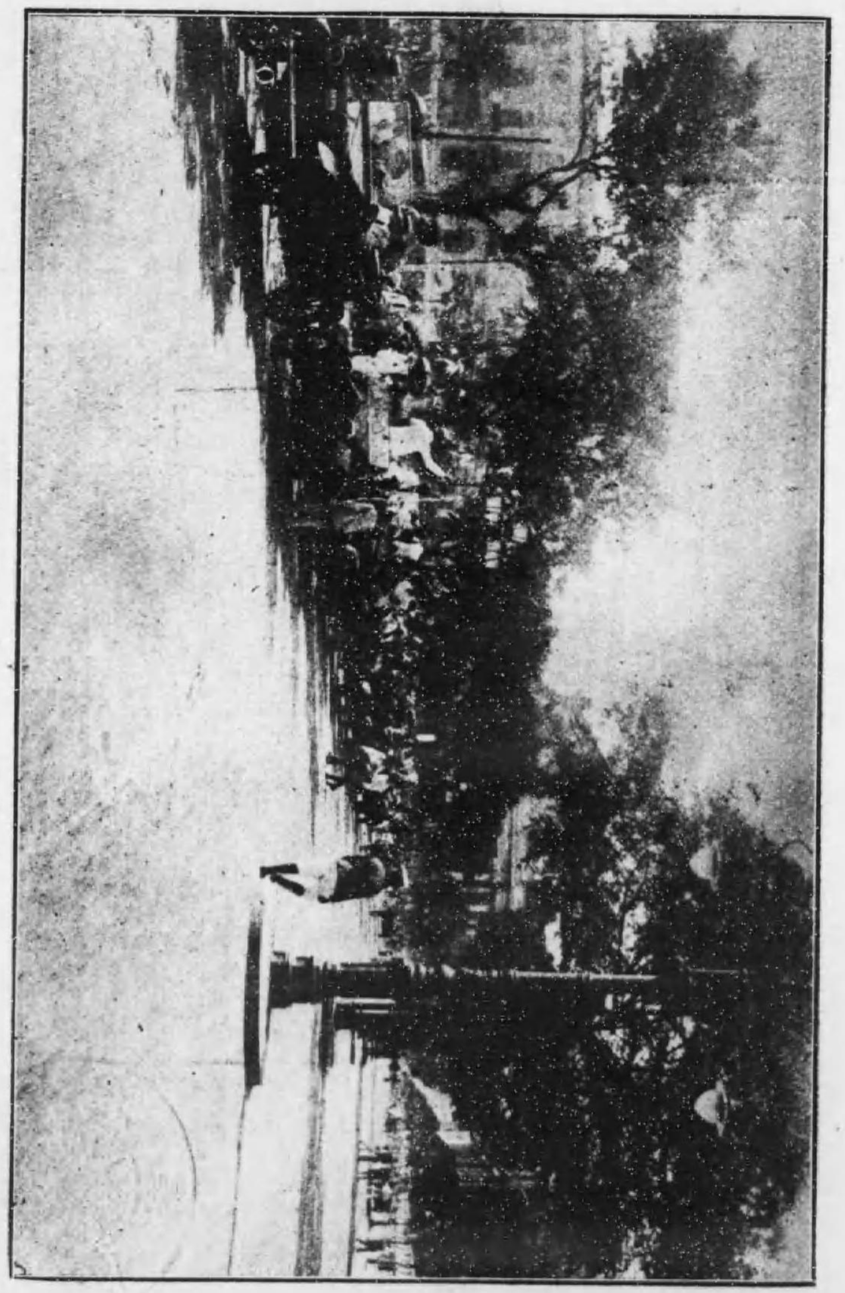
に讓らざる効果を收めて居るが、こは伯國人が國產の馬匹により、騎士としての競技に滿腔の興味を置く所以であつて、僻陬の地に在ては、男女共に好騎士であり、馬に對する特殊の愛護を示して居る。

第三の競漕は又伯國人の戸外運動の一つである、曾つて、海を征服せる葡萄牙人の子孫たるを思はしめるものである。リオ市ボタフォーゴの海岸には、幾多の倶樂部があり、又一大競技の爲めの常設觀覽場が好位地に設けられてある。日曜日乃至其他の休日に、パン●デ●アスカルの雄峯の聳ゆる下に、紅白の標旗を飜がへしつゝ靜かなる灣內に短艇の右往左往するは、陸上より眺めては一幅の繪畫とも稱すべきである。又其大競漕會に當つては、社交界はいふに及ばず、共和國大統領、政府の大官を初め、內外の名士をも集め、眞に盛觀を極める、千九百二十二年獨立百年祭擧行の際の如き、全都の倶樂部は其長艇短艇を滿飾してボタフォーゴの入江に集り夜に入りては南方人の嗜好たる仕掛花火を催し、さしもに廣き灣內を不夜城と化し伯國人の趣味と氣慨とを遺憾なく發揮するのであつた。

蹴球及漕艇は主として男子の運動であるが、伯國の婦人が戸外娛樂の一として最もよく嗜好を表はせるものは、所謂自動車のジョイ●ライド卽ち遊山乘りである。伯剌西爾の都市の二三にありては、其遊步區、公園、海岸通り等決して歐米の都市に劣るものではなく、寧ろリオ市の如きは世界に比類なき車道を有し、自動車の如きも背後にコルコヴアード、テジュカ、乃至ペトロポリス市等を有するが故に、一般高速度の自動車が其大部分を爲して居る。リオ市の休日、祭日は一家族とも見ゆる連中の、榕樹の綠滴たる海岸遊步區に自動車を驅るもの多く、殊に夏の夜の夕涼に外洋の風を受くるレーメ、イパネマの海岸は此等の遊山乘りを以て輻輳する。彼等は自動車を以て貴族的又は上流に限るものとする我國人の觀念とは異り、社會の上、中、下を通じて、只十數ミルレースの貯へだにあらば、直ちに妻子眷屬を無蓋の乘用車に乘せ、無邪氣なる數時間の快樂を貪るのである。而して自動車上の人と爲る

ことは、伯國都會の男女に取つては、特殊の興味を唆る物の如くである。彼の毎年二月に於て行はるゝカーナヴアル(謝肉祭)は、極度に此嗜好を表はせるものであつて、其三日に亘るリオ市内自動車の駛走行列は、南米に於ける評判ものゝ一つである。自動車上の男女は多くは假裝であり、五彩のテープを前後左右に拋散し、小瓶入の香水を誰彼の區別なく撒し、有る限りの無節制と放縱とを其三日の特權とする。派手といひ見得といふ、何れも南方男女の特性を爲すものであるが、年中の見得と派手とをカーナヴアルに集めたるかの觀がある。他の三百幾十日の粗衣粗食に得たる儲蓄を、此の三日に空費すといふ如き、又以て其一斑を見ることが出來よう。

されど以上に擧げた遊戯運動は、男女に於て、又老若の年代に於て各々其制限を有するものであるが、茲に伯國人全部に亘つて、北はアマゾナスより南はリオグランデ・ド・スルに至るまで、例外なく其嗜好たるは富籤である。彼等は食事を日常の事と爲す程度に富籤を買ふことをする。時としては食事を節してサンタ・カタリナの



リオ・デ・ジャネーロ市謝肉祭

一票に數ミルレースを投ずることを辭しない。伯國の都市といふ都市、何れの町にも富籤店がある、然かも堂々と門戸を張つて居る。紳士も番頭も學生も女中も買ふ如く、子供も老人も乞食も籤札を賣る。そして富札を手にしないといへば、彼等は之を以て人間外れの如く感ずる。

富札を買ふ伯國人の心は、言ふまでもなく百發千發に一中を期する冒險であり、射倖心である。其由來を尋ねたならば葡萄牙の祖先より得たる遺傳性ともいへやう。招かざるに赴く自然の賭博性は、恰かも北米人が野球に赴くに比ぶべきである。伯國の富籤は政府の許可に行はるゝものであつて、之に何等の僞善なく、又何等の奸曲がない。卽ち聯邦政府は伯國富籤會社に特許を與へて、公然の營業とし、監督を嚴にすると同時に、會社自身も亦公正潔白を誇りとする、會社の政府に對する公納金は、資本の千分の三十五、公衆に發賣せる籤札價格の一割、及び懸賞金額の百分の五であり、外に相當額の供託金を政府に預け入れる定めである。又會社の幹部と

しては、實業界有數の士又は前大臣等を含むこと珍しくない。卽ち伯國に在りては富籤を默許するのではなくて、之れを創立し監督し且つ奬勵するものといふことが出來る。而して開票は殆んど毎日之を行ひ、當籤者は時として數十萬圓の俄大盡となる。が大多數は例によつて例の如き失望者であつて、幾分の割增に當りつくをせめてもの幸運となすのである。

所謂官許富籤の外に「ビショウ」がある、恰も我國に於けるチーハーの如きものといふべく、當局者の目を掠めて流行するものであつて、零碎のミルレースを資本として、一攫千金を夢むこと毫も前者に異る所なく、伯國人の下層に最も廣く行はれて居る。

第七章　伯刺西爾の內政及外交

第一　內政

千九百二十二年七月四日、リオ市の外洋に面するコバカバナ砲臺より迸れる數發の巨彈は、轟然として滿都の市民を驚かし、アヴエニダ大通りをいつもの群集に似ず、夜の如く寂然たらしめた一事變が勃發した。之と相前後して陸軍士官學校の暴動、聯隊の出動又は軍艦の港外遊戈など行はれ、椰子の木蔭美しきリオ市の市街を恰も戰時狀態に入るの思ひあらしめたのである。

事の起りは元帥エルメスを首魁とする軍閥派の、時の大統領及び其一派に快からず、同志を糾合して將に一大直接行動に出んとせるを、早くも政府派の探知する處となつた爲めに、元帥の股肱たる砲臺司令官が先づ反抗の號砲を放つたのであるが政府はよく之に善處し、相應ぜんとする與黨を鎭定し、進んで彼等の降服を勸告した。けれど殘留者二十有八人は之に應ぜず伯國の國旗を割きて襷となし、國歌を高唱しつゝ官軍と戰ひ、悲愴の最後を砲臺下に遂げたのであつた。

或者は之に對し軍閥が其陸軍と海軍たるを問はず、常に伯國內政の禍根たるを說

き、南米諸國に共通の病源なりとし、又或者は伯國政界の暗流を暴露せるものであつて、南方リオ●デ●グランデの內亂と共に、黨閥、軍閥乃至其首領間の勢力爭ひに原因するものであると爲すのであるが、其何れを眞とすべきかは暫く措くも、伯國の政治が民主共和の最も進歩せる形式たるに拘らず、實際の運用は常に上流政治階級地主階級又は職業政治家の間に行はれ、從つて未だ國民の、國民の爲めの、及び國民に依つての政府たるの日に到達するのは、猶暫く距離ありとなすべきであつて、共和黨は今の政府黨として、殆んど其希望する儘に、實勢力を振ひ、反政府黨は只有れども無きが如く、否襟元に着く時流を露骨にして、概ね時の政府黨に走るを常態とする。大統領選擧は、國民參政の最も重要なる手段なれども、國民の七十パーセントを無敎育者とする伯國は、其選擧權の行使範圍極めて狹く、未だ國民の輿望を、選擧せられたる大統領に發見するか否かは疑問である。否大國伯剌西爾人の多數は、之を自家の重要事と感ずる政治意識以外に、彼等の思ひを凝らすものが他に存するかの如き、無關心の態度をとるのが普通であつて、政權の授受は暫くペロ●ホリゾンテとサン●パウロとを中心とする、數團の政治家に之を委任するかの觀がある。

伯國內政の大問題は今後の財政を如何にすべきかにある。共和制確立以來歐洲の資本を長鯨の如く吸ひ入れた伯國の負債は、今日に在つては決して輕き負擔ではない。四十億の外債といひ、又二十億の不換紙幣といふ、以て其大概を察し得べきである。けれど伯國は歐洲の老大國の如く使ひ古しの國ではなく、南米の新世界中にあつて最も天惠豐かなる未知數である。人を增し資本を投ぜば今日の禍ひを轉じて福と爲すこと決して不可能ではない。要は眞に伯國の憂ひを憂ひとする爲政家の輩出して其向ふ所を誤らざらしめるにある。

北米の憲法を模範とせる伯國は、二十州及び直轄州又夫々の憲法を有し、獨自の州政治を行うて居る。けれど北米の諸州の如く州領の開發洽ねからざる今日に於て

は、辛うじて其存在を維持するが如き狀態たるもの無しとせない。大西洋岸諸州は之を內方諸州に比して有利の地位を占め、海外貿易に於て多少優勢なりとするも、內地鐵道の普及せざるが爲に、未だ全く其長所を發揮するものとは言へない。而して二十州の同胞州中に在つて、海を有せざるミナス・ジェラエスと、海を有するサン・パウロ州とのみ隱然として重きを爲し、時に獨立說を傳へて、聯邦制の脅威となつて居るが、こは所謂州際政治の思惑であつて、之を眞面目に實現せんとするものは恐らく皆無であり、又之れが實現は蓋し不可能であらう。

第二　外交

葡萄牙亞米利加である伯國が、西班牙亞米利加である隣接諸州に對し、後者の歷史が革命と戰爭とに富めるに反し、常に平和の愛好者たるを示したことは、最も著しき事實といはなければならぬ。例へば亞爾然丁との戰爭乃至ウルグワイ、パラグワイ戰爭にあつても、隱忍暫くせる後始めて干戈を動かせるものであつて、自ら進んで事を周圍に構へたものではない。而して其爭端の大部分は領土境界線の不確立より生せるものといふべく、之が爲めに共和時代に於ける第四期大統領ロドリーゲス・アルヴエスが千九百三年、ボリヴイア國との間にペトロポリス條約を締結して、廣大なるアクレ直轄州を得、又秘露國との條約により、アクレ州の一部及アマゾナス州の大地域を得、エクワドール及蘭領ギアナとの對境條約を結びたる如きは、何れも伯國の隣接區域を今日の如きものたらしめた必要手段たること改めて說く迄も無い。

更に南米に於ける主要國の一として、千九百四十五年亞爾然丁、智利、及び伯國の三國間に締結せる、所謂A（アルジエンチン）B（ブラジル）C（チリー）條約は、伯國をして南米諸共和國中にあつて、平和を維持する爲めの一重要素因たるを實證せるものである。而して該條約は、千八百九十九年伯國智利間に締結せる條約、千九百二年亞爾然丁、智利間に締結せる條約、千九百五年亞爾然丁伯國間に締結せる條

約等の補足として、仲裁規定を設け、關係國間に生起せる爭議は之を常設委員會に附議して其裁決に待つことゝし、直ちに直接行動に出づることを避け、出來得る限り平和的解決を發見せんとするを其根本の動機となせるものである。識者は之によつて戰爭を未然に防ぎ、且つ負債國にとつて更に負債の原因たるべき軍備を縮小するを得ば、期待以上の實果を收むるを得べしと爲して居る。又ＡＢＣ條約は汎米主義の大旆の下に、南下を謀る北米に備ふるものと爲すものもある。而して昨千九百二十三年智利サンヂャゴに開催せられたる汎米會議に際しては、伯國は他のＡＣ二國與と共に、重要なる役目を演じた事は亦言を俟たない。

斯くの如く南米の諸共和國間に欝然として、其重きを爲す伯國は、第二回海牙平和會議以來世界に於ける外交の舞臺に參加し、殊に歐洲大戰爭に際しては、北米の參戰と同時に又聯合國側に投じ、巴里平和會議の開催に當りては、前大統領エピタシオ●ペッソア氏を主席代表委員として送つて居る。而して千九百二十二年伯國獨立百年祭を擧ぐるや、歐米の諸國は何れも其國有數の人物を特派大使として參列せしめ、又記念博覽會の開設あるや、均しく其國產を送りて將來の通商を謀れるが如き、世界に於ける伯國の地位の、次第に高まり行くを證明するものといふべきである。就中對伯施設の最も著しきは北米合衆國であつて、先きにはエリユー●ルート及ペーンブリッヂ●コルビーを送り、又記念祭特使としては、現政府の外務卿ヒューズ氏を派遣し、博覽會參同の爲めには一百萬弗を投じて居る。從來英國海軍教官を招聘しつゝありし伯國が、昨年之を改めて米國海軍教官とせるは、南北兩米の二大共和國が更に親善の度を加へたる證左たらば、北米の努力の無効たらざるを語るものである。

第二編　伯刺西爾と同胞移殖民

第一章　移殖民の本義

茲に伯國と同胞移殖民とを說くに當つて、何故の移殖民か、換言すれば移殖民とは何ぞや、を一段明瞭としなくてはならぬ。

吾人がこゝに絮說する迄もなく、我國朝野が海外移住、海外移殖民を說くこと頗る古く、常に其發展を促し來つたのであるが、最近に至つては益々其聲を大にし、國家百年の大計懸つて此一事にあるべしと迄力說するに至つた。而して其理由とする所必ずしも同一ではないが、其内の一說として廣く世人の口にするは

第一　我國人口の增加

に對する緩和策として、海外移住を奬勵せんとするものである、然り我國の人口は年々八十萬（一九二五）と稱する驚く可き數字を以つて純增加を爲しつゝある。之に對し在來の日本國土は餘りに狹隘である。土に親しむを國本とし來つた我同胞も、限りある耕地に、限りなく增殖し行く男女の農民を引き留むること能はず、工業地の發達と共に、人々の都會に志すを如何ともすることは出來ない。之が爲めに却つて農村の荒廢疲弊を見るに至つたとも傳へられてあるが、地方の經濟狀態は今日の現狀を持續する限り、永く彼等を定着せしむる理由を持たぬのである。否單に經濟的壓迫は農村の事のみではなく、大戰の餘殃として其繁榮を誇つた都會、工業地に在りても、今は彼此の區別なく、同一の運命に遭遇しつゝあるのである。此時に當りて八口の家族の内三口を外に移して、生活上の緩和を謀るが如く、人口增加を理由として國民の海外移住を勸說するものあるは、蓋し理由なき事ではあるまい。

併し乍ら余輩の見を以てすれば、こは甚だ淺薄なる移殖民論といはなくてはならぬ。何となれば先きにいへるが如く、八口の家族が、不相應の家族數なるが故に、其二三を外に移さゞる可からずと說くに際し、何人が其移さるべき二三に當るであ

らうか？　而して又何れに向ひ、如何にして行くべきであらうか？　試みに我國移民史の數頁を繙いたならば、之に對する解答は容易に發見せらるゝであらう。即ち布哇、北米、加奈陀の如き邦人の其地移住を望むこと如何ばかり切なるものありとするも、國際的關係は其發達を抑へて、明治初年來の渡航者と其子孫とを合せて、現在の總數四十萬にも達せしめず、滿州朝鮮の如き、事情自ら異るものと爲すべきであるが、其間に何等の障害なく、最も容易に移住殖民を企てらるべきに拘らず、未だ世人の期待するが如き發達を示して居ない。即ち漫然として邦人の海外移住の理由を、人口の增加に對する緩和策に置かんとする論者の希望とは、甚だしき距離を有するものといはなければならぬ。即ち一國民の海外進展は、行けよとの命令勸奬に實現せらるべきではなくて、行かんと欲すとの飽くまでも個人的希求に根柢すべきものたるを覺らなくてはならぬ。換言すれば他動的にあらずして自動的であらねばならぬ。之だにあらば何人の說明慫慂も必要とせずして、自ら其志の向ふ所に任せ、人は世界の四隅に赴いて其歸るを忘るゝであらう。

然らば吾人をして此自發的移殖に導くものは抑も何物であらうか？　祖先以來永住の鄕國に思ひを殘して、萬里の異域に新らしき運命を開拓すべく、雄々しき決心を起さしむるものは何であらうか？　活氣橫溢の青年は、單調無爲に堪へ難くして、冒險を喜び、深く考ふる事なくして海外に志すこともあらう。困憊蹉跌に身を措く能はず、萬事を白紙にして再擧を志し、或は南洋或は北米に向ふ壯者もあらう。或は少しく覇氣を抱くものにありては、秩序と整頓とを桎梏となし、所謂帝國建設を夢みつゝ、暫く三等船室に五尺の身を托する事もあらう。今日吾人の同胞にして海外に在る者、斯くの如くして渡航し又は渡航せる者の子孫たる者亦決して少くはあるまい。けれど此等は以て萬人の場合を說明するには足らない。行かんと欲して自ら動く爲めには、更に根本の動機となるものがなくてはならぬ。然らば過去に於て我が海外移殖者の大多數を動かしたると同樣に、又將來の我が同胞をして之に赴

かしむる必至の動力は抑も何物であらうか？　吾人は之に對して、特に現今の狀勢に於て、又例外なく何人にも適用し得る點に於て、そは正に、

第二　よりよき生活

の追求であると斷ずるものである。

彼の生活難といひ、經濟的壓迫といひ、又は行き詰れる生活といふ、決して今日に始まれる流行語ではないのであるが、此等によつて代表せらるゝ實際は、毫も改善に向はずして、愈々深刻と痛切とを加ふるばかりである。農村の野人も、都會の文明人も、其敎養と程度と樣式とに差別こそあれ、均しく生活の脅威に懊惱する點に於ては全く同一である。人は社會人心の惡化を、今日より甚だしきはなしとし、之を政治的社會的施設に歸して居るが、更に其眞因に遡れば、我國上下に亘る生活の不安に源を發するものと見るべきであらう。而して生活の不安は、善良なる政治と共存共榮の眞精神に合する社會的施設によつて除去し得べしとするならば、生活不安は其の條件に於て、人心惡化の原因となるべきではあるまいか。

而して吾人の玆に言ふよりよき生活は近來の寵語たる文化的生活と全く同一の內容を指すのではない。否期する所は元より此處に存するのであるが、今日に於ける同胞多數のよりよき生活は、文化の二字によつて代表せらるゝ、精神的敎養的意義を重大の要件となす程に向上されて居ない。別言すれば、よりよき生活に物質的意義のみを以てせんとする程に、大多數の生活は逼迫であり、悲慘であり、遣る瀨ないのである。麵麭のみにて生くるものにあらずといふを次の段階として、不取敢生くるに無くてはならぬ麵麭を得んとするものである。

布哇と北米の太平洋岸に在留する同胞は、約二十五萬と稱し得べきであらう。而して彼等は朝に其活動の範圍を狹められ、夕に既得の權利を奪はれんとして居る、國際的辭禮と、有志家の會合とは如何ばかり慇懃であり、頻繁であつても、同胞に對する排斥の火の手は嚴肅なる立法となつて刻々に現はれて來る。此地よりして之

を眺むるならば、堪へ難き侮辱とも壓迫とも感せらるゝのであるが、在米の同胞は容易に第二の故郷を去らうとはしない。結婚を禁ぜられ、勞働を奪はれても猶且つ馬鈴薯を作り葡萄を作り、米を作らんとして居る。而して七月一日以前を合言葉として、渡米を企てた再渡航者を横濱埠頭に見た者は、更に更に此感を深くするであらう。何故であらうか？　一言にして之を盡くせば、よりよき生活を其地に營み得るからである。精神的不快は、加州の空にも似ず陰欝に常に彼等を掩うて居るのであるが、彼等はそこに故國の同胞が求めて得ざる生活の第一義たるパンと共に、近代文明の齎す、便安と快適とを得らるゝからである。

伯刺西爾の內地は未開である。北米の到る處に見るが如き物質文明の賜たる施設は之を發見する事が出來ない。けれど夫れにも拘はらず我同胞の求むるよりよき生活の可能性は無限である。故に同胞の伯刺西爾に志す者は、當に此心を以て彼の無邊際の沃野と、人跡未到の大森林と、無盡藏の鑛產とに臨むべきである。國勢の伸展と云ふも、民族的發展といふも歸する所は此志を抱く個々の集團に成立するのであつて、これを外にして海外を說き移殖を論ずるのは、空粗であり、本末顚倒である。然らば如何にしてこのよりよき生活を成就し得るであらうか。之に對して人は同胞移殖民の特質とせらるゝ、不斷の勤勉と、不撓の耐忍とを擧ぐるであらう。然り斯くの如きは洵に邦人の具備せる美德と稱すべきであつて、之れ有るが爲めに海外に於ける我同胞の聲譽を揚ぐる事決して鮮少ではなかつたのである。されど母國を出でゝ外邦に居住するに當つては、更に他の要件に待たずしては、啻に其志しを達するを得ざるのみでなく、却つて其美德の故に禍を受くること無しとしないのである。然らば其要件とは抑も何物であらうか？　吾人は之れを指して

第三　環境に對する適應

と爲すものである。平たく云へば鄕に入つては鄕に從ふの諺に據ることである。

飜つて思ふに北米移民の盛んなりし當時、我同胞はよく環境に適應することを勉

めたであらうか？又斯くする事に依つてのみ其志を達し得る事に思ひを廻らしたであらうか？北米の人は邦人を說くに只正直と勤勉とを以てし、殆んど他の用語を知らざるものゝ如く異口同音であるが、當年の我同胞は他の勞働者の日曜に山高帽を戴くに拘らず、鳥打と中折とのみを用ひたではなかつたであらうか？又米國の農夫が日曜日を安息日として、粗末なれども一張羅の晴衣に、敎會行きを格守する際、前日の如く又鋤犁を手にすることを爲さなかつたであらうか？其國の國語に熟することを先きとせずして、唯在來の方言に異國人を驚かすことをしなかつたであらうか？自由と放埒とを穿き違へ、節度と抑損との衣を故國の港出帆と同時に脫ぎ捨て、老若長幼の別を撤し、幾千年の歷史と敎養との背景なきものゝ如く行動しなかつたであらうか？否米國の國法と習慣と風俗とに對して、如何程の尊敬を拂うたであらうか？

米國人は吾同胞を常にジャップと呼びなして居る。吾人は之れを輕侮嘲笑の語なりとして憤慨する。されどこの語の含蓄を別として、彼等の輕蔑に價する行動が果して無かつたであらうか？又何故に我同胞移民の先輩は、少くとも其先驅者たるの義務として、土地所有を禁止せられ、米國市民たる己が子女の保護者たるべき權利を剝かれたる後に於て、始めて發起せられたる米化運動を開始しなかつたであらうか？數へ來れば悉くこれ鄕に入つて鄕に從はざるの歷史であつて、最もよく環境に適應せざるの證左を殘せるものといふも過言ではあるまい。

伯刺西爾には又伯刺西爾の習慣あり、風俗あり、敎化がある。早く之に同化親昵を企てないならば、北米の失敗を又南米に反覆することなきを保し難いであらう。而して其國憲法の前には人種異同を論せず、凡て平等なりと規定し、歸化を許し、土地所有を許し、喜んで外來の人を迎ふる伯國の寬容門も、今にして能く悟るところなくば、徐ろに閉鎖せらるゝの日なきを斷じ難いであらう。而してよりよき生活は、如何ばかり之を求むるに正直且つ勤勉であらうとも、遂に與へらるる事なくして終

るのみでなく、世界の四門悉く我に閉ざゝるるの時あるを誰か否定し得るであらうか？當事者はいふに及ばず、我國上下の考憂熟思を希望する所以である。

第二章　伯剌西爾に於ける同胞移殖民の現況

第一　同胞移殖民の現在數

以上の如く伯國殖民の問題は、今日に於ては最早議論の問題ではなく、直接實行の時代である。伯剌西爾の歴史と地理と、現狀とよりして、最も好望の移民地たるを說いた余輩は、更に事例を枚擧する代りに、同國移殖民の先驅者たる三萬五千の吾同胞の現況を記することが、最も適切であり、又直接必要の手段であると爲すものである。

尤も伯國に於ける吾移殖民の現在は、勿論今日に出來上つたものではなく、相應の年月と變遷とを有し、又單に一地方のみならず各州各地方に夫々の發展を遂ぐるが故に、其詳細を盡す爲めには、自ら歴史的に、また個別的に記述するを必要とする。けれど玆には前に言へるが如く移殖民の現況を直接に傳ふることを以て第一の主意とする。故に其代表的移殖民地の實地視察の結果を基礎として記述を進めんとするものである。

伯國に於ける同胞移殖民は大正十二年六月末に於て八千八十五家族、總人員三萬五千三百五十二人と稱せられて居る。本邦移民會社の先驅者として、皇國移民會社が明治四十一年四月日本郵船會社汽船笠戸丸を以て、一百六十九家族、總人員七百九十二人を渡伯せしめたる以來、本邦各移民會社の手を經て入伯せるものは、家族數七千四百十四、總人員二萬九千八百三十に及んで居る。而して此總人員と現在の總人員たる三萬五千餘人との差は、主として過去十五箇年間に於ける出生の增加と之に移民會社扱ひ以外の少數渡伯者と、並に北米諸國及南米の諸隣國より入國せるものとによるのである。

第二　同胞の增加

海外に於ける吾同胞は、出生率の高きを以て著しく世界の視聽に上つて居る。殊に北米合衆國在留の同胞の如きは、其多產なるの故に排斥せらるゝが如き情勢を招致して居る。而して伯國にあつても、排斥の聲如何は暫く措くとしても、其增加率は依然として顯著なりといふの外はない。卽ち以上の入國家族を以つてして、大正五年より大正十年に至る六箇年間に、男女を合せ六千九百八十一人の出生を見、內二千二百六十三の死亡人數を控除し、四千七百十八人の純增加を示して居る。是は生活上の安易と、伯國の氣候風土の影響によるか俄かに斷定し難しとするも、伯國が我同胞の增殖に好適の地たるは殆んど疑ふの餘地なく、移殖民政策の上より觀て看過すべからざる重大の事實としなければならぬ。何となれば海外發展の聲を大にし移殖民を重要の國策であるとしても、渡航地の氣候風土が邦人の繁榮に適しないならば、遂に何物をも期待し難いからである。伯國中殊に南方諸州が邦人の移住繁殖に適せりとの事實は、伯國移殖民の根本要件とすべきである。

第三　分布狀態

前にいへる三萬五千餘の吾同胞は、伯國の諸州に大體次の如く分布して居る。

州別	家族數	人員
サン・パウロ州	七、四二〇	三二、〇四二
ミナス・ジエラエス州（大河沿岸）	二八〇	一、一二〇
パラナ州（ソロカバナ鐵道沿線）	二九八	九五六
マツト・グロツソ州	一七八	一、二三三

サン●パウロ州在留人中、サン●パウロ市、サントス市及兩市附近の居住家族六百四十五、總人員三千百四十九を除きたる六千七百七十三家族、總人員二萬八千八百九十四は同州地方散在の邦人であつて、之によつて渡伯邦人の約九割まではサン●パウロ州在留たることが明かである。恰も北米合衆國に於ける加州の位置を占むるものといふ事が出來よう。而して伯國諸州中にあつてサン●パウロ州のみが、何故に

本邦移殖民を獨占するの觀ありやといふに、こは主として次の事情に由るものとなすべきである。

州政府の各國移民招致策として、渡航補助其他種々の便宜を與ふること、

本邦人の渡伯は重に移民會社の取扱により、又移民會社は營利上自ら此の如き好條件の提供ある方面を選みたること、

上陸港がサン・パウロ州にして、鐵道其他の交通機關が他州とは比較にならぬ程度に發達せる爲め、之によつて同州の各地方に分布せること、

サン・パウロ州の地が他の諸州に比して、氣候溫和、地味豐饒、從つて珈琲、棉花、米、砂糖、大豆等の栽培盛んなるが爲めに、邦人の渡航者にして農業の經驗者には、如何にも取り着きに便利であり、或は單に勞働者として、又は小規模ながら獨立農として其地に親しみ易かりしこと、

卽ち海外興業株式會社の如き、其過去の業績と現狀とは暫く別とするも、幾百萬の巨資を擁して、サン・パウロ州に殖民地を創始したるは、今日に於て本邦移殖民を三萬五千餘に達せしめた一つの原因であつて、邦人の伯國移民を談ずるに際して、見逃すべからざる事實である。

又將來に於て只勞働のみを唯一の資本とする家族の渡伯のみでなく、鑛山業、牧畜業、製紙業等の爲めに、本邦資本家の投資と事業計畫とを見ることゝなれば、サン・パウロ州以外のミナス・ジエラス州、マット・グロッソ州、パラナ州等にも、相應の同胞移殖民の增加繁殖を來たすことゝなり、今日の如き偏倚せる分布狀態を打破することが出來るであらう。

第四　他國民の伯國移殖

更に本邦移民は他の諸外國に比較して、如何なる狀態にあるかを知るために、次に千八百二十二年より千九百二十二年に至る一百年間に、世界各國より伯國に入國せる者の總數三百五十六萬七千三百六十五人に就て、其重なる國別を數字順に列擧

することゝする。

國別	人員	國別	人員
伊太利	一、三七八、八三六	土耳古	五四、一二〇
葡萄牙	一、〇二一、二七一	佛蘭西	二九、六六五
西班牙	五〇一、三八七	日本	二九、八三〇
獨逸	一二七、三二一	英吉利	一八、七〇八
露西亞	一〇五、二二五	瑞西	一一、三七五
墺國	七九、三〇五		

（瑞典、白耳義、和蘭、北米合衆國等一萬人以下の分略す）

前に述べたるが如く、本邦人の伯國移住は最近十五年來の出來事であつて、一百年以前に其起原を發せる葡萄牙、西班牙、伊太利等の諸國とは到底比較することは出來ない。又外來國民の系統中にあつて何れの國民が最も多數であるかとの問に對しては、伯國南部諸州に亘る伊太利系の約一百四十萬人を以て第一位と推さない譯には行かぬ。殊にサン・パウロ州に於ける伊太利國民の發展は、實に驚くべきものである。例へば人口三十七萬と稱するサン・パウロ市のみにて、其二十五萬は伊太利人なりといふに徴し、其一般を察知する事が出來よう。彼のマタラッツオ伯の如きは、始め一介の移民として渡航し來つたものであるが、今日にあつては、伊太利移殖民中第一等の成功者として、サン・パウロ市を中心に幾多の工場、商店を各地に所有し、目覺しき活動を續けて居る。又隣接のパラナ州に入れるものも決して少數ではなく、パウリスタの根據を以て誇つて居るサン・パウロ州は、やがて伊太利系の之に代るにあらざるやを思はしめる。

伊太利系に次ぐは葡萄牙及西班牙系の入國者である。歴史的に又は同種同文の關係より、葡萄牙人の渡來數の多いのは決して怪しむに足らぬ事である。而して獨逸人は南方のサンタ・カタリナ州、リオ・グランデ・ド・スル州を根據として、獨逸人特有の教養を其儘に移殖し、色彩最も鮮明と稱すべき殖民地を形成して居る。のみならず其組織あり統一ある殖民法は、伯國を目標として渡來し來る各國民中、最も學

ぶべきものゝ一つと稱せられて居る。

第五　移殖民と伯國

既に記せる如く其面積は三百三十萬方哩、我が日本帝國及領土の約十三倍半、又本土のみを比較すれば、約二十二倍に相當する廣大なる地域を有しながら、人口としては約三千萬人、一方哩平均僅かに九人餘に過ぎない伯剌西爾共和國は、其豐富なる資源と、比類なき生産とに於ては、世界第一と稱すべきである。而して南米大陸の概勢より見て、アンデス連山の東側に天惠豐がであつて、反對に其西側を貧しとするのであるが、伯國は其豐饒なる天惠を獨占するかの觀がある。卽ち未測量の大森林と、未耕耘の沃野といふが如き地上の富源ばかりではなく、金、銀、寶石、鐵鑛等の如き地下に埋伏せる富源亦測り知る可からざるものがある。のみならず全國到る處に大河あり、瀑布あり、所謂工業用白炭の利用極めて容易であつて、大農業國、大鑛産國、大工業國としての伯國を現出することは、只是れ時の問題であると言はなければならぬ。從つて伯國政府が夙くより是に着眼して、歐米の資本、南歐の移民を招致することを國策とし、年々多額の金と勞働とを輸入しつゝあるは、洵に當然の措置と稱すべきであつて、此方法を外にしては、伯國は永く天然の奔放を制御し、生産力の不羈を馴致することを望み得ないのである。

第三章　リベロン・プレート地方

第一　同地方の概況

サン・バウロ州リベロン・プレート市は同州珈琲の集散地として能く知られて居る。大小幾百千の琲琲園は何れも此都市を中心として散在し、單にサン・バウロ州の珈琲産地として知らるゝのみでなく、伯剌西爾聯邦中にありて最もよく知られた地方である。

本邦移殖民の此地方に赴くもの亦從つて多く、今日新たなる方面に珈琲園を開拓

せるものも、一度は必ず此地方の就働者であつたと迄言はれて居る。又ミナス・ジエラエス州とサン・パウロ州との州境を流るゝリオ・グランデ大河に沿ひ、其兩岸に移殖し、米作其他の農業に從事するものも亦決して少くはない。近年在サン・パウロ市帝國總領事館が、其分館をリベロン・プレート市に設置するに至つたのは、蓋し此發展に促された結果に外ならない。而して該地方在留の同胞家族は大正十一年七月余輩の視察の際に於て、家族數九百三十五、總人員三千七百四十に達して居る。其大部分は珈琲園就働であつて、或は獨立農として、或は半獨立農として、單に勞働者たるの域を脱したる者亦決して少くは無い。否我同胞の全體を通じて、漸次獨立農たるの傾向著しく、幾百アルケールの土地に、幾十萬本の珈琲樹を植付け嚴然たる一個の珈琲園主たるものを數ふべく、所謂大小のファゼンデイーロ（地主）を邦人中に見るを得るに至つたのは、洵に喜ぶべき現象である。今次に余輩の視察見聞を綜合して、同地方の主農業たる珈琲栽培は、如何なる平均年收支によりて營

157/152°
63/189°

まれつゝあるかを示して見よう。

第二　平均年收支

一アルケールに對する地主農の收入　（一アルケールは凡そ我二町五反歩）

精製珈琲平均　一、三五〇基瓦（約三百五十九貫）

此賣價　一、三五〇ミルレース（一ミルレースは當時邦貨の約二十五錢）

生產費　七二〇ミルレース

差引純益　六三〇ミルレース（邦貨約百五十七圓五十錢）

但し該地方に在つては、一アルケールの土地に植ゆる珈琲樹數は通常一千八百本として居る。こゝに一本と稱するは五六本相寄りて一株となれるを指すのである。而して其一千本より平均七十五基瓦を生產し、價格は上中下の各等品を取交ぜ、平均十基瓦につき十ミルレースを唱へ、生產費は十基瓦につき約五ミル、三百三十三レースの割に相當して居る。

之に對し獨立農たらずして被傭移民（コロノーと稱す）一家族の平均年收入は凡そ次の如く計算せられる。

收入			
珈琲手入賃	請負樹數七千本	千本に付一八〇、〇〇〇ミル	一、二六〇ミル
珈琲採取賃	五百袋	一袋に付　一、四〇〇	七〇〇
玉蜀黍	二牛車（約五千七百穗）	一車に付　七〇、〇〇〇	一四〇
豆	二十袋	一袋に付　一五、〇〇〇	三〇〇
粉	五袋	一袋に付　一四、〇〇〇	七〇
其他雜收入			二〇〇
合計			二、六七〇ミル

支出			
食費	一ヶ月	一〇〇、〇〇〇ミル	一、二〇〇ミル
雜費（衣服農具代等）			三〇〇
合計			一、五〇〇
差引純收入			一、一七〇ミル

以上は大人三名、卽ち働き得る者三名を有する家族を標準として得たる計算であつて、粉の如きは珈琲園の副產物として擧げたのではなく、自家の收入となるべきやう園外に植付けたものとしてである。雜收入の中には臨時の日給賃、豚、雞其他の家畜家禽類より生ずる小額の賣揚代金をも含めて居る。此處に掲げたる收入を得る事は、渡航後最初の一ヶ年には稍々困難とせられる。夫故多少なりとも珈琲園勞働に從事し、之に習熟せる後といふことが必要條件である。

却說以上に獨立農と被傭移民との年收支を掲げて、農民としての吾同胞は如何なる狀態にあるかを見たのであるが、之にはもとより年により豐凶あり、又市價の變動あり、地主と雖もこの平均收益を常收と爲すと言ふのではない。又被傭移民にありても、豫期し得ざる故障により請負額を完ふすること能はず、從つて豫定の利益を收め得ない場合がある。けれど該地方に於ける我同胞は唯利益高の多少をこそ問題とすれ、彼等の鄕里地方に於ける地主又は小作農の如く、年々缺損相次ぎ、負債山積

し、如何にして生計を營み行くべきかを苦慮するとは到底同日の談ではない、勿論人情、風俗、習慣を異にする海外萬里の異境に移り住むのである。祖先以來の永住の地に在るが如き精神的慰藉を望むわけには行かない。併し人間生活の根本問題である所謂「暮し向き」には何等の不足不滿なく、嬉々として星を仰ぎて出で、月を戴いて入るの勞働に從事し、幾許の儲財の後獨立の地主農となり、伯剌西爾人に倣うて「フアゼンデイーロ」たるを夢むことは、決して偶然ではないのであつて、日本に於ける生活難の解決は、海陸一萬三千五百餘哩を隔てたる南米の天地に發見せられたるを思ふものである。

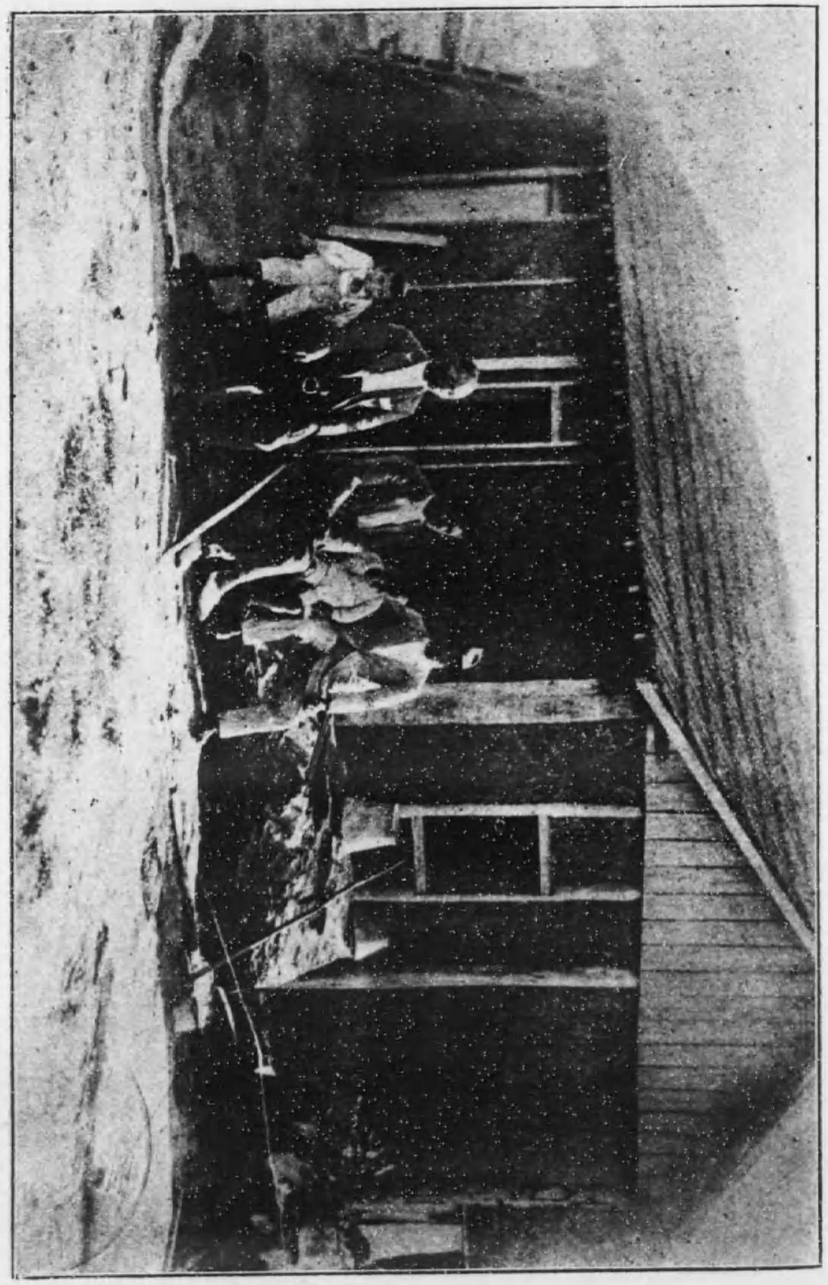
第四章　ノル・オエステ地方（西北部）

第一　新進のウニオンとプロミッソン

サン・パウロ州よりマット・グロッソ州に通ずるを西北線と稱する。此沿線に於ける我移殖民は最近急速の發展を爲し、彼の平野殖民地、「バルボサ」耕地、「ウニオン」耕地、「プロミッソン」耕地等の如きは、其最も聞えたるものであつて、一個の日本殖民地として前途ある今日の進境を爲せるまでには、幾多の犧牲と困難とに打勝てる結果たること固より云ふを待たない。然らば何故に此地方に斯く邦人移殖民の發展を見るに至つたのであらうか？前に記せるリベロン・ブレート地方は、珈琲產地として夙くより知られたるのみならず、今猶サン・パウロ州主產地たるの地位を占めて居る。けれど該地方は其大體より見て、珈琲產地としての全盛期は既に經過せるもの、從つて新しき產地は漸次他に移動の形勢にあるものとせられて居る。而して珈琲樹には植付後百年以上を數ふる老齡のものを見ること決して少くはないが、其產出量は之に逆比して次第に減じ行くを常態とする。又栽培地の如きは、之を放棄せる後尙數十年を經過するにあらざれば其生產力を恢復し難いものとなつて居る。故に珈琲園主の多數は、霜害少き標高五百米突以上の高原を他に探求調査し、

試驗栽培を施しつゝ新方面を開拓しようと努める。例へばリオ・デ・ジャネーロ市附近の地は、數十年以前には珈珈の主産地として知られたのであるが、今日にあつては殆んど昔日の觀なく、耕地は凡て他の農産物に充てられて居る。而してこゝに說かんとする西北部は、かゝる移動の結果發見せられたる新方面であつて、現今に於ては開墾の面積珈琲樹の植付、從つて其産額等に於て、非常なる增加を示して居る。本邦人の殖民地が比較的集團となりて、其間に一勢力を成すに至つたのは、この移動期に乘じ、多年珈琲園に在つて充分の經驗を有する者主腦となり、獨立農として其經營に當つたからである。

就中最も新進氣鋭、將來發展の程を想はしむるは、リンズ驛を去る數キロメートルの「ウニオン」耕地であらう。僅々五六年來の新開墾地なるが故に、結實を始めたる珈琲樹は數萬本を數ふるのみであるが、此耕地百五十家族中、或は五十アルケール、或は百アルケール等を所有し、又稀には一人にして一千アルケールにも亘り



ウニオンの耕地の邦人

て栽培を試みる者があり、こゝ兩三年には一百萬本以上の生産珈琲樹を得ること決して難事ではないと稱して居る。別して此耕地の特色とする所は、所謂一騎立ちの集合であつて、敢て主腦者を戴いて開墾植付けに從事したのではなく、況んや又巨萬の餘財を携へて此地に臨んだのでは更にないのである。唯同一の目的が、偶々我同胞を驅つて共同協力に向はしめたものである。而して處女林に斧鉞を入れては、主作、間作にたゞ必要を滿たす丈けの衣食を爲し、比較的高步の資金に依賴しつつ、營々として朧畝に親しみ、成功の一途に驀進する樣、眞に目覺しいものがあると言はなければならぬ。

之に比較すれば其隣接地とも稱すべき、プロミッソン耕地、又の名上塚殖民地は稍々其趣きを異にして居る。此には資本の融通に當つた中心人物がある。邦人移殖民の此地に集まり來るものを、一定の方針と取立てゝ持囃す程のことはなくも、周圍の者の仰ぎ見る程度に於て、統一ある經營と計畫とを示して居る。卽ち耕地の區

劃整理、日用品の供給、共濟互助の機關より、敎育、修養の事に至るまで、唯何となく實行を續けるといふのではなくて、自ら根據があり、或程度の纏りを示して居る。物質的勢力のみの潑溂横溢を特色とする筈の異境新開地にあつて、多少なりとも精神的發動の標徵を見るのは、余輩視察者にとりては、眞に空谷の跫音たるの感があつた。

併し乍らこれとても固より比較的のことであつて、前者と後者に格段の相違ありと言ふのではない。一望千里の高原の地を相して假小屋に均しき丸木の住宅を造り、牛、馬、雞、豚悉く其周圍に放牧し、日常の必要より、衞生、交通凡て今日の都會生活者の夢想だも及ばざる環境に在つて、營々として勞作に從事して居る。物質的といはず、將た精神的といはず所謂近代文明の齎せる便安利澤に遠ざかり乍ら而かも風俗習慣を異にする別個の世界に起居するのである。幸ひに學校の設けある地方は、辛うじて子女を之に送ることが出來るが、青年男女に對する修養と娛樂との設備は殆んど絶無といふに均しい。故國村人が春秋二季の鎭守祭を年中の行樂日とするたよりもなく、剩へ一旦病魔の襲ふところとなれば醫藥の不便と戰はなければならぬ。電車と昇降機とに馴れたる都人士より見れば、斯くの如くしても猶生活し得るものであるかと唯驚愕の外はあるまい。

幸にして吾同胞移殖民は、古きに昵む追憶者の感じ易さとは別個の意氣を有して居る。彼等は幾百アルケールの處女林を切り拓き之に種子を卸す際は、自然を脚下にする征服者たるを思ふのである。綠したゝる若葉の朝風にゆらぐ珈琲園の、遙かに空と打ち連なる邊りに、巡視の馬を進むる際は、さながらに一城一國の主たるを感ずる。市に買ふはたゞ鹽と石油とのみ、他は悉く之を前庭後園に求めて餘りある豐かさには、彼等は物語りに聞く王侯の富を想はざるを得ない。故國の同胞が因襲と慣習との壓迫に身動きならぬ苦悶を訴ふるとき、彼等は亞熱帶の高原に心ゆくばかりの大呼吸をつゞける。而して斯くの如きは余輩の驚異たる彼等不斷の辛勞と、